

國立臺灣大學文學系日本語文學系



碩士論文

Department of Japanese Language and Literature

College of Liberal Arts

National Taiwan University

Master's Thesis

日本語における漢語の意味変化に関する一考察

—「深刻」を中心に—

A Study on the Semantic Change of Sino-Japanese Words in  
Japanese: Focusing on “Shinkoku”

林祐儀

You-Yi Lin

指導教授：林立萍 博士

Advisor: Li-Ping Lin, Ph.D.

中華民國 114 年 7 月

July, 2025



## 謝辭

能完成這本論文，要感謝的人實在太多，首先，最感謝的是指導教授林立萍老師，付出了不亞於我的時間與心血在這本論文上，除了在論文的寫作之外，還教導了我很多做人處事的道理，並在我瀕臨放棄時，老師從不對我說「來不及」，這給予了我莫大的鼓勵與支持。在此想再跟老師說聲感謝。

再來，感謝擔任提案審查委員以及口委的兩位老師，林玉惠老師與江雯薰老師，在兩次審查中都給予了我相當寶貴的意見，讓這篇論文可以變得更好。也感謝慧君老師在公開發表時的鼓勵，雖然可能只是不經意的一語，卻成了我在低潮時的支持。

謝謝莞婷，時刻在我左右。雖有工作在身，卻還是抽空來台北，聽我的訴苦，並給予我客觀的建議，讓我的壓力可以得到有效的排解。感謝我的家人，尤其是我的兄弟，廷勳與玹承，還有兄嫂茵茵，讓我在這個陌生的城市也能感到家的溫暖。

雖在第一頁，但卻是終點與回庫。一路走來跌跌撞撞，還是完成了這本論文，心中有著太多的感觸。就讀研究所的期間，發生了太多，讓我的身心與精神都受到了一定的打擊，連續多年的失眠，以及揮之不去的憂鬱讓我多少個晝夜都曾想過放棄，然而最終還是得以完成。這份感慨實在難以用短短數語表達，就簡單地跟自己說一聲「辛苦了」

希望之後的早晨，我能在陽光的照射下緩緩醒來，此時的陽光已不再毒辣而是溫暖，不安、悲傷也早已離我遠去

Per aspera ad astra



## 摘要

日文中存在著大量的與中文相同的漢字語彙，其中不乏許多與中文的語義相同，然而，一部分的漢字語彙在日文環境中長年累月的使用後，逐漸發展出日文特有的語義，而呈現出跟中文同字卻不同義的情況。

其中「深刻」一詞就屬於此，同為中日兩語言中都存在的語彙，卻在現代兩語言中呈現出截然不同的語義。在中文中，「深刻」通常會用來表達文字、影像等內容等令人難忘，如：印象深刻，然而在現代日文中「深刻」卻常被用於形容災害、危機等的程度甚劇等方面使用。然而將時間倒回較早的 1900 年代，兩語言的「深刻」卻有著較相近的用法，且在日中兩語言個字的字典中，皆記載著「用刑殘酷」的意思，因此推測兩語言的「深刻」或許存在聯繫。本研究為了釐清兩語言中「深刻」的淵源，使用了各時代的語言資料，抽出各時代中「深刻」的使用例，再以『日本國語大辭典』中的意思將其分類，並以百年為單位進行考察。

根據調查結果，日語的「深刻」約在 1400 後期開始在日語中被使用，且當時多在解讀中國典籍的註釋書「抄物」中出現，並與當時中文「深刻」的意思相同，多為「用刑殘酷」。然而，在後續的使用期間，原本的中文意思並未在日文中穩妥扎根，而使作為與中文關聯性強的意思，在漢文的解釋，字典中使用並逐漸式微，而日文獨特的意思則約出現在 1700 年代左右，並在後續的使用中逐漸過張其語意及範圍並在 1900 年代左右成為日文中主要的意思。

通過本調查，「深刻」即使在現代中日兩語言中的語義雖有相當大的出入，但根據時代的演變來看，兩國語中的「深刻」卻有不可分割的歷史淵源。根據對各個年代的調查，將日文「深刻」的各個年代演變歷程加以明確，為本研究中重要的成果所在。

關鍵字：深刻、漢語、中日同形語、同形異義、語義變化

## Abstracts

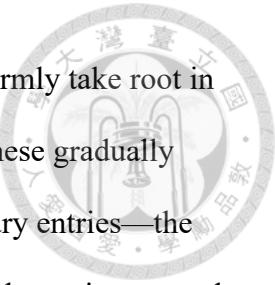


A large number of Chinese-character (kanji) words exist in the Japanese language, many of which share the same meanings as their counterparts in Chinese. However, some of these kanji words, after being used in the Japanese linguistic environment over a long period of time, have gradually developed unique meanings specific to Japanese, resulting in cases where the same characters bear different meanings in the two languages.

The word “深刻” (shin koku) is a representative example. While this word exists in both Japanese and Chinese, its meanings in the two modern languages differ significantly. In Chinese, “深刻” is typically used to describe something deeply memorable, such as in the phrase “印象深刻” (deep impression). In contrast, in modern Japanese, “深刻” is often used to describe the severity of disasters, crises, or other serious matters. However, if we turn back the clock to the early 1900s, we find that the usage of “深刻” in both languages was more similar. Dictionaries of both Chinese and Japanese from that time record the meaning “harsh punishment” or “cruel punishment,” suggesting a possible historical connection between the two.

To clarify the origins of “深刻” in both languages, this study collected usage examples from various historical periods. These examples were categorized according to the definitions found in the Nihon Kokugo Daijiten (The great Japanese dictionary), and examined by century.

The investigation revealed that the term “深刻” began to appear in Japanese after the late 1400s, primarily in annotation texts (shōmono) that interpreted Chinese classics. At that time, the word shared the same meaning as in Chinese, often referring to cruel or



severe punishment. However, this original Chinese meaning did not firmly take root in Japanese over time. Instead, while the meaning closely related to Chinese gradually declined—surviving mainly in classical Chinese contexts and dictionary entries—the uniquely Japanese meaning began to emerge around the 1700s. From that point onward, it expanded its semantic range and eventually became the dominant usage in Japanese by around the 1900s.

This study shows that although the meanings of “深刻” in modern Chinese and Japanese differ significantly, there exists an inseparable historical connection between the two. By tracing and clarifying the semantic evolution of “深刻” across different historical periods in Japanese, this research makes a significant contribution to the understanding of semantic change in Sino-Japanese vocabulary.

Keywords: shinkoku, kanji, Sino-Japanese cognates, same-form different-meaning words, semantic change

## 要旨



日本語には中国語と同じ漢字語彙が数多く存在し、その中には意味も共通するものが少なくない。しかし、一部の漢字語は日本語の環境下で長年にわたり使用される中で、独自の意味を発展させ、同じ字形でありながら異なる意味を持つ語となっている。

「深刻」という語もその一つであり、中国語と日本語の両言語に存在する語彙であるにもかかわらず、現代においては両言語で全く異なる意味を示すようになっている。中国語では、「深刻」は文章や映像などが印象深いことを表す際に用いられる（例：「印象深刻」）。一方、現代日本語においては「深刻」は主に災害や危機の重大さ・深刻さを表す際に使われる。しかし、1900年代初期に遡ると、両言語における「深刻」の用法はより近いものであった。当時の日中両言語の辞書には、「刑罰の厳しい様子」という意味が記されており、両言語の「深刻」には一定の繋がりがあると考えられる。

本研究では、両言語における「深刻」の語源や変遷を明らかにするため、各時代の言語資料から「深刻」の用例を抽出し、『日本国語大辞典』における語義に基づいて分類を行い、百年を一区切り、その意味変遷を考察した。

調査の結果、日本語における「深刻」はおよそ1400年代後半から使用され始め、当時は中国の古典を注釈する「抄物」の中に多く見られ、中国語における「深刻」と同様、「刑罰の厳しい様子」を意味していた。しかし、その後の使用において、この中国語本来の意味は日本語の中で定着することなく、漢文の教科書や辞書記述といった限定的な場面でのみ残存し、次第に衰退していった。一方、日本語における独自の意味は1700年代頃から現れはじめ、次第に語義や使用範囲が拡張し、1900年代頃には日本語における主要な語義となつた。

この調査を通して、現代の中国語と日本語において「深刻」の語義には大きな差異が見られるものの、その語の歴史的な変遷をたどると、両者の間には切り離すことのできないつながりがあることが明らかになった。各時代の詳細な

調査により、日本語における「深刻」の意味の変遷を明確にしたことは、本研究の重要な成果の一つである。

キーワード： 深刻、漢語、中日同形語、同形異義、意味変化





## 目次

謝詞 .....	i
中文摘要 .....	ii
英文摘要 .....	iii
日文摘要 .....	v
目次 .....	vii
表目次 .....	x
<b>第一章 序論 .....</b>	<b>1</b>
1.1 研究動機 .....	1
1.2 研究目的 .....	2
1.3 研究方法 .....	2
1.4 本論文の構成 .....	3
<b>第二章 先行研究 .....</b>	<b>4</b>
2.1 語の意味変化について .....	4
2.2 「深刻」の意味変化について .....	7
2.2.1 辞書に見られる初出例と意味について .....	7
2.2.2 日中両言語における「深刻」の意味について .....	9
2.3 まとめ .....	12



<b>第三章 調査概要</b> .....	15
3.1 調査方法 .....	15
3.2 用例の収集について .....	15
<b>第四章 日本語における「深刻」の受容</b> .....	18
4.1 「深刻」の受容時期 .....	18
4.2 「深刻」の受容義について .....	21
4.2.1 1500年から1600年まで .....	21
4.2.2 1600年から1700年まで .....	23
4.2.3 1700年から1800年まで .....	24
4.2.4 1800年から1900年まで .....	25
4.2.5 1900年から1976年まで .....	28
4.3 まとめ .....	30
<b>第五章 日本語における「深刻」の変容</b> .....	32
5.1 変容が見られる1500年から1600年までの「深刻」及び意味② .....	32
5.2 変容が見られる1600年から1800年までの「深刻」及び意味③ .....	33
5.3 変容が見られる1800年から1900年までの「深刻」及び意味④ .....	38
5.4 変容が見られる1900年から1900年までの「深刻」及び意味⑤と意味⑥ .....	45
<b>第六章 終論</b> .....	55
6.1 結び .....	55



6.2 今後の課題 .....	58
参考文献 .....	59
付録 .....	62

## 表目次

表 1 用例の収録時期 .....	15
表 2 各データベースにおける「深刻」の用例数 .....	17
表 3 1400 年以前の日本語における「深刻」の使用状況 .....	19
表 4 各時代における「深刻」の意味 .....	57



# 第一章 序論



## 1.1 研究動機

日本語には、「深刻」、「丈夫」、「資料」などのように、中国語と同じ漢字で表記される漢語が存在している。しかし、同じ漢字で表記されていると言っても、例（1）と例（2）に示されている「深刻」のように、その意味が必ずしも同じとは限らない。

(1) その上で早め早めに専門医療機関への治療に回せば、深刻な事態を回避することは可能になるでしょう。

森部昌広（2003）『学校スポーツケガをさせずに強くする』

(2) 他們在觀照自然、體悟自然中，有較常人深刻的體驗。

『Sinica Corpus』

例（1）の「深刻」<sup>1</sup>は、日本語においては「厳しい、切迫し重大な様子」の意味で使用されるのに対し、例（2）のそれが中国語では「深く刻み込まれている様子」の意味である。

しかし、例（3）と例（4）のように、少し前の1900年代頃、日本語の「深刻」は、例（1）と意味が違い、例（2）と同様、「深く刻み込まれている様子」の意味で使用されており、中国語におけるその意味に近いと言えよう。

(3) 自然派は其の攻撃に耳を傾けて、更に現實を深刻に觀察し、超道德的文學を興して（後略）

長谷川天溪（1876）『文藝時評 超道德的文学』

(4) 一面よりして見て、佛典は畢竟深刻なる不満足哲學に過ぎず。

---

<sup>1</sup> 本論では便宜上、日本語の深刻を「深刻」、中国語の深刻を“深刻”で表記する。



以上からもわかるように、現代日本語の漢語には、表記においては、中国語におけるそれと同じであるものの、意味においては異なるものがある。

本研究は、試みに、「深刻」に焦点を当て、それがどのように日本語に取り入れられるのか、どのようなプロセスを経て現在のような相違が見られるようになったのかを探ってみる。これにより、日本語における漢語語彙の受容・変容の解明に資する資料として活用されることが期待される。

## 1.2 研究目的

本研究は、「深刻」を取り上げ、それがどのような経緯で日本語に取り入れられ、どのように使われてきたのかを、通時的な視点からその意味変化を明らかにすることを目的とする。考察に当たって、以下の二点に焦点を当てる。

- (一) 「深刻」はいつ、どのように日本語に取り入れられたのか
- (二) 「深刻」の意味にはどのような変化が見られるのか

(一)については、主に辞書と文献を手掛かりに、両言語における「深刻」の初出年代、意味や使い方を確認することである。これによって、日本語の「深刻」は中国語から取り入れた漢語なのか、日本発の和製漢語なのかを探ろうとするものである。(二)については、言語資料から見られる「深刻」の用例を通して、各時期の「深刻」の意味を確認し、通時的な視点から意味変化を把握しようとするものである。これにより、日本語の「深刻」の受容・変容の一端を浮き彫りにし、日本語における漢語の意味変化について考えてみる。

## 1.3 研究方法

本研究では、以下のステップを通して日本語の「深刻」がいつ、どのように、日本語に取り入れられるのか、その意味にどのような変化が見られるのかを探ってみる。



まず、関連する先行研究を検討し、問題点を考えてみる。

次に、辞書から日中両言語における「深刻」の初出例を確認し、意味上の相違について検討する。更に、初出例と同じ時期に文献から使用例の有無を確認し、意味の使用状況も併せて観察する。これによって日本語の「深刻」は中国語から取り入れられた漢語なのか、日本発の和製漢語なのかについて考える。

それから、文献およびコーパスなど現段階で入手できる言語資料から各時代における「深刻」の使用例を収集し、意味の側面から「深刻」の使用状況を考察し、通時的な視点から日本語の「深刻」の意味変化の特徴やプロセスを探る。

これを踏まえ、日本語の「深刻」の意味変化を考えてみる。本研究は、日本語における漢語語彙の受容・変容の解明に資する資料として活用すると同時に、中国語を母語とする日本語における日中同形の漢語の学習や教授の参考になると期待される。

#### 1.4 本論文の構成

本稿では以下の六章からなる。

第一章では、研究目的と動機について説明し、研究方法および論文の構成について述べる。

第二章では、辞書と文献から先行研究を概観し、問題点を浮き彫りにし、本研究の位置づけについて考える。

第三章では、調査例の収集と方法について述べる。

第四章では、収集した資料から日本語の「深刻」の受容時期について考察する。また当時の意味を確認することから、「深刻」を受け入れた意味の使用状況について検討する。

第五章では、各時代の言語資料から集めてきた「深刻」の用例に基づいて意味の使用状況を観察し、その特徴について考える。

第六章では、本研究の考察結果をまとめ、日本語の「深刻」の意味変化の全体像を浮き彫りにし、今後の課題について述べる。

## 第二章 先行研究



本章では、本研究と関連のある先行研究を「語の意味変化」と日本語の「深刻の意味」に分けて概観し、問題点について考える。

### 2.1 語の意味変化について

語の意味変化については、先行研究から以下の言及が見られる。

まず、『国語大辞典』（1980）の「意味変化」の項目によると、一語の意味変化とは、岩石が風化し、変色し、崩壊するような変化ではなく、同じ語が時間の経過のうちに他の対象、作用、概念を指して使われるようになることがあるという。その中、意味変化の形としては、縮小、拡大が挙げられる。

意味の縮小に関しては、中里（2002）があげられる。氏は、「まじまじ」を取り上げて、明治、大正時期の使用状況を考察した。氏によると、「まじまじ」は明治時期以前には「目をぱちぱちさせる」、「落ち着かない」、「眠れない」の意味で使用されていたが、明治、大正時期になると、「みる」という動作と一緒に使用され始め、現在日本語における「じっと見つめる」の意味へつながっているという。氏は、さらに、「じっと見つめる」行為は「まばたき」という動作が含まれないので、「目をぱちぱちさせる」という意味が薄れると並行して、「落ち着かない」、「眠れない」という意味もほかの語に移行したため、意味が縮小すると指摘された。これに対し、鍵主（2007）は、辞書の意味記述を参考に、2000年代前後の「やさしさ」に意味の拡大が観察されたと述べた。氏は「やさしさ」が2000年代前後の辞書で本来の「優美」、「柔軟」の意味以外にさらに「なさけ」、「おもいやり」、「しんせつ」などの意味項目が出現したことから、相手の心理を推量し配慮するという新しい意味が生じたことを推測している。

このように、意味の変化は、一語が時間の経過に伴って、新たな意味を獲得したり、従来の意味が縮小したりする現象と言っても過言ではない。

意味変化を考えるにあたって、柰（1994）の指摘も参考になる。



意味変化を考えるに際しては、その意味が変化した時代、変化を起こした文献群を解明する必要があり、そのため、日本文献を時代別、文章ジャンル別に分かち、それに基づいて詳細に考究を施さなければならない。さらに問題とする漢語と類義関係を成す他の語とを検討すると共に、その出自となった中国語と比較する必要もある。

栗（1995）はさらに漢語<sup>2</sup>に焦点を当て、その意味変化の特徴について以下のように述べた。

漢語の意味変化の基本的に和語を含めて一般的な場合に通じるものと変わりはないものと思われるが、中国語から受容した漢語が借用の語である点、漢字表記である点に於いてその変化には和語とは異なる特有のものがあると考えられる。（中略）亦、漢語の意味変化は、その出自である中国語の原来の意味と日本語で生じた新しい意味との間に何らかの形での類似性が常に内在すると見られるが、それを誘発させる、触媒的な働きをする言語外部の要因も往々にして存在する。（下線筆者）

つまり、漢語の意味変化を考える際、その出自である中国語の意味と新しい意味の類似性という内在する要因とその意味変化を誘発させる外部の要素という二つの要素を考慮に入れなければならないということになる。

これを受けて、漢語の意味変化を究明する際に、時代別に分けて各時代の文献に見られる用例を通時的に考察するのが不可欠なことである。この点については、張（2012）、張（2016）、栗（2016）からも裏付けられる。

張（2012）は、漢語の「勉強」を取り上げ、日中両言語における意味変化に重点をおいて考察を行った。氏は、まず『日本国語大辞典』（2000）を使用して、その初出例から日本語の「勉強」は、中国語出自の漢語であると指摘した。それから、その語釈から「勉強」の意味は、明治時期以前まで中国語と同じ「努力し

---

<sup>2</sup> 栗が述べている「漢語」は中国語出自の漢語を指す。和製漢語は含まれない。



て困難に立ち向うこと」という意味で使用されていたが、明治期に入ると、「学問、知識」の分野では「学問、技芸などを学ぶこと。珠算、習字などの技術、知識などを習い覚えること。」という意味が生じて、中国語と異なった使用方法が見られたという。

張（2016）は、漢語の「不便」を対象とし、先行研究から中国語出自の漢語であることを確認した上で、『日本古典文学大系データベース』<sup>3</sup>、『古文書データベース』<sup>4</sup>から用例を抽出し考察を行った。結果、上代までは、中国語とほぼ同じ意味の「不都合」で使用されていたものの、平安時代に入ると、そのほかに、「かわいそう」、「気の毒」など、主觀性の強い意味がさらに発展したと指摘した。

栗（2016）は、「馳走」を取り上げて、日本語の辞書や文献から、日本語の「馳走」は中国語出自の漢語であると指摘し、鎌倉時代まで中国語と同じ「人や馬等が走るまたは走り回ること。また、車馬を駆って走らせる」の意味で使用されていたが、鎌倉時期に入ると、さらに「食い物を求める」といった現在の日本語の意味に発展してきたと指摘した。

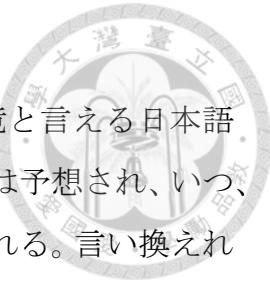
以上のように、漢語の意味変化を考察する際に、それが中国語出自の漢語であるかを真っ先に確かめるべきであること、辞書や文献の用例から意味の使用状況を把握することが肝要である。

一方、漢語が日本語に取り入れられ、何らかの要素の影響を受け、中国語の本来義が変化していくという大河内（1992：179）の指摘も参考になる。これについては、次のような言及が見られる。

（前略）同じ漢字で表記されるといつてもそれぞれに全く異なる言語の語彙の中にあるわけで、違いがあるって当然だが、多くの場合借用関係にある、出自を同じくする漢字語であり、本質的には同じ語が異なる文化、言語の中で異なる運用をされてきた結果の差異といえる。

<sup>3</sup> 岩波書店による公開されたデータベースで、2023年3月で公開を停止した。

<sup>4</sup> 東京大学史料編纂所による公開されるデータベースで、『中世法制史料集』などの史料を収録する。



これを受け、中国語から取り入れた漢語は異なった言語環境と言える日本語において運用された結果、独自の使用様相が生み出されたことは予想され、いつ、どのように変容するかは、まちまちであるということが示唆される。言い換れば、漢語の意味変化を考える際に、個々の語を個別に取り上げ考察しなければならないということになる。

## 2.2 「深刻」の意味変化について

「深刻」の意味や意味変化に関する先行研究には、大きく分けると、辞書の記述、日中両言語における意味の対応関係という二つの方向に分けられる。以下、順を追って検討する。

### 2.2.1 辞書に見られる初出例と意味について

この節では、まず、前掲『日本国語大辞典』を手掛かりに、日本語における「深刻」の初出例とその意味について確かめる。次に、それを中国語関係の辞書に照らし合わせ、日本語の「深刻」は中国語から取り入れた漢語であるかを考えてみる。以下前掲、『日本国語大辞典』における「深刻」の記述を掲げておく。

#### 深刻〔名〕（形動）

1(一する) 深くほりつけること。また、深く心に刻みつけること。深く胸を打つものが  
あること。また、そのまま。

※破戒（1906）〈島崎藤村〉二〇「悲壯な熱情と深刻な思想とは」

※三四郎（1908）〈夏目漱石〉三「堅い檼の板を奇麗に切り込んだ手際は素人とは思は

れない。深刻の出来である」〔新五代史・唐六臣伝論〕

2 物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること。また、そのまま。

※童子問（1707）下「公穀二伝、深刻過密、殆若解<sub>ニ</sub>隱語<sub>ニ</sub>」

3 事態が切迫し、重大なこと。言葉などが重大な意味をもつこと。また、そのまま。

※最暗黒之東京（1893）〈松原岩五郎〉一六「此の悲しむべき売食の事実が人



間の生活を説明するは極めて深刻(シンコク)なるものにして」

4きわめて殘忍なこと。むごいこと。また、そのさま。苛酷(かこく)。

※史記抄<sup>5</sup> (1477) 一六「是以後つよく法の深刻になったは趙禹から始ると云  
義ぞ」 [史記 - 義縱伝]

※それから [1909] 〈夏目漱石〉一六「僕は君から是程深刻（シンコク）な  
復讐（かたき）を取られる程、君に向って悪い事をした覚がないぢやないか」

※史記 - 義縱伝「趙禹・張湯、以深刻為九卿矣」

※漢書 - 宣帝本紀「察擅為苛禁・深刻不改者」

ここで注目したいのは、意味項目 4「きわめて殘忍なこと。むごいこと。また、  
そのさま。苛酷(かこく)」である。その出典は、『史記抄』で、中国の《史記》  
を読むための注釈書である。そのため、この例は《史記》からの引用で、意味も  
中国語と同様である可能性が高いと思われる。興味深いことにこの意味項目 4 の  
記述とその出典は、台湾の教育部が編集する『教育部重編國語辭典修訂本』<sup>6</sup> (2021)  
にも見られるということである。参考に、辞典に載せる“深刻”の語釈を以下  
のように掲げておく。

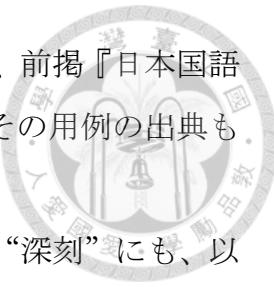
嚴峻刻薄。

《史記・卷一二二・酷吏傳・義縱傳》：「是時趙禹、張湯以深刻為九卿矣，然其  
治尚

寬，輔法而行。」《後漢書・卷一・光武帝紀上》：「頃獄多冤人，用刑深刻，  
朕甚愍之。」

<sup>5</sup> 史記抄：室町中期の、「史記」の注釈書。19巻。桃源瑞仙著。文明9年（1477）成立。当時の口語で注釈したもの

<sup>6</sup> 「教育部重編國語辭典修訂本」は中華民国教育部が編纂した中国語辞典である。本研究ではオンライン辞書 (<https://dict.revised.moe.edu.tw/index.html>) を参考にする。2025年6月15日に検索。



ここからもわかるように、台湾の辞書における“深刻”にも、前掲『日本国語大辞典』と類似する意味項目「嚴峻刻薄」が挙げられており、その用例の出典も中国の《史記》からのである。

さらに、中国で出版された《漢語大辞典》（2010）における“深刻”にも、以下の意味項目記述が見られる。

严峻苛刻。

《史记·酷吏列传》：“是時趙禹、張湯以深刻爲九卿矣。”

唐李翰《蒙求》詩：“張湯巧詆，杜周深刻。”

以上の二冊の中国語辞典に載せている意味項目はどちらも刑罰の厳しい様子を表している。また、その例と出典も《史記》からの一文である。つまり、中国語の“深刻”的用例は紀元前91年ごろに完成されたとした『史記』にも「きわめて殘忍なこと」という意味で使われるということがわかる。これを前掲『日本国語大辞典』における「深刻」の意味項目4に照らし合わせてみると、日本語の「深刻」は、日本で作られた和製漢語ではなく、15世紀後半ごろ『史記』を読むために「きわめて殘忍なこと」という意味で中国語から取り入れた漢語であると考えられよう。

### 2.2.2 日中両言語における「深刻」の意味について

「深刻」の意味とその変化に重点をおいて論じるものには、文化庁（1978）のほかに、林（2001）、王（2005）、任（2014）が挙げられる。以下、順を追って検討する。

文化庁（1978）は、外国人向けの初級・中級の日本語教材10冊から、よく出てくる漢語（1,882語）を取り上げ、その意味が中国語との重なり度合いによって次の四つのタイプに分類し、『中国語と対応する漢語』（1978、大蔵省印刷局）を公刊した。

S (same)：日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの。

O (overlap)：日中両国語における意味が一部重なっているが、両者の間にずれのある。



D (different): 日中両国語における意味が著しく異なるもの

N (none): 日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの。

その中、「深刻」は、0 (overlap) に分類され、次のような記述が見られる。

(日・中) 厳しい 例：非常に～する<批評得很～>

(日→中) 強い、深い 例：<～的印象>強い印象

(中→日) 嚴重、深重 例：～な社会問題<嚴重的社會問題> 国内問題は～である

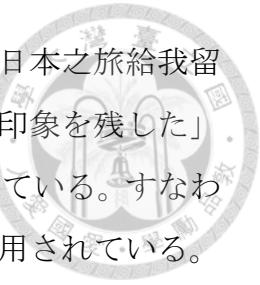
<國內問題是很深重的> (p. 91) (下線筆者)

この記述からも分かるように、日中両言語における「深刻」は、「厳しい」という意味が共通しているのに対し、日本語では「非常に深刻する」、中国語では「批評得很深刻」のようにそれぞれ異なった意味を持っている。さらに、中国語の“深刻”では「深刻的印象」という日本語にない意味を持って、日本語の「深刻」では「嚴重、深重」という中国語にない意味を持っていることがわかる。

文化庁(1978)の四分類で扱う中国語は、台湾、香港、東南アジアの中国語で、その意味の記述が中国で比較的新しい語彙や意味を反映した『現代中日辞典』と『現代日中辞典』を参照しているといった不備が指摘<sup>7</sup>されるものの、1978年前後の日本語における「深刻」の意味は、中国語の“深刻”的部分もあれば、違った部分もあることが分かる。

次に、翻訳問題を視野に入れた林(2001)と王(2005)の論考について検討する。林(2001)は、まず、『萬人現代日華辞典』(1985)にも『新時代日漢辞

<sup>7</sup> 詳しくは、荒川清秀(1979)「中国語と漢語—文化庁『中国語と対応する漢語』の評を兼ねて」『愛知大学文学論叢』62号、松岡栄志(1979)「日本語教育「村」と中国語教育「村」—文化庁「中国語と対応する漢語」をめぐって—」『中国研究月報』N0380、陳毓敏(2002)「日本語二字漢字語彙とそれに対応する中国語二字漢字語彙は同じか—台湾及び中国の中国語との比較」『言語文化と日本語教育』N024 (p40-53) を参照されたい。



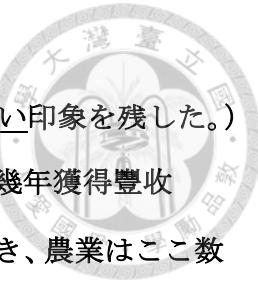
典』（2000）にも見られる「深刻な印象」の記述を取り上げ、「日本之旅給我留下深刻的的印象」を日本語に翻訳すると、「日本の旅は私に深刻な印象を残した」ではなく、「日本の旅は私に深い印象を残した」になると指摘している。すなわち、この“深刻”は「深刻」ではなく、「深い」という意味で使用されている。次に、『大新明解日華字典』（1983）を取り上げ「深刻な社会問題」を“深刻的社會問題”と訳しており、「重大な社会問題」の意味をしているため、“嚴重”に直すべきだと指摘している。つまり、日本語の「深刻」は好ましくない意味で使用されているということである。王（2005）も林（2001）と同様に、中国語の「深刻的印像」、「深刻的體會」の“深刻”的普通好ましい意味で使用されるのと違つて、日本語の「深刻」は「深刻な危機」のように好ましくない場合にも使用できると氏が指摘している。このように、林（2001）と王（2005）はどちらも「深刻」と“深刻”的意味上のずれについて言及したが、その原因については論じていない。

任（2014）は、「深刻」は日本語にも中国語にも日常的によく使用され、漢字圈学習者のもっとも間違いややすい漢字語であると指摘している。氏は、辞書に掲載された「深刻」の意味を確認した上で、中国語の《CCL 语料库检索系统》<sup>8</sup>と日本語の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』<sup>9</sup>（以下はBCCWJ）、『朝日新聞オンライン記事データベース』<sup>10</sup>から対象となる用例を抽出し、意味の使用実態について分析し、両言語における「深刻」の意味が完全に異なると指摘している。氏は次の例をあげ、「深刻」は日本語の「深い」、「大きい」という意で使用され、どちらもも「深刻」がそのまま用いられないと指摘した。参考にその用例を次のように掲げておく。

<sup>8</sup> 北京大学中国語言学研究中心による作成データベース。約7億の語例を収録し、その収録年代は紀元前11世紀から前代まで。

<sup>9</sup> 国立国語研究所が中心となって開発した日本語に関する大規模均衡コーパスである。書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがって1億430万語のデータを収録。

<sup>10</sup> 現在では「朝日新聞クロスサーチ」。過去の出来事を手軽に調べることができるオンライン記事データベースで、日本国内外の多くの大学や図書館などでご利用いただいている。1879年（明治12年）の創刊号から今日まで 約140年にわたる紙面から約1600万件の記事・広告が検索できる日本国内最大級の新聞記事データベースである。



- 巴黎之行給他留下了最深刻的印象。(パリの旅は彼に最も深い印象を残した。)
- 這一系列改革，使農村經濟發生深刻的變化，農業生產連續幾年獲得豐收  
(この一連の改革によって、農村の経済には大きな変化が起き、農業はここ数年にわたり大豊収だった。)

また、日本語の「深刻」も以下のように、中国語の“深刻”と対応しない。

- これはかなり深刻な問題である。 (這是一個相當嚴重的問題)
- 社長は深刻そうな顔でそう言った。 (社長表情嚴肅的這樣說道)

ここからもわかるように、日本語の「深刻」は、中国語でいう「嚴重」、「嚴肅」の意味で、“深刻”をそのまま使用するのが不可能であるとわかる。そして、現代両言語における「深刻」の意味は次の表に示されたような対応関係があると指摘した。

中国語	深刻の意味	日本語
○	物事や問題の本質に触れている様子	X
○	心に深く刻み込まれている様子	X
X	事態が非常に切迫して重大な様子	○
X	非常に切迫した事態に心かとらわれている様子	○

任 (2014:pp282) より

つまり、日中両言語における「深刻」の意味と用法が完全に異なるということになると言える。

## 2.3まとめ

本章では、まず「意味変化」とは何かについて検討した。次に日本語の「深刻」の意味にどのような特徴があるのかについては先行研究を探ってみた。結果は、以下のようにまとめられる。



1. 一語の意味が時間の経過によって変化する。
2. 漢語の意味変化を探る際に、それが中国語出自の漢語であるかを確認する必要がある。
3. 中国語出自の漢語が、日本語という異なる文化、異なる言語環境の中で運用される中に、意味の変化が発生した際に、中国語の本来義の影響が伺える。
4. 日本語の「深刻」の意味は前掲『日本国語大辞典』から4つ挙げられる。その用例の初出年代により、以下の順になる。
  - ①きわめて殘忍なこと。むごいこと。そのさま。苛酷。
  - ②物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること。また、そのまま。
  - ③深くほりつけること。また、深く心に刻みつけること。深く胸を打つのがあること。また、そのまま
  - ④事態が切迫し、重大なこと。
5. 日本語の「深刻」は、日本で作られた和製漢語ではない。15世紀後半ごろ『史記』を読むために「きわめて殘忍なこと」という意味で中国語から取り入れた漢語であると見られる。そして21世紀の現在においては中国語での意味と重なる部分が見当たらない。

しかし、同時に次の二つの問題点も浮き彫りになった。

1. 前掲『日本国語大辞典』の意味項目4に掲載された「きわめて殘忍なこと。むごいこと。また、そのまま。苛酷(かこく)。」意味は、いつまで使用されているのか。
2. 日本語の「深刻」は中国語からとり入れられてから、現在に至るまで、どのような意味変化を辿ってきたのか。つまり、いつ、どのように変容してきたのか。

本研究では、上記の問題点を踏まえ、各時代の言語資料を用い、日本語における「深刻」が、どのような要因の下でどのように変化を遂げ、現在では中国語の“深刻”と異なる意味を持つようになったのかについて考察してみる。

なお、考察は、任（2014）の研究成果である21世紀における「深刻」以前の時期を対象とする。



### 第三章 調査概要



#### 3.1 調査方法

本研究では、日本語における「深刻」の意味はどのように変化を遂げ、現在では中国語の“深刻”と異なる意味を持つようになったのかを明らかにするため、コーパスなどの言語資料を使用して分析を行う。調査は以下のステップで進める。

- (一) 用例収集：各言語資料から「深刻」の用例を抽出する。
- (二) 意味変化の分析：『日本国語大辞典』から得た意味項目に基づいて、各時代の「深刻」の意味の使用特徴を考察し、その意味変化について考える。

#### 3.2 用例の収集について

調査例の抽出について、より長い時間軸を考慮した分析を行うために、以下の複数のデータベースを利用する。各データベースの名称と用例の収録時期については表1のようにまとめる。

表1 用例の収録時期

		用例の収録時期
データベース	コーパス	「日本語歴史コーパス」(CHJ)
		「次世代デジタルライブラリー」(次世代)
		「昭和、平成書き言葉コーパス」(SHC)
	新聞	「朝日新聞クロスサーチ」(クロスサーチ)
		「ヨミダス歴史館」(ヨミダス)

まず、「日本語歴史コーパス」（以下、「CHJ」と略す）は奈良時代をはじめ、明治、大正時期以前の資料を収録しているデータベースであり、その内容は説話、隨筆、狂言など各時代の重要な口語資料が含まれている。現在のバージョンでは合計 1973 万短単位、257 万長単位のデータを収録している。

次、「次世代デジタルライブラリー」（以下、「次世代」と略す）とは、国立国会図書館次世代システム開発研究室での研究を基に開発した機能を実装した実験的な検索サービスで、Ai 技術を応用し、国立国会図書館デジタルコレクションからインターネットで提供しているデジタル化済みの古典籍資料をテキスト化して、その内容を検索することができる。しかし、その中では、字形や専門知識がないと判別できない資料が多く存在しているため、語例を直接に目で確認する必要がある。とはいっても、求める資料にたどり着きやすくすることができるこことや、古典籍を研究の対象に取り入れられることから、言語資料として貴重であると考えられる。また、その収録内容は国立国会図書館デジタルコレクションからの資料であることから、図書の以外にも古典籍、絵本などの文献を収録しているため、その用例も他のデータベースより数多い。なお、「国立国会図書館デジタルコレクション」で公開している約 35 万点のデジタル資料を収録するデータベースである。その中で最も古い資料は奈良時期の『大般若波羅蜜多經』である。その成立年代が 740 年前後とされているという。

「昭和、平成書き言葉コーパス」（以下、「SHC」と略す）では昭和時代から大正時代までの雑誌・書籍・新聞の 3 つの文献を収録している。「SHC」では、『日本語歴史コーパス』と、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の間の空白をつなぐコーパスであり、現在のバージョンでは合計 3340 万短単位のデータを収録している。

以上のコーパスの以外に、新聞はいまだに、社会での書き言葉の重要な媒体であると考える。新聞紙の内容を検索することができる「ヨミダス歴史館」（以下、「ヨミダス」と略す）と「朝日新聞クロスサーチ」（以下、「クロスサーチ」と略す）も使用する。この二つのデータベースでは 1870 年代頃から現在までの新聞紙の内容を検索することができるデータベースである。これは言語の変化

が激しい時期である明治、大正時代の用例を調査できる貴重な資料であると考える。

用例の抽出は、主にそれぞれのデータベースに「深刻」をキーワードに検索することによって集める。ただ、ヒットした用例には、「深刻味」、「深刻さ」、「深刻化」などといった複合語や派生語も含まれるため、それを除外する。表2は、上記の手順によって抽出した語例数を示そうとするものである。時間区分は便宜上、百年を一区切りに設定することとする。

表2 各データベースにおける「深刻」の用例数

		年代						
		710～ 1400	1400～ 1500	1500～ 1600	1600～ 1700	1700～ 1800	1800～ 1900	1900～ 1976
データベース	次世代	0	1	5	11	6	1328	29,863
	CHJ	0	0	0	0	0	5	77
	SHC	—	—	—	—	—	—	1,477
	ヨミダス	—	—	—	—	—	1	1,005
	クロスサーチ	—	—	—	—	—	0	1,271

(データベースがカバーしない時期を“—”で示す)

次章は、これらのデータベースからピックアップした「深刻」の用例を材料に、『日本国語大辞典』の4つの意味項目を参考に、「深刻」の意味使用と変化の要因について考察する。なお、1000例を超えた時代では、300例を無作為に抽出し分析を行う。例えば「次世代」は1800年から1900年の期間で1328例を抽出した。この場合では、用例の中で300例を無作為に抽出して分析を行う。

## 第四章 日本語における「深刻」の受容



本章では、前章で述べた調査手順によって得た用例に基づいて、「深刻」がいつ、どのように日本語に取り入れられたのかについて考えてみる。

### 4.1 「深刻」の受容時期

第二章で検討したように、日本語における「深刻」は、前掲『日本国語大辞典』を踏まえると、その最も古い用例は 1477 年代の『史記抄』からの一例である。今回調査したデータベースから抽出した資料の中、最も古い「深刻」の用例は「次世代」からの一例である。その用例を以下のように挙げておく。

(5) 文者法也持文法深刻謂之新文法刻曰文深以文法致人於罪謂之文致後  
漢宋均字叔庠好經書通詩礼性寬和不喜文法

万里集九<sup>11</sup> (1489) 『帳中香』

例 (5) の出典は、『帳中香』で、黃山谷即ち黃庭堅の詩の抄物である。文中の「文法」は法律の意味を指す。この「持文法深刻」は「厳しい量刑が課される」という意味である。中国語には「文法深刻」からの「文深」<sup>12</sup>という表現が存在し、「法の適用や刑の執行が苛酷な様子」を表している。つまり、この「深刻」は日本国語大辞典「きわめて殘忍なこと。むごいこと。そのまま。苛酷。」の意味項目と対応していると考えられる。

それにしても、1477 年までの日本語における「深刻」は、どのように用いられていたのかについては依然として不明な点が残されている。そのため、ここでは、データベースのほかに、『日本書紀』(1990 岩波古典文学大系)、『源氏物

<sup>11</sup> 室町時代の禪僧、歌人。近江国の速水氏の出自とされる。

<sup>12</sup> 『教育部重編國語辭典修訂本』より、文深：用法苛深。《漢書・卷九〇・酷吏傳・趙禹傳》：「極知禹無害，然文深，不可以居大府。」

語』(1994 新編 日本古典文学全集版)などの各時代の文学作品における「深刻」の使用状況を確認してみることにする。表 3 はその結果をまとめたものである。



表 3 1400 年以前の文学作品における「深刻」の使用状況

文体	漢文体			和文体			
	年代	文献	年代	用例数	文献	年代	用例数
上代	日本書記	720		0			
	大日本古文書	702-780		0			
	小計			0			
中古	小右記	978-1032		0	宇津保物語	970	0
	御堂関白記	998-1021		0	落窪物語	990	0
	左経記	1016-1036		0	源氏物語	1008	0
					栄花物語	1034	0
					今昔物語	1120	0
					夜の寝覚	平安後期	0
					狭衣物語	1068	0
	小計			0			
	若妻鏡	1300		0	宇治拾遺物語	1221	0
					平家物語	1222	0
中世					砂石集	1281	0
					徒然草	1330	0
					太平記	1370 前後	0
					南北朝遺文	1390	0
	小計			0			



表3からもわかるように、「深刻」は720年『日本書記』から1390年の『南北朝遺文』まで、一例もヒットすることができなかった。そういう意味では、「深刻」は1477年までの日本語においては、一般的な語として定着していないと考えられる。

このように、日本語の「深刻」は、前掲『日本国語大辞典』の記述した通り1470年以降取り入れられた可能性が高い。これに加え、例(5)の出典も漢籍の注釈書であることから、この時期の「深刻」の意味は中国語の意味のままで使用されていたと考えられる。

なお、陳(2022)の研究によると、『史記抄』は、室町時期(14世紀から16世紀前期)に完成されたという。この時期は日本漢学における最も重要な時期である。その時期には、岐陽方秀、桃源瑞仙をはじめの五山禪僧らが積極的に漢学講義活動を展開し、かれらの活動とともに、講義の聞書とノートをもとに、数多くの抄物が作成されていた。氏は、さらに、この時期の五山禪僧は清原家の儒者や医家の知識人と頻繁に交流をしたことにより、清原家の儒者や医家の知識人も抄物作成を重視するようになったと指摘している。そのため、日本語の「深刻」は当時の日本において一部の知識層に受容されていた可能性を示唆する考える。一方、柳田(1983)の調査によれば、当時《史記》と《漢書》は教材として使用され、それらを基にした『史記抄』、『漢書抄』などの抄物が作成された。これらの抄物は日本における漢籍の理解を支える役割を果たしたという。

以上を踏まえると、日本語における「深刻」は15世紀頃、《史記》を経由し、中国語での意味「きわめて殘忍なこと。むごいこと。そのまま。苛酷。」を保ったまま日本語に輸入したと考えられる。以下、便宜上、この意味を「受容義」と称し、考察を進めていく。



## 4.2 「深刻」の受容義について

この節では、「深刻」が最初に取り入れた「きわめて殘忍なこと。むごいこと。そのさま。苛酷。」という受容義の使用状況について検討する。検討は、表<sup>2<sup>13</sup></sup>に示されているように、百年を一区切りに行う。

### 4.2.1 1500年から1600年まで

この時期における受容義は、受容した1400年後半とは大きな差が見られない。データベースからヒットされた用例数はわずかで、主に漢籍の注釈書である抄物に用いられる。その中、特に中国の李瀚<sup>14</sup>による児童用教科書『蒙求』の抄物にてその使用が確認される。例えば、以下の例が挙げられる。

(6) 杜周 漢書列伝三十、史記酷吏傳六十二（中略）史記、重遲外ハ寛内ハ深次（イタル）骨、注李奇曰、其用罪深刻至レ骨。索隱曰、次、至也

清原宣賢（1526～1529）<sup>15</sup>『蒙求聴塵』<sup>16</sup>

(7) 韓子（中略）新序曰申子之書言人主當執術無刑囚脩以督責臣下其責深刻故號曰術商殃所為書號曰法（中略）孤憤

（1600前後）『蒙求抄』七卷

例（6）の出典は、『蒙求聴塵』で、『蒙求』の抄物である。その「杜周」から、『蒙求』における「張湯巧詆、杜周深刻<sup>17</sup>」の註釈である可能性が高い。ま

<sup>13</sup> 第三章

<sup>14</sup> 『蒙求』の作者である。《太平廣記》卷第一百九十八 文章一 《國史補》による、李瀚は樂器を奏して、思い浮かぶことをそのまま文にするとされている。

<sup>15</sup> 田中（2001）によると、『蒙求聴塵』には奥書はないものの、「侍従三位清原」の官位が記されていることがある。それによって、『蒙求聴塵』は清原宣賢がその官位に就いて時期即ち大永六年（1526）以降、享禄二年（1529）の間に成立されたと推測できる。

<sup>16</sup> こここの『蒙求聴塵』は国立国会図書館の写本である。形式としては袋綴三袋本で、外題はそれぞれ「蒙求上」、「蒙求中」、「蒙求下」とあるが、佳谷（2011）によると、上巻の内題は『蒙求聴塵上』となり、内容も『蒙求聴塵』の上巻を寫したものである。そのため、本稿では『蒙求聴塵』として扱う。

<sup>17</sup> 『蒙求』「柳下直道、叔敖陰德。張湯巧詆、杜周深刻。三王尹京、二鮑糾慝。」

た文中における「索隱」は《史記索隱》を指し、《史記索隱》には李奇が杜周に対する評価として「其用罪深刻至骨」と記載されている。以上から、例(6)は《史記》、《史記索隱》などの文献を引用し、《蒙求》における「杜周深刻」の刑の執行の厳しい様子を表していると考えられる。一方、例(7)の出典は、『蒙求抄』で、『蒙求聽塵』と同じ《蒙求》の抄物である。用例の「韓子」と「孤憤」から、《新序》の一節を引用し、《蒙求》の一文である「韓子孤憤」を注釈するものだと考えられる。原文の意は「君主が刑罰ではなく「術」を以って督責し、臣下を厳しい統御すべきだ」というもので、ここで「深刻」はその厳しい様子を表すと考えられる。

その以外、同時期の蘇東坡詩の注釈書である『四河入海』にもこの意味の「深刻」の用例が見られる。以下ではその例をあげよう。

(8) 前漢書列傳曹參傳（中略）文辭云云，召除為二丞相史、吏言レ文  
深刻，務レ声名シ，輒斥去之。日夜飲レ酒。卿大夫以下、吏及賓  
客，見參不レ事レ事，來者皆欲レ有レ言

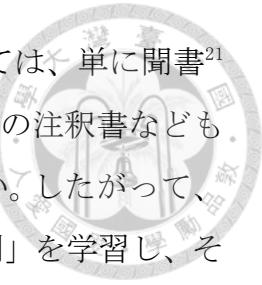
笑雲清三<sup>18</sup>（1534）<sup>19</sup>『四河入海』

王（2014）によると、例(8)の出典である『四河入海』は『天下白』、『蕉雨余滴』、『脞説』、『翰苑遺芳』の蘇東坡詩の注釈書を四冊集め、さらに笑雲清三自らの説を加えた抄物である。しかし、調べると、例(8)は《前漢書列傳曹參傳》からの引用<sup>20</sup>であることがわかる。したがって、例(8)は《前漢書列傳曹參傳》を引用した注釈の一節であると考えられる。この「文」は法律の意味で、「言文深刻」は法の解釈にこだわりすぎ、その執行が苛酷な様子を表している。また、『四河入海』は蘇東坡詩の注釈書であるものの、《前漢書》からの引

<sup>18</sup> 戦国時代の僧、五山文学学者

<sup>19</sup> 蔡（2018）によると、『四河入海』は1527から、1534に完成とされている。

<sup>20</sup> 《前漢書・蕭何曹參傳第九》「始擇郡國吏長大，訥於文辭，謹厚長者，即召除為丞相史。吏言文刻深，欲務聲名，輒斥去之。」



用が見られる。陳（2022）によると、当時の抄物の作成に関しては、単に聞書<sup>21</sup>を整理するだけではなく、他の資料例えば講義の聞書、中国語側の注釈書なども参考にした上で、さらに自分の見解と説を加えなければならない。したがって、この時期の学者たちは《漢書》、《蒙求》などの漢籍から「深刻」を学習し、それを自らの注釈書である抄物に用いた可能性が高いと考えられる。

#### 4.2.2 1600年から1700年まで

この時期における「深刻」の受容義には、1600年以前の用例とは大きな差が見られない。少し前の1500年から1600年と同様に、抄物に使用されるのは一般的である。その中、ほとんどの用例が『蒙求抄』にてその使用が確認される。例えば、以下の用例が挙げられる。

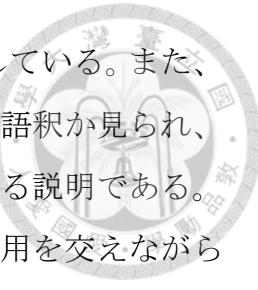
- (9) 張湯巧詆 漢書二十九。張湯杜周二人ハ酷吏傳二。（中略）然得ノサレドモ公侯ノ氣ニ アフタ程ニ聲譽ヲ得タリ何事云ヘバ造請諸公寒暑モ。サケニト云ノ譽ヲ得タリ。而深刻。刻痛也剝也。物ヲ深クキザンテ
- (10) 湯カ爪牙ノ如キ者ソ。文學土ハ文學ヲナス者ヲ云リ。湯カ爪牙ノ用ナル者カ文學ヲナス者ニ歸依ノ文學ノ方ニモウトフトイソ。深刻ニハアレトモ
- (11) 于公高門 罷ハ本傳ニハ羅トカイテ 注レタリ 文法ハ法ヲ行フ處カキリキサムヤウニ。文ハ法也持法深刻謂之文

仁左衛門 刊（1638）『蒙求抄』十卷

以上の例（9）から例（11）はいずれも「無慈悲で厳しいこと」の意味として使用されている。例（9）と例（10）は「張湯巧詆」についての註釈文である。『標題徐状元補注蒙求』の「張湯巧詆」における一節「湯雖文深意忌不專平然得此聲譽而深刻」と書かれており、張湯が刑罰を厳しく用い、物事の処理において

---

<sup>21</sup> 人の話を聞きながらその内容を書きとめておくこと。また、そうして書いたもの。記録の一種。



も公正を欠けていたにもかかわらず、良い評判を得た様子を表している。また、例(9)の「深刻」の後には「刻痛也剝也。物ヲ深クキザンテ」の語釈が見られ、「刻痛也剝也」は『附釈文互注礼部韻略』における「刻」に対する説明である。前節 1500 年から 1600 年までの抄物と同様に、他の漢籍から引用を交えながら註釈をつけるのは特徴と言えよう。例(11)は『蒙求』の「于公高門」に関する説明の一文である。ここにおける「深刻」は「文法」の「文」に対しての説明である。「持文法深刻」は「厳しい量刑が課される」という意味を指している。また、これらの主典である『蒙求抄』十巻に関しては、この『蒙求抄』十巻は前節で取り上げた『蒙求聴塵』『蒙求抄』七巻と違って、巻頭には「補注蒙求八巻陳氏曰徐子光撰以李瀚蒙求句為之注本句之外兼及其他人事」と記されている。そのため、この『蒙求抄』は李瀚の『蒙求』だけではなく、徐子光<sup>22</sup>など説を含める『標題徐状元補注蒙求』などにさらに註釈を加えたものであると考えられる。

#### 4.2.3 1700 年から 1800 年まで

この時期で抽出した用例の中には抄物からの用例が確認されなかつたが、伊藤仁斎、諸葛琴台のような漢学者の自著にてこの意味で使用されている「深刻」の用例が見られる。例えば、以下では『童子問』からの一文である。

(12) 予觀ニ予通鑑纂等ノ書ヲ其評ニ驚スル人物ヲ善レ善惡レ惡不ニ毫  
假借可謂レ嚴矣然断決深刻古今無全人殆有申韓刑名之氣象而無ニ  
聖人涵容之意味持已甚堅責レ人甚深浸淫於肺腑透浹於骨髓卒為刻  
薄之流專主ニ張理字之弊一至ル於此悲哉

伊藤仁斎 (1707) 『童子問』中 六十五章

この例における「深刻」は伊藤仁斎<sup>23</sup>が《通鑑纂要》<sup>24</sup>などを読んだあと、作者らが書中の人に対する評価は善を善とし、悪を悪としほんのわずかの容赦も

<sup>22</sup> 中国宋代の人。

<sup>23</sup> 江戸前期の儒学者。京都の人。名は維楨（これえだ）。古義学派の祖。初め朱子学を学ぶ

<sup>24</sup> 『歴代通鑑纂要』のことを指す、中国の歴史書である『資治通鑑』を基に、より簡潔で分かりやすくまとめた書籍のことです



ない。その判断の基準が厳しすぎるという様子を表している<sup>25</sup>。「古今無全人」は古代から今まで完全な人物が一人もないことを述べている。なお、『日本国語大辞典』では『童子問』からの用例もあげられたものの、「物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること。また、そのまま」という意味で、ここの「深刻」の意味と違い、「無慈悲で厳しいこと」の意味で使用されていると考える。

次の例（13）は『鬢髪山人集』からの一文である。

(13) 孤兒行孤兒生孤子遇生命難持保、父母在時、傳姆令我出入在懷抱、  
父母已逝兄嫂令我供酒掃（中略）兄與嫂嚴且酷、歸當為我家鞭笞、  
亂曰、父母在上天、願托飛鴻通信、父母在下地、願屬潛鯉寄書、兄  
嫂深刻難與居

諸葛琴台（1800 前後<sup>26</sup>）『鬢髪山人集』二十卷

冒頭のところに「孤兒行」のタイトルが書かれている。またその内容の類似することから、この例は漢代の詩『孤兒行』<sup>27</sup>に註釈をつけるものあるいはそれを模倣して作るものである可能性が高いと考えられる。ここの「兄嫂深刻難與居」の「深刻」は兄と兄嫁が孤兒に対する厳しい様子を表している。

#### 4.2.4 1800 年から 1900 年まで

この時期の受容義は漢籍の注釈書や漢学者の自著などを中心としてその使用が見られる。以下の例が見られる。

(14) 胡亥極コノヒト惡ヲキハメツヲクト 用法益深刻只數語寫胡亥暴

<sup>25</sup> 「伊藤仁斎『童子問』を読む（三）」

<sup>26</sup> 『鬢髪山人集』の発行年代が不明であるが、諸葛琴台の生没年（1747～1813）から、本書は18世紀末から19世紀初までに成立されたと考える

<sup>27</sup> 『孤兒行』「孤兒生，孤子遇生，命獨當苦。父母在時，乘堅車，駕駒馬。父母已去，兄嫂令我行賈。」



虐之甚下便接陳涉起兵矣

堤大介 編 (1879) 『史記啓弁』

- (15) 觀三代以還能言之士。若莊周之宏肆。荀卿之嚴正。韓非李斯之峭峻深刻。賈誼司馬遷之豪情悲壯

吉村秋陽 (1882) 『讀我書樓遺稿』

例 (14) の「深刻」は「胡亥極」に対する註釈と考える。ここでは「用法益深刻」で「胡亥」の補註で、彼の厳しい法を用いる様子を表している。例 (15) の「深刻」は「韓非李斯」による法家思想に基づいて行う政治の冷酷さと苛烈さ厳を表している。

- (16) 九年二月都御吏陳瑛以レ罪誅、瑛殘忍專以搏擊レ為能帝寵認之益務深刻傾陷不レ可勝レ計怨聲徹レ天 (中略) 下獄死天下快之

後藤世釣 編集 藤原正臣 増補 (1860) 『増補元明史略』

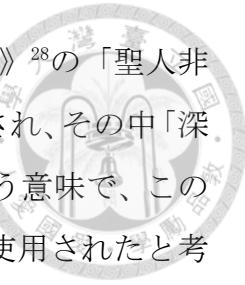
- (17) 九年、都御吏陳瑛罪ヲ以テ誅セラル瑛建文ノ時、燕府ノ金錢ヲ受ケ、多忠良ヲ害ス是ニ至テ益深刻ヲ務ム (中略) 獄ニ下レ死ス天下快トス

小永井八郎編 (1877) 『漢史一斑』

例 (16) と例 (17) はどちらも「陳瑛」という人名が登場した。その文脈から《明史》の「奸臣傳」に記されている「陳瑛」に関する記述と推定される。「忠良ヲ害ス是ニ至テ益深刻ヲ務ム」、「益務深刻傾陷不レ可勝レ計怨聲徹レ天」より、こここの「深刻」は「無慈悲で厳しいこと」の意味に該当すると考えられる。

- (18) 深刻之法フカクセンサクスルムゴキオキテ齊眾ムリヲシシテ人心ヲート向ニソロエサセル

戸田仙橋 編 (1876) 『唐宋八家文字解』



例（18）は文中における「深刻之法」と「齊眾」より、《宋史》<sup>28</sup>の「聖人非不知深刻之法可以齊眾，勇悍之夫可以集事」からの出典だと推測され、その中「深刻之法可以齊眾」とは「厳しい法律を持って民を統制する」という意味で、この文中における「深刻」も「無慈悲で厳しいこと」と言った意味で使用されたと考える。

また、この時期では「無慈悲で厳しいこと」の「深刻」は漢籍関連の作品以外にも使用が見られ、これらの用例は作者が漢籍から「深刻」を習得し、自作に用いることが考えられる。例えば、以下に例を挙げられる。

(19) 其弟〔名ハ持密丁〕權ヲ操リ、更使阿房ノ如キ宮ヲ作ル刑ヲ繁クシ誅ヲ嚴ニス、吏治深刻ニシテ

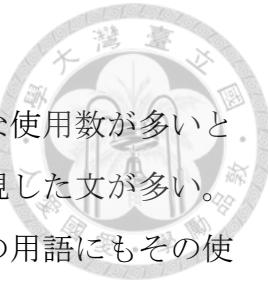
モリソン（1874）『万国綱鑑録和解』

(20) 太政大臣賴長美姿貌為レ人嚴厲深刻每昭會諸卿或晚至、或議與レ己異者特摧辱之甚則焚其第、人呼曰「惡左府」

橋本寧（1877）『瓊矛余滴』

例（19）の「深刻」は「持密丁」という人物に使用され、「刑ヲ繁クシ誅ヲ嚴ニス、吏治深刻ニシテ」という文脈から、「深刻」は彼の支配や統治が苛酷であったことを表している。例（20）は「惡左府」という異名から分かるように、文中の「賴長」は藤原賴長のことを指していると推測される。また、「或議與レ己異者特摧辱之甚則焚其第」から彼の苛酷さが見られ、「深刻」を用いて彼の性格を表していると考えられる。これらの例に共通するのは、対象となる「持密丁」および「藤原賴長」がいずれも中国の人物ではないという点である。すなわち、著者が「深刻」という語を漢籍から学び取ったうえで、それを日本や他国の歴史的人物の描写に応用している可能性が高いと考えられる。したがって、この時期における「無慈悲で厳しいこと」という意味の「深刻」は、使用範囲が拡大され、漢籍にとどまらず、より広い文脈で用いられるようになったことがわかる

<sup>28</sup> 中国の二十四史の一。宋の歴史を記したもの。元の脱脱らが勅命によって編纂。1345年完成



#### 4. 2. 5 1900 年から 1976 年まで

この時期になると、受容義で用いられる「深刻」は、全体的な使用数が多いとはいえない。その使用は従来と同じ、主に漢籍関連の文脈に出現した文が多い。一部は、漢語試験の教材である。また、用例が少ないが、法律の用語にもその使用が確認される。以下の例を挙げる。

- (21) 次イタル 史記ニ、内深次骨ハ、罪ヲ行フコト深刻ニシ、骨マデ行キ届クコト、故ニイタルト讀ム

吉村彰 (1901) 『異字同訓弁』

- (22) 『至刑名の説、乃失刑罰法度之本意、以苛察爲明、以深刻爲能、未曾察刑罰者安民之爲教、俟其陷罪、而刑之、甚則有刑及于不辜者ハ是猶設水火以嬰見之陷、豈可不痛嘆哉』と

吉田宇之助 (1901) 『済民記』

例 (21) は「次」のという字の説明であり、ここでは《史記》の内容を引用し、刑罰の厳しさが骨まで至るほどの意味を表している。したがって、ここでの「深刻」は「無慈悲で厳しいこと」の意味として理解するのは妥当であろう。例 (22) は文脈から判断すると、「深刻」は「刑名の説」に使われて、(21) と同様に「無慈悲で厳しいこと」を意味すると思われる。また、このような意味での「深刻」は、漢語の四字熟語の解説にてその使用が確認される。例えば、以下の例を挙げられる。

- (23) [深文] [意義] 文は刑法なり、刑法を執り行ふこと、深刻なるを  
いふ。 【出處】任昉の文に、深文爲吏、積習成奸

池田四郎次郎 1909 『故事熟語辞典』

- (24) (惨石敷少恩) 惨急にして深刻なる意。史記韓非子傳韓子繩墨を引  
き、事情を切にし、是非が明せり、その極惨石敷にして恩少し

郁文舎編輯所 編 (1910) 『漢和大辞林』

- (25) 太史遷曰申子界界、施於名實、韓子引繩墨、切事情明是非、其極

惨覈少恩注解「界々」自ら勉勵するの意、「繩墨」大工の用ふる  
墨繩のこと、法律を謂ふ、「慘聚」慘急深刻  
早稻田大学編輯部 編 (1914) 『漢籍国字解全書：先哲遺著追補』



例 (23) から例 (25) の「深刻」はそれぞれ「深文」「慘石敷少恩」「慘覈」の註釈に使われており。いずれも刑罰や法律の厳しい様子について用いられる。これによると、以上の「深刻」では「無慈悲で厳しいこと」として理解できる。また、その一方、当時では、漢文の教材にもその使用が見られる。

(26) 上尚德緩刑書(訓解)上尚德緩刑書漢宣帝の持節三年、刑を用ゐることの深刻なるを諫めんとて奉れり

弘文館 (1903) 『漢文教材』

(27) 漢試関鍵附録 (一) 蒙求摘要 ○深刻喜陷害人 ○深刻吏多為爪牙用者

菊池晚香 (三九郎) 編 (1904) 『漢試関鍵』

以上から、この意味で用いられる「深刻」は主に漢籍関連あるいは中国語の成語や漢文の註釈に使用され、場面がかなり限られていると考えられる。数が少ないが、法律用語でも同様に使用例が確認される。例えば、以下の例が挙げられる。

(28) 慘刻總て無慘深刻なる事柄を指す。刑法第二九五條は無慘の所爲にて人を殺したるを罰するの規定なり

田辺慶弥 編 (1902) 『法律經濟辭典』

例 (28) における「深刻」は、「慘刻」の説明で使用される。後の「人を殺したる」と言う殺人行為の残酷の様子に使用される。ここでの深刻は「無慈悲で厳しいこと」の意味に合うと考えられる。

(29) 諸食王田及私屬皆得賣、勿拘以法、然刑罰深刻、他政諱亂、用度不足、數賦 橫歛、民愈貧困」

(1906) 『臨時台灣旧慣調査会第一部調査第二回報告書』



例(29)は、当時の台湾の慣習を調査する報告書であり、調査したところ《漢書 食貨誌》<sup>29</sup>の一節を引用したものである。前「後三年，莽知民愁」が書かれて、王莽が王田と私属を自由に取引させるものの、刑罰を厳しく執行するために、民はさらに貧困の境に陥るといった意味を表している。したがって、ここでは「深刻」は刑罰の無慈悲の様子を表していると考えられる。

#### 4.3まとめ

本章では、「深刻」の受容時期を確認した上で、当時日本語に取り入れられた「きわめて残酷なこと。むごいこと。そのさま。苛酷。」という受容義の意味の使用について考察を行った。

まず、1400年代後半から日本語に伝入した以降、主に《蒙求》、《史記》といった漢詩の抄物に使用されていたことがわかった。また、抄物の背景から考えてみると、その時の「深刻」は五山禪僧を中心として一部の知識層に受容されていた可能性を示唆すると考える。その点に関して、1500年前後の用例数もその一反応として考えられる。

その後、1700年から1800年までは抄物ではなく、伊藤仁斎、諸葛琴台などの漢学、儒学者による著作にてその使用が見られる。その用例と作者から、この時期の「深刻」も使用場合が限られていた。当時の一般的な用語ではなかったと考えられる。

1800年以降は、さらに多くの文献に使用されていたことが観察できたものの、その文献は、主として中国語との関連するもので、漢籍の註釈などに使用されていた。

---

<sup>29</sup> 食貨志上： 後三年，莽知民愁，下詔諸食王田及私屬皆得賣買，勿拘以法。然刑罰深刻，它政諱亂。邊兵二十餘萬人仰縣官衣食，用度不足，數橫賦歛，民愈貧困。

1900 年代に入ると、『漢文教材』『漢試關鍵』といった漢文を勉強するための教材からの用例が確認された。すなわち、この時期の「深刻」の受容義は、中國語の漢籍を理解するための意味として使用されていたことがわかる。なお、『法律經濟辭典』といった法律関係参考書にも見られたが、主な用法とは言い難い。つまり、この時期における「深刻」の受容義は日本語では一般的な用法ではないと考えられる。

## 第五章 日本語における「深刻」の変容



本章では、「深刻」が日本語に取り入れられてからどのような新しい意味や意味変化が見られるのかを時代に沿って考察をしていく。考察は、同様に、百年を一区切りにし、考察を行う。なお、1600年から1700年までの期間では新しい意味が確認されなかったため、1800年までと合わせて検討する。

### 5.1 変容が見られる 1500年から1600年までの「深刻」及び意味②

この時期では、受容義のほか、「物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること。」という新しい意味（以下「意味②」と称す）で使用された用例が確認された。以下では、この意味の具体的な用例を示しながら、その特徴を考察する。

(30) 題云北山 北山輸綠漲橫坡（中略）石林詩話云荊公詩律精嚴、「細數落花因坐久，緩尋芳草得歸遲」之句，但見舒閑容與之態耳、而字々細考之，若經槩括權衡者，其用意亦深刻矣、又趙章泉評云荊公  
(省略)

笑雲清三（1534）『四河入海』

全体としては、この時期の「深刻」には以下の特徴が見られる。例（30）の「題云北山」と「北山輸綠漲橫坡」は《石林詩話》の一節を引用し、詩《北山》<sup>30</sup>の註釈だと考える。文中の「荊公」<sup>31</sup>はその作者である王安石のことを指して、「深刻」は王安石が詩の一字一字を緻密に推敲し、巧みに工夫している様子を表している。

<sup>30</sup> 《北山》北山輸綠漲橫陂，直塹回塘瀛瀛時。 細數落花因坐久，緩尋芳草得歸遲。

<sup>31</sup> 『日本大百科全書』によると、王安石は半山と号し、荊国(けいこく)公を贈られたので荊公ともよばれる。



- 全体としては、この時期の「深刻」には以下の特徴が見られる。
1. 用例数は受容時期と比べると、数がやや増える傾向が見られる。
  2. 意味は、受容義が大半であるが、新しい「物事を深くつきつめて考えたり、せさくしたりすること」という意味②が一例確認された。
  3. 使用例は、ほとんど『帳中香』、『四河入海』、『蒙求抄』などの抄物から検出された。その内容は《史記》、《史記索隱》、《新序》、《石林詩話》などの漢籍から引用することが多い。意味は引用元のままであり、中国語“深刻”からの影響が強いと考えられる。
  4. 狂言とキリストン資料といった口語資料では、「深刻」の使用例が見当たらないことから、この時期の「深刻」は当時の日本では笑雲清三を代表とする禅僧たちを中心とする一部の知識層に受容されていた語であり、一般的な語としては定着してなかったと考えられる。

## 5.2 変容が見られる 1600 年から 1800 年までの「深刻」及び意味③

この時期における「深刻」の使用例は 1500 年から 1600 年までと比べるとやや増えたと見られる。使用された用例では受容義と意味②と「深くほりつけること。また、深く心に刻みつけること。深く胸を打つものがあること。また、そのまま。」という新しい意味③で用いられている。

意味②は、主として『童子問』など儒学に関する著作に見られる。

(31) 二千年以來而無萬世無絕此聖人之旨也讀春秋者當專據左氏之傳義  
理明白自與孟子之意合公穀二傳深刻過密殆若解隱語非聖人之意故  
善得夫子之意者莫左氏經至袁公十六年己丑孔丘卒（省略）

伊藤仁斎（1707）『童子問 下』 五章

(32) 觀二予通鑑纂等ノ書ヲ其評ニ驚スル人物ヲ善レ善惡レ惡不二毫  
假借可謂レ嚴矣世非湯武貶管仲王魏亦是也然然斷決深刻古今無全  
人殆有申韓刑名慘刻之嚴而無二聖人涵容仁厚之篤持己甚堅責レ人  
甚深浸淫於肺腑透浹於骨髓卒為刻薄之流專主二張理字之弊一至ル  
於此悲哉



中江岷山<sup>32</sup> (1709) 『理氣弁論』二卷 十六章 辨自然之理

(33) 穀梁伝宋胡安國皆以褒貶見春秋、朱子及呂大圭非レ之、以為春秋  
豈翅褒貶之一事已哉、三傳所レ説加レ列制レ義、鑿空揣摩、聖人  
豈有如レ斯深刻隱語、乎辟諸太陽之召臨宇宙（中略）矣如三傳、  
艱深隱僻、歐陽氏不取之、可謂卓識也

畠黃山<sup>33</sup> (1785) 『医学院学範』 三卷

(34) 遣北宋ノ版王蕭注本子。大書深刻與二今本迥二異。惜二二卷十六  
葉已前皆已蠹蝕。因復向先聖焚レ香叩レ首願窺ニ全豹。幸己卯春  
從錫山酒家復覲二一函。冠冕歸然、亦宋刻王氏注也

太仔純 増註 小林新兵衛刊 (1789) 『孔子家語』

例（31）は『日本国語大辞典』に取り上げられる例である。ここの「深刻」は《公羊伝》<sup>34</sup>、《穀梁伝》<sup>35</sup>の二冊の伝の内容に対する評価に使われている。二者とも《春秋》<sup>36</sup>の註釈書である。しかし、本来の文章の意味を深く穿鑿しすぎ、煩雑すぎてほとんど暗号を解読するようなものになってしまって、本来の聖人の意図するところではないという仁斎の考えが述べている<sup>37</sup>。例（32）は『理氣弁論』<sup>38</sup> (1709) から見られる「深刻」の用例である。その内容は例（31）と類似するところが見られる。また、（31）のように《公羊伝》、《穀梁伝》の内容に対する批判的な内容が見られるので、ここにおける「深刻」も「物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること」の意味として使われていると考えられる。『理氣弁論』の作者である中江岷山は伊藤仁斎の門人である。金（1995）

<sup>32</sup> 江戸時代前期～中期の儒者。明暦元年生まれ。京都で伊藤仁斎にまなぶ。宝永のころ大坂で子弟を教育した。

<sup>33</sup> 字柳安。江戸中期の医師。儒学を基礎として医学を教授するシステムで多くの弟子を養成した。

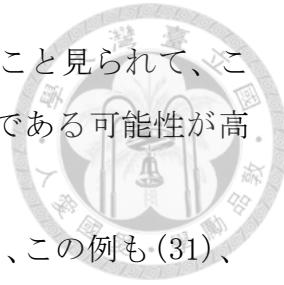
<sup>34</sup> 『春秋公羊伝』のこと。「春秋」の註釈書。11巻。公羊高の著と伝えられる。

<sup>35</sup> 『春秋穀梁伝』のこと。「春秋」の註釈書。12巻。魯の穀梁赤の著と伝えられる。形式は「公羊伝」に近いが、思想的には法家的色彩が濃い。

<sup>36</sup> 中国、春秋時代の歴史書。五經の一。魯（山東省）の史官の遺した記録に孔子が加筆し、自らの思想を託したといわれる。

<sup>37</sup> 「伊藤仁斎『童子問』を読む（四）」

<sup>38</sup> 伊藤仁斎の門人中江岷山による儒書。



によると、『理氣弁論』では『吉斎漫録』などの本に引用すること見られて、この一文は師である伊藤仁斎の説を引用しながら加筆したものである可能性が高いと思われる。

例(33)は『医学院学範』からの使用例である。内容からすると、この例も(31)、(32)と同じ、《春秋》の注釈書に対する批判的な一文であると考えられる。

『医学院学範』とは、畠黃山による医書である。その内容は中国語歴代の医書の解説のみならず、「治經者，以論語為先，學庸孝經孟子次之，五經又次之」のように、畠黃山が『大学』『中庸』などの経書に対する評価と感想なども含まれている。向(2021)によると、当時の医学院では儒經の学習が極めて重要視されていた。この一文は「講習」の次の節「經伝」の一節である。冒頭では「穀梁伝」が書かれており、またその内容の「人豈有如レス深刻隱語」、「矣如三傳<sup>39</sup>、艱深隱僻、歐陽氏不取之、可謂卓識也」によって、作者も伊藤仁斎らと同じ、《公羊传》、《穀梁传》の内容が詮索しすぎ、《春秋》の本来の目的ではないと指摘している。ここの「深刻」も「物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること」の意味であると考えられる。例(34)では『孔子家語』<sup>40</sup>における「深刻」の一例である。中国語では「大書深刻」という用法があり、その意味は「字が石などに深く刻まれている」の意味であるが、例(34)における「蠹蝕」は紙が虫に食害されることを指しているので、ここの「深刻」は「深く刻まれている」といった意味ではなく、本の内容が「詮索して深い」の意味であると推測する。今日流通している今本<sup>41</sup>とは異なり、北宋刊の王肅注本は内容的により深いものとなっている。惜しいことに、全二巻十六葉以前の部分はすでに失われてしまっている。そのため、こここの「深刻」はその「王肅注本」の内容について使用されて、その内容の深さを表していると考える。

意味③については、本草書『本朝食鑑』と類書『和漢三才図会』にて、主に植物の外見の特徴に使われる。

<sup>39</sup> 『春秋』に対する『左氏伝』『公羊伝』『穀梁伝』三冊の注釈書の総称。

<sup>40</sup> 『論語』に漏れた孔子一門の説話を蒐集したとされる古書。原書はついに亡失したようで、10巻44編からなる現行本は、三国魏の王肅の偽作。王肅の偽作の意図は、もっぱら後漢の鄭玄の学説を反駁するための根拠の造作にある

<sup>41</sup> 徐(2014)によると、王肅注の『孔子家語』の内容は今本と異なるところがいくつある。



- (35) 肅 和名訓奈都 『集鮮』 肅有大小而一物也俎大者有レ毛ノ爾處處  
田野庭園俱多有レ之冬至レ後生レ苗其葉著レ地形如蒲公而葉頭有  
深刻鋸齒向レ下采レ之作蔬茹
- (36) 多牟保保草 『釋名』 俗稱藤菜或稱鼓草俱名義未詳 『集鮮』 野徑庭  
園多有春 初生レ苗布レ地四散葉略似蘿蔔而小葉端三尖如鋒頭而次  
第深刻二三月之際一 莖聳上三四寸斷レ之有白汁上開レ黃花如野菊
- (37) 鷄冠菜 『釋名』 鳥坂苔 『集鮮』 狀如雞冠有レ小齒有レ深刻深紅  
色味不レ美以レ淡味而愛 此矣海濱石上生古者參河伊勢志摩紀伊石  
見等州貢獻于民部省部省今亦處處多ク有レ之氣味主治未レ詳

人見必大 (1697) 『本朝食鑑』

例 (35) から例 (37) は『本朝食鑑』に見られる「深刻」の用例である。用例三つはそれぞれ植物の葉や形状に関する描写に用いられている。例えば、例 (35) では「形如蒲公而葉頭有深刻」とあり、肅という植物の葉には深く刻まれている鋸齒の様子を表している。また、例 (36) では「小葉端三尖如鋒頭而次第深刻」タンポポの葉の先の鋭く尖り様子を表している。

以下の例 (38) から例 (40) は『和漢三才図会』からの用例である。上の『本朝食鑑』と同じ、「蝦手綿」、「膏蕈」、「番蕉」などの植物の外見に使用されているのは特徴である。

- (38) 蝦手綿 其葉深刻如蝦ノ手樹葉故名レ之白花而桃大其棉契白而桃數  
少予
- (39) 驚膏蕈 生ニ高山ノ中狀類ニ驚子 (中略) 寸頭有柄如鼓槌其大者近  
尺經日發傘外色黃白帶紫內白有細深刻奇柄肥大者柔而味良
- (40) 番蕉 五雜組<sup>42</sup>云相傳此樹從琉球來 (中略) 其葉長二三尺深刻比比

<sup>42</sup> 明代末期の謝肇淛（しやちようせつ）（1567-1624）による隨筆集。全16巻。天・地・人・物・事の5部に分け、古今の文献や実地の見聞などに基づいた豊富な話題を、柔軟な批評眼で取り上げている。特に民俗に関するものには興味深いデータが多い。

似ニ魚刺兒樹生ニ於根ノ下大レ如拳

寺島良安 (1712) 『和漢三才図会』 105巻



その中、例 (38) と例 (40) はそれぞれ「蝦手綿」と「番蕉」の葉の形状についての説明に使用されている。例 (39) では「膏蕈」というきのこのヒダの様子についての描写であると考えられる。

なお、この時期では、は判断できない用例も存在している。以下の (41) では『蒙求抄十卷』に見られる一例である。

(41) 檀卿沐猴 然刻ノ刻深 ハギリキザム様 ニブイ 本傳ニハ深刻ト  
有リ

仁左衛門刊 (1638) 『蒙求抄』十卷

『蒙求抄』の対象の一つである《標題徐状元補注蒙求》では、「然刻深喜陥害人」と書いているが、「檀卿沐猴」の出典である《蓋諸葛劉鄭孫母將何傳》では該当の部分が「然深刻喜陥害人」となっている。5.2.1 に示した類似な用法「罹ハ本傳ニハ羅トカイテ」が見られる。したがって、ここの「深刻」は原典の表記を示すために使われ、実際の意味がないと考える。

全体としては、1600 年から 1800 までの「深刻」の使用および意味について以下の特徴が見られる。

1. 1500 年から 1600 年までと比べると、その使用例が増加傾向でと意味の拡張も観察された。
2. 受容義のほか、「物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること」という意味②は主に『童子問』、『理氣弁論』、『孔子家語』などの儒学に関連する著作に見られた。それ以外、同じ時期の『医学院学範』のような医書においても、経書と関する内容にもその使用が確認された。例えば、例 (31) ~ (33)。
3. 「深くほりつけること。また、深く心に刻みつけること。深く胸を打つものがあること。また、そのさま。」は、新しく観察された意味③である。



出典は『本朝食鑑』と『和漢三才図会』などの類書からである。注目したいのは、ほぼ「蝦手綿」、「番蕉」などの植物の外見の特徴に用いられていることである。

4. 意味③における「深くほりつけること」は、つまり物理的な「深刻」にとどまり、「深く心に刻みつけること」のような心理的な描写での使用がまだ確認されない。
5. この時期の「深刻」も 1500 年から 1600 年までと同様、一部の知識層にしか受容されない語であり、一般的な語としては定着してなかったと考えられる。

### 5.3 変容が見られる 1800 年から 1900 年までの「深刻」及び意味④

本節では、1800 年から 1900 年までの「深刻」の意味とその使用について分析する。この時期における「深刻」の使用例は前の年代である 1600 か年ら 1800 年までの用例数と比べるとかなり増える。また、その用例数も前の時代より多数見られる。しかし、この時期の用例はほとんどが 1850 年代以後で確認され、その以前の年代では見当たらない。この時期の「深刻」は意味②、③のほかに、「事態が切迫し、重大なこと。言葉などが重大な意味をもつこと。また、そのさま。」という新しい意味（以下「意味④」と称す）で使用された用例が確認された。以下では、具体的な用例を示しながら、その特徴を考察する。

まず、意味②で使用される「深刻」の用例は僅かである。しかし、其の中でも、前の時代と同じ、『春秋』の註釈書に対する批判的な文脈でその使用が見られる。例えば、以下の例が挙げられる。

(42) 又曰今之學春秋者、皆以經說三傳、非以三傳經也、知有三傳、不知有經、苟無三傳、是并無經矣、因三傳、以重春秋、非知春秋者也、舍三傳而知春秋不可一曰無者、乃真知春秋 又曰、嗟夫使春秋淺率無味一覽而盡何以為聖人之書使深刻隱晦終于不可解

梁川星巖（1893）『春雷余響』



例（42）の「深刻」は前の時期と同様に、《春秋》の注釈書である「三傳」の内容に対する批判的な文脈に使用されている。《公羊传》、《穀梁传》、《左传》は《春秋》の内容を過度に詮索し、複雑に解釈するものであり、これは聖人が《春秋》を著した本来の目的に反すると指摘している。

また、この意味の「深刻」は本時期では荀況<sup>43</sup>の賦に関する文脈で使用されている用例が確認された。

(43) 趙人荀況。楚ニ遊宦ス。其時ヲ攷フルニ屈原ノ前ニ在リト雖モ。

作ル所ノ五賦。工巧深刻。純ラ隱語ヲ用ユ

近藤元粹（1893）『作文教科書：中等教育』

(44) 後ち趙人荀卿楚に官遊して梵音を學び、辭賦を作る。其の時を考  
えふるに屈原の前にあり、作るところの五賦、工攻深刻、隱語を  
用ふ。今人の揣迷の如し殆ど詩的の価値に乏し

藤田豊八（1897）『先秦文学：支那文學史稿』

以上の例はいずれも荀況が作る五賦に対する評価であると考えられる。また、その内容から、《文體明辯》から「考其時在屈原之前、所做五賦、工巧深刻、純用隱語、若今人之揣謎於詩六義、不啻天壤、君子蓋無取」の一文からの引用だと推測される。荀況の五賦は、字々に工夫が凝らされており、多くの隠が用いられているが、詩としての価値が欠けていること表している。したがって、ここでの「深刻」は「物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること」の意味であると思われる。

次は意味③「深くほりつけること。また、深く心に刻みつけること。深く胸を打つものがあること。また、そのまま。」について、この意味に属する「深刻」は、この時期に頻繁に使用されており、其の中では、前の時代と同じ、植

---

<sup>43</sup> 荀子の名。中国戦国時代末の思想家・儒学者。



物やキノコ類の外見に関する描写にその使用が見られる。例えば、以下の例が挙げられる。

(45) 鷄冠菜 ○処々ノ海濱石上ニ生ズトサカニ似テ小齒ナルモノアリ深  
刻ナルモノアリソノ色深紅

大館正才注 (1876) 『小学博物図解』

(46) 松葦 八九月ル初生落葉ヲ戴テ見難漸長テ二三寸頭圓ク柄有リ大ナ  
ルモノ尺ニ近シ傘ヲ發外黃白紫ヲ帶テ内白ク細ク深刻アリ柔ニシ  
テ

中山市兵衛 編 (1876) 『博物図教授本』

(47) わらひ蕨 【部分】葉ハ宿根ヨリ叢生シ、細カニ分裂シテ、箭羽  
状ヲナシ各片更ニ深刻アリ宿根ヨリ生ス

(1885) 『中等小学博物書』

例 (45) と (47) は「蕨」及び「鷄冠菜」といった植物の外見についての描写に使用されている。いずれも植物の葉や表面に刻まれた模様、裂け目の深さを表している。一方、例 (46) 、(葦の傘の裏側であるヒダの様子を表している。また、植物以外では、脳の形状について、描写で使用される例もあるが。一例しか見当たらなかった。

(48) 阿弗利加の蠻民ブッシュマンに就きて其脳を解剖したる報告に據れ  
ば脳髄の盤廻は明白に存在すること勿論なれども、白哲人種の脳髄  
に比しては、其數寡少にして且深刻せる所なく

峰是三郎 (1893) 『応用心理学：中等教育』

例 (48) の「深刻」は、アフリカのブッシュマンの脳と他の人種の脳を比較した結果、その脳髄の盤廻が少ない、また脳のシワが浅い様子を表している。



この時期では古代中国語と同様の「大書深刻」という用例が見られ、その意味も中国語の「字が石版に深く刻まれる様子」であると考えられる。それは、以下の例を見れば明らかであろう。

(49) 觀曳布瀑遊摩耶山記（中略）山酒香拂拂。過者不飲而醉矣。至湊川。

楠公墓在焉。碑面八字、大書深刻

斎藤拙堂儒学シユア（1881）『拙堂文集』

以上の例（49）字が碑に深く刻まれている様子を表している。「楠公墓」とは、神戸の楠木正成の墓を指している。「碑面八字」とは、その墓碑に書かれている「嗚呼忠臣楠氏之墓」のことを指していると推測される。したがって、ここでの「深刻」は中国語の意味と同様に「字が石版に深く刻まれる様子」の意味であると考えられる。

また、以上の「物理的な深くほりつける」という意味のほか、抽象的な興味、印象、思いなどにも用いられる、「印象」に関する用例は主に心理学や教育学などの科学的な文脈で確認される。例として、以下の用例が挙げられる。

(50) 教師タル者ハ宜シク興味ヲ醒起シテ之ヲ一定ノ方向ニ深刻確立サ  
シメ併セテ漸次ソノ範囲ヲ拡張スル

ゼーモス・サレー 著 和久正辰 訳（1887）『応用心理学（左氏）』

(51) 再生作用。深刻セラレタル印像ハ再生セラルノヲモ從ヒ容易ナレト  
モ把住ト再生トハ其ノ事柄ニ區別アリ

矢島錦藏（1892）『理科教授法』

以上の例における「深刻」はいずれも抽象的な文脈に用いられる。例（50）は「興味」を生起させ、それを一定の方向に確立させる。ここで言う方向は実際の方向ではなく、心理的に興味や印象を深く定着させることを指していると解釈する。例（51）における「深刻」は心理学における「把住作用」「再生作用」の説明に使用される。印象を深く、強く記憶に刻み込む必要性が述べられる。

また、感情や思想に使用される「深刻」の用例は、主に文学、人文の分野に確認される、以下の用例が挙げられる。



- (52) 女性は悲しむこと誠に、深刻にして永久なるが故に、此間、美の  
假情は意識外に

布川静淵（1894）「悲哀の美と女性」『女学雑誌』

- (53) 餅釘剪彩の痕を見ざれども而かも幽玄、深刻なる想を欠ぐ、蓋し  
近松は沙翁が人物の半面を會得したものと謂ふ

高山樗牛（1895）「戯曲的物語と近松巣林子」『太陽』

- (54) エーケスピアの傑作を讀破せば、其の間に經驗する苦惱は、如何  
に大、如何に烈、如何に深刻なるべさぞ

坪内逍遙（1896）『梨園の落葉』

以上の用例はいずれも「悲しむ」「想い」「苦惱」といった情感的な文脈に使用されており、感情や思想学核、強く心に根ざす様を表している。

- (55) 一は其の真理主義に由るへしと雖、一は其の觀察の浅なるに因ら  
うんはあらす。詩人は必ずしも人生觀など云ふか如き哲学を要せ  
すと雖、然れども人生に對する深刻なる批判眼を要す

尾崎紅葉（1895）『不言不語』

例（55）の「深刻」は前の文の「觀察の浅なる」に対して、さらに「深刻」なら批判眼が必要とされている意味を示している。それによって、ここでの「深刻」は厳しいという意味ではなく、その批判の深さを意味している。これらの用例から、「深刻」は、単なる物理的な深さの描写だけではなく、人の思想や感情のような内面的な深さを示す語としても用いられ始めていることを示していると考える。

新しい意味として意味④「事態が切迫し、重大なこと。言葉などが重大な意味をもつこと。また、そのさま。」に関して、この意味の「深刻」は主に 1890 年

以降の用例に見られる。しかし、その用例数は非常に少なく、一般的な用法ではないと考えられる。以下の例が挙げられる。



(56) 反対者ノ妨害ハ益々深刻トナリ奴隸ノ子女ヲ教育スル學校ハ破壊  
セラレ商家ハ之ニ物ヲ賣ルヲ拒

ボルトン (1892) 『貧児立身傳』

(57) 斯くて此の悲しむべき賣食の事実が人間の生活を説明するは極め  
て深刻なるものにして

松原岩五郎 (1893) 『最暗黒の東京』

例 (56) の深刻は反対者による妨害が激化し、ついに「奴隸ノ子女ヲ教育スル學校ハ破壊セラレ」までの事態となっている様子を表している。それにより、文中における「深刻」は「事態が切迫し、重大なこと」と言った意味として理解される。例 (57) は『日本語国語大辞典』にも掲載されている用例で、『最暗黒の東京』からの一文であり、章の冒頭に「座食<sup>44</sup>」が書かれている。ここでの「深刻」は明治中期、東京の貧民窟に暮らす人々が働く間に、先代から受け継いだ財産等を売り、その売却金で生活費を賄うといった悲惨な生活の様子についての描写に使用されている。以上のように、この意味の「深刻」の用例はいずれも現代の「深刻」と通じる面を持ちながらも、当時の日本語においてはまだ使用例が限られており、主たる語義として定着していたとは言い難い。

また、収集した資料から、この時期における「深刻」の使用例の数は、以前の時代と比べて大幅に増加していることがわかる。そして、以上の意味に属しない用例もいくつか確認された。以下では、字形が判断できない用例を除けば、例をいくつか取り上げ、説明していく。

(58) 製造種類 諸文房具 提琴 月琴 古琴 八雲琴 深刻 浮刻

(59) 製造種類 深刻 浮刻 花瓶 筆筒

---

<sup>44</sup> 働かざに暮らすこと。居食い。



例（58）と例（59）は『東京名工鑑』からの用例である。例（58）は八雲琴の下に小字の「深刻」が書かれたり、前後文脈がない為、「深刻」がどういった意味で用いられていたかは不明である。例（59）も同様に、花瓶の上に小字で「深刻」と「浮刻」の文字があり、花瓶の模様あるいは一種の製造技術を指していると考えられるが、実際の花瓶の様子や記述が拝見できないが為、判断することができない。下の用例は『訓蒙日本外史』からの「深刻」の一例である。こここの「深刻」では前の中国語と同様に「文法深刻」のように用いられる。

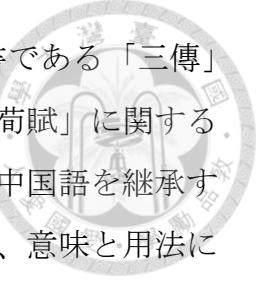
(60) 終ニ丹波ヲ賜フ、信長將士ヲ待スルニ禮節ヲ設ケズ、嘲謔嫚罵以テ常ト為ス而シテ光秀人ト為リ文深〔文法深刻ナリ〕喜ンデ自カラ修飾シ、材藝ヲ以テ自カラ高ブル

頼山陽 (1874) 『訓蒙日本外史』

文中における「文法深刻」は第三章の例（5）とは類似な用法である点から考えると、「文法」という法律を厳しい執行する意味であり、性格の残酷さを表している意と推測されるが、後の「自ら修飾し、材芸を以て自ら高ぶる」の「喜ンデ自カラ修飾シ、材藝ヲ以テ自カラ高ブル」の文脈と合わないと思われる。呉座勇一（2022）によると、この用例における「文法深刻」は「几帳面」といった意味であり、「無慈悲で厳しい」と言う意味ではない。したがって、光秀の「規律を重んじる」の性格の特徴を表していると捉えるのが妥当であろう。しかし、同じ「文法深刻」が見られる例（5）を見ると、例（60）における「深刻」の「几帳面」の意味は特殊の意味だと考える。

全体としては、1800年から1900までの「深刻」の使用および意味について以下の特徴が見られる。

1. 1600年から1800年までと比べると、その使用例が増加傾向で、意味の拡張も観察された。

- 
2. 意味②については、前の時代と同様に、『春秋』の注釈書である「三傳」の内容に対する批判的な文脈に使用されている。また、「荀賦」に関する文脈に見られる性質から、この時期における「深刻」は、中国語を継承する形で、その用例も漢籍関連の作にとどまる。したがって、意味と用法には大きな変化が見当たらない。
  3. この時期の意味③は頻繁に使用され、その文脈も前の時期より、大きく拡張している点が注目される。前の時代と同じ、この意味に用いられる「深刻」は植物やキノコ類の外見についての描写で使用される。それ以外の用例数が少ないが、脳のシワといった人体構造の記述にも用いられる。また、具体的な形状にとどまらず、「想い」「感情」「印象」などの抽象的な概念に対しても使用例が確認され、その多くは心理学、教育学といった学術の分野に属している。
  4. 新しい意味④「事態が切迫し、重大なこと。言葉などが重大な意味をもつこと。また、そのさま。」が出現し、現代日本語と類似する用法で使用されるのが特徴である。例えば、「反対者の妨害」、「生活の悲惨さ」の様子を表している。しかし、その使用数がかくに限定され、当時の「深刻」の主要な意味ではないと推測される。
  5. この時期における「深刻」の用例は、以前のような主に漢文関連の著作に使用されていたのと比べ、個人的な創作物である小説や、翻訳物、さらに学術的な著作などといったより広い分野で使用されようになった。特に、意味④の出現や意味③使用範囲の拡大は、「深刻」という語が日本語の語彙体系の中で徐々に定着しつつあることを示している。

#### 5.4 変容が見られる 1900 年から 1976 年までの「深刻」及び意味⑤と意味⑥

本節では、1900 年から 1976 年までの「深刻」の意味とその使用について分析する。全体的な用例数から、この時期における「深刻」の使用例は 1800 年から 1900 年までと比べるとかなり増える。また、その用例数も前の時代より多数見られる。この時期の「深刻」は従来の意味と新しい意味を合わせて、『日本国語大辞典』に掲載される四つの意味で用いられていたことが確認された。



まず、意味②について、この時期におけるこの意味の用例はほぼ見られない。収集した用例中、1例しかこの意味に属していなかった。内容から判断すると、この用例も他の作品からの引用であるとわかる。以下の例を見れば、一目瞭然だろう。

(61) 深刻過密。殆若解隱語。非聖人之意。故善得夫子之意者。莫左氏  
若也。胡氏謂。公穀 説義理。左氏備故事。非也  
井上哲次郎、蟹江義丸 共編（1901）『日本倫理彙編』

例（61）では、紙面上にて「伊藤仁斎 童子問卷の中」と書かれており、この内容も前節で取り上げた『童子問』の用例と完全に同じであることから、この「深刻」も『童子問』のように「物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること」の意味に相応しいと思われる。以上から、本時期、この意味で用いられる「深刻」は引用に止まって、またその用例数が乏しいことから、消滅していると言ってもいいである。

次の意味③に関してこの時期におけるこの意味で用いられる「深刻」は、前の時期と同様に、実際の物体における深くほりつける様子を表している。また、心理的な描写にも多く使用されている。まず、数が全体的に多いとは言い難いが、植物に用いられる用例がしばしば見られる。例えば、以下の用例が挙げられる。

(62) Ranunculaceae. 伊吹白山等ニ産ス、葉五深刻アツテ殆ド五裂、毎  
片不齊ノ缺刻ヲナシ、各細尖鋸歯アリ、質厚クシテ光澤アルコト  
石龍芮ノ如  
飯沼長順（1910）『草木図説』

例（62）に見られる「Ranunculaceae」は植物の一種であり、「深刻」は文中でその葉の様子を表すに用いられている。植物の葉や表面に刻まれた模様や裂け目の深さを表していると考えられる。



また、本時期では、さらに範囲が拡張し、植物以外に、酒が発酵する際に表面の白っぽい膜や、皮膚の皮溝などにも使用され用例も見られた。例えば、以下の例が挙げられる

(63) 「ミコデルマオ一」（桃ヨリス）（中略）二、發育ノ狀態、桃浸出液又ハ麥芽汁上ニハ稍々灰色ノ厚キ皮膜ヲ成シ深刻ナル皺褶ヲ現セリ

高橋偵造（1909）『最近清酒釀造法』

(64) 湿疹（中略）chenisationヲ呈シ、當該ノ皮膚肥厚シテ皮丘及ビ皮溝粗大深刻トナリ表面著シク粗糙トナルベシ

土肥慶蔵 1910 『皮膚科学 上』

例（63）では、酒が発酵する時に生成する白っぽい膜の様子について述べており、「深刻」はその膜の皺褶の形状を表現するに用いられている。例（64）では湿疹を患う皮膚の様子を表すのに使用され、「皮溝粗大」や「表面著シク粗糙トナル」から、その皮膚の様子が考えられる。ここでの「深刻」はその皮溝のシワの深さについて用いられ、そのほりつけること形状を表現している。この『皮膚科学上』には、このような皮膚の様子に「深刻」を使用することが多かった。

また、本時期では前の時期と同様に、「深刻」は字が石などの材料に深く刻まれている様子にも用いられていた。その場合、「大書深刻」という表現で表しているのが一般的であった。以下に例を挙げる。

(65) 田段を準と爲し或は山垠に抵り或は坑崁に傍ひ地方官をして堅厚の石料を揃用し碑を立て界を定め詳に年月地方を定めて大書深刻し佔墾の風を禁絶せん

台湾總督府民政部殖產局（1904）『台灣蕃政志』

例(65)は「大書深刻」を用いて、記されている内容或いは人の名が深く刻まれている様子を表している。詳細な年月地方が記され、估墾の行為を防ぐことを目的としている。「深刻」という一語でその文字の深さを体現している。

さらに、この時期になると、「深刻」は、小説などの文学作品や芸術分野の作品に頻繁に使われて、抽象的な概念に用いられ、主な意味となっていると考えられる。中でも「審美感」「印象」などに用いられ、その範囲の広さが分かる。

- (66) 亞耶列米亞哀歌等は皆猶太人が熱烈にして深刻なる審美感を含めるものなり

上田敏 (1901) 『文芸論集』

- (67) 永い幼少からの深刻な印象が深く私の頭を抑へつけて居たが東北學院の二年生の時小林文學士から、再び史實上の支倉傳を聞いた時、又もや深く六右衛門のローマ行や

庄司一郎 (1922) 『聖雄支倉六右衛門』

上記は、いずれも、「深刻」を抽象的な概念に用いる例であり、その対象は物理的な外見の特徴より幅広いと言えるであろう。また「深刻なる写実主義」のような新しい概念と組み合わせることができることから、物理的な形状に限られる「ほりつけること」より、その使用場面がより自由であると推測できる。この意味での「深刻」は、現代中国語の用法に近いと考えられる。

1890年以降に出現した意味④に関して、1920年代以前では使用例が多いとは言い難いが、その用例がいくつか見られる。例えば、以下の用例が挙げられる。

- (68) 佐濃谷川沿岸は古來未曾有の洪水に依り両岸の浸水を受けたるも比較的災害の深刻ならざるは地勢平坦なればなり

京都府熊野郡 (1921) 『熊野郡水災志』

- (69) 試みに一朝我が國土が廣汎激甚なる水害に罹り、又は經濟界に深刻なる恐慌を來し、爲めに租税の收入に激減を生じたりと假定せ

よ

小林丑三郎（1912）『財政整理論』



例（68）は佐濃谷川沿岸の地勢が平坦であるが故に、洪水被害が他のところより少ないことを指している。文中の「深刻」は災害が厳しくなり、重大な様子に用いられる。例（69）の「深刻」は經濟界が廣汎激甚なる水害により、その恐慌が一層に嚴重になり、切迫した様子に用いられていた。

次に、新聞資料を考察してみたところ、1920年代頃の見出しに事体の切迫さ等を表す「深刻」が使用され始めた。それ以来、新聞に出現した「深刻」は、ほぼこの意味に属すると思われる。

(70) 悲觀絶望の工業界に近頃不思議の現象 不景気だの淘汰だと叫ぶ  
の下ら殖える一方の工場と職工 深刻に成りゆく労働争議

朝日新聞 1923年7月4日朝刊5頁, 1段

(71) 広東、広西の反目、次第に深刻 各種流言行わるるも、現状はま  
だ戦闘で行かぬ

朝日新聞 1928年8月26日朝刊2頁, 8段

(72) 長江筋排日陰險 深刻で系統的

読売新聞 1923年7月15日朝刊2頁（「ヨミダス」から）

(73) 連判状を集めて家賃値下げの歎願 だんだん深刻になる不景気

読売新聞 1925年9月26日朝刊3頁（「ヨミダス」から）

以上の新聞記事の見出しに使用される「深刻」はいずれも「排日」「労働争議」「不景気」などで状況が益々厳しくなり、重大な事情に陥る様子を表し、新聞以外でも、このような「深刻」の用例が増加したことが明らかになった。例えば、当時の『中央公論』でもその用法が見られる。

(74) 實例は既に十九世紀の末葉、一八九〇年より九五年に亘る深刻な

る不況時代に、英蘭銀行自らの経験したところであつたと云ふ  
高垣寅次郎（1933）「金を中心とする貨幣的景気論」『中央公論』



公的な文書や報告書にもこの手の「深刻」が確認される。例えば、以下の例が挙げられる。

(75) 経済活動は量的に又質的に拡大され、民国時代の深刻な農業恐慌の嵐にも其の地理的條件の利を得てよそ耐へることが出来た

臨時産業調査局（1930）『農村実態調査一般調査報告書 康徳3年度』

(76) 現下經濟界ノ不況ハ深刻ニシテ就職ノ機會ヲ得ルコト能ハス生活上ノ脅威ヲ受クル者夥シク全國ニ彌蔓シ

東京地方職業紹介事務局（1930）『東京地方職業紹介委員会答申及建議』

上記に記した公的文書はやや早い年代である1930年頃に「深刻」が使用され始めたが、小説では1940以降にその増加が見られる。例えば、以下の用例があげられる。

(77) こんなことが嵩じて、内訌はどこまで深刻な闘争に發展したかわからぬ

前田河広一郎（1940）『蒼龍』

(78) これらの食料はこの深刻な物資欠乏の際直接命につながるものである

中勘助（1957）『くひな笛』

しかし、前の時期より増加しているというものの、当時の小説をはじめとする文学や芸術の分野にて、意味③の意味で使用されるのは一般的であると考える。



この時期における「深刻」の用例が全体的に増える傾向が見られ、それにより前述した四つの意味分類に属さず、判別できない用例もいくつか観測された。その中では、ここでは、いくつかの用例を取り上げ、説明する。

まず、以前の意味①が刑罰や法律などの厳しい様子に使われているに対して、「批判」の厳しい様子に用いられる意味が確認された。（以下「意味⑤」と称す）

例えば、以下の用例が挙げられる。

(79) 此の目的より、彼等は日本の行動に對し深刻なる批判と陰險なる曲解を下し、之を支那官民に敲吹した

馬場義興（1921）『国策の遂行と国力』

例（79）の「深刻」はその文脈から見ると、ここで「厳しい」の意味として使われていると考えられる。同じ「批判」に用いられる用法は本時期でも見られるが、（80）の「深刻」とは違うと考える。例えば、以下の用例を見にいこう。

(80) 今後は裁縫科教全體がこの根本問題解決のために深刻なる批判を加へることを忘れてはならない

渡辺学園 編 1940 『明治以降裁縫教育史大要裁縫関係法令抄』

例（80）では「根本問題解決のために」が書かれており、そのあとの「深刻なる批判」はこれに対して行う行動であると考える。したがって、ここの「深刻な問題」は「厳しい」ではなく問題の根本まで「ほりつける」ことを指していると考えられる。例（79）のような悪意を持って発する「深刻なる批判」とは異なる意味であると考えられる。

次、本時期の「深刻」ではこ「表情」や「顔」に用いられて、物事を考える際に真面目な顔を表している様子を表している意味が見られる。（以下「意味⑥」と称す）例えば、以下の例が挙げられる。



(81) 又子を負ふて唄ふ女の像の如きものを見ると、埴輪には東洋に於ける佛像の如き、又西歐に於ける神像や哲人の如き深刻な表情はないが、却つてその人間的な盛情の卒直な吐露が、時代を隔だしても觀者に新鮮な共鳴を喚起するのである

野間清六（1942）『埴輪美』

(82) やがて、父さんが深刻な顔をして歸つて來た。おばあさんが真先に出迎へて「今日は良かつたなア、お前」「えツ?」と父さんは複雑な表情でおばあさんの顔を見守つた

金川文楽（1940）『蚤の足あと』

例（81）では神像の以外に「哲人の如き」でその表情の様子について描写している。石像ではなく古代の哲人が物事を考える際の顔つきの様子を表していると考える。例（82）では、「父さん」の顔つきの様子について表している。さらに「複雑な表情」という文があって、文中の「深刻」はその物事を考える際に真面目な顔を表していると考えられる。

以下は『有機化學』からの用例である。

(83) 例之バ CH<sub>3</sub>·CHO + NH<sub>3</sub>=CH<sub>2</sub>·OH·NH 而シテ此アルデヒードアムモニアハ深刻ノ分解ヲナスニアラザレバ水ヲ析出セザルヲ

丹波敬三，下山順一郎，小山哉，柴田承桂（1909）『有機化學 前編』

(84) 例之ヲ溶解セシムルモ既ニ多少分解シ、濕潤セル狀態ニ於テ之ヲ貯フルトキハ速ニ深刻ノ分解ヲ受ク即チ腐敗ス

丹波敬三，下山順一郎，小山哉，柴田承桂（1916）『有機化學 後編』

例（83）の「深刻」は化学式に用いられておる。文の内容から判断すると、この式はアセトアルデヒドとアンモニアを用いてアルデヒドアムモニアを生成する反応であるが、「深刻」は分解の様子について使われていると考え、「徹底」はあるいは「深い」などの意味で使用されるのかは判断できない。例（84）も同様



に、「分解」に使われるが、化学の知識が欠けていることから、「深刻」がどんな意味で使用されるのかを確認することができない。「深刻ノ分解」という用法はこの『有機化學』の二例にしか見られない。したがって、当時の一般的用法ではないと考えられる。

また、以下は『運動生理学』からの「深刻」の用例である。

(85) 而シテ修練ニ依リ受ケタル器官ノ變化ハ深刻ナルモノニアラスシ  
テ修練ヲ中止スルトキハ其變化及獲得シタル最高能力ハ速ニ消失  
スルヲ特微トス

吉田章信（1916）『運動生理学』

ここでの「深刻」は器官の変化の状況について指していることがわかるが、その意味も同様に判別できない。

全体として、1900年から1976年までの「深刻」の意味変化と使用状況には以下の特徴が見られる。

1. この時期の意味②の用例は、ただ、『日本倫理彙編』からの一例しかなく、内容から見ても伊藤仁斎の著である『童子問』から引用であり、作者自身の作ではない。前の時期では主に「三伝」の内容の対する批判に使われていたことから、「無慈悲で厳しいこと」よりも使用する場面が限られていることもあり、この時期の後半ではもはや消滅した意味であると考えられる。
2. 意味③については、前の時期の後半にかけて使用頻度が増え、かつ頻繁に使われていることから、この時期においては、「深刻」の主要な意味となっていると考えられる。使用範囲は、もともと植物の外見に用いられる用法から、さらに、前の時代で「想い」「感情」「印象」などの抽象的な概念に対しても使用例心理学、教育学といった学術にとどまらず、さらに文学、芸術などの分野にも見受けられ、「感動」「感情」「思想」などの心理活動に用いられる用例も確認された。
3. 意味④は1920年代以前では、災害の報告書などにしばしば見られるが、主な意味とは言い難い。1920年代初期に新聞の見出しに使用されおり、それ

以降使用傾向が一転し、新聞においては「深刻」の用例はほぼこの意味に属する。1930年代になると、『東京地方職業紹介委員会答申及建議』のような文書でもその意味での「深刻」が頻繁に使用され、公的な文書における「深刻」の主な意味となっていると考えられる。一方で、小説を代表とする文学や芸術の分野でもその影響を受けると思われるが、使用傾向に増加が見られる。

4. 意味⑤「批判が厳しい様子」と⑥「意味物事を真剣に考えている表情」は、『日本国語大辞典』に載せていないものの、使用例が確認された。用例数が少ないため、どちらかというとまだ一般的な用法とは言い難いと考えられる。
5. 全体的な傾向として、この時期の「深刻」では、意味①と②は消滅していく傾向が見られる。それに代わり、日本語の独自の意味である意味③と意味④といった意味はそれぞれ文学の分野や公的な分野で主な用法となり、自らの形で日本語に定着していくと考えられる。

## 第六章 終論

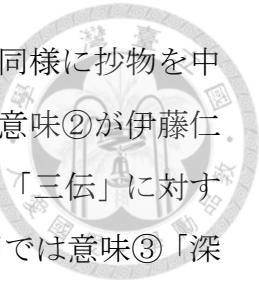


### 6.1 結び

日中両言語では、同じ表記で存在している語が数多く存在している。しかし、語形は同じと言っても、その用法が同じとは限らない。その中、「深刻」はその一例として挙げられる。「深刻」では、現在日中両言語においてはどうちらも使用頻度が高い語に属するが、その意味には大別がある。辞書などの資料を調べた結果として、両言語の「深刻」とも過去に類似な意味を持っていたことがわかる。では、なぜ現在ではその使用上にて大きな差が存在しているか、本研究ではこれを問題意識として、日本語の「深刻」の各時代における意味変化について考察を行った。

まず、「深刻」は日本語の受容時期が1400年後半である。その時では『史記抄』、『帳中香』のような抄物にて使用されることが確認された。当時の意味も中国語の「きわめて残酷なこと。むごいこと。また、そのさま。苛酷」受容義であることがわかった。日本語に取り入れた意味①は、15世紀頃に日本語に輸入した以来、ずっと使用されてきている。15世紀頃から主に漢籍を読むための注釈書である抄物を初めとして、それからずっと中国語の意味のまま用いられる。その後、日本語には一般的な意味として定着していないが、1800年から1900まで、20世紀前半では、翻訳された本、漢学者の自著や法律に関する文書にその使用が見られる。しかし、その数が多くとは言えないだろう。また、この意味の“深刻”は1400年以来、抄物や中国語の経典の注釈として使用される用例がすべての考察年代に見られるが。その使用場合がかなり限られていると思われる。

次に、「深刻」が日本語に取り入れられた以降、1500年から1600年までの時期では意味②「物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること」の使用が始めに確認された。当時では意味①と同様に抄物である『四河入海』で使用されたことがわかる。またその用例の出典と内容から考えると、この意味も中国語“深刻”的意味であることがわかる。



1600年から1800まで、「深刻」では、意味①は以前の時期と同様に抄物を中心として漢籍の註釈書で使用されるのは一般である。その一方、意味②が伊藤仁斎などの当時の儒学者に使用され、主に《春秋》の注釈書である「三伝」に対する批判的な内容に用いられることがわかった。さらに、この時期では意味③「深くほりつけること。また、深く心に刻みつけること。深く胸を打つものがあること。また、そのまま。」が出現して、『本朝食鑑』と『和漢三才図会』などの類書で植物の外見的な特徴に関する描写に確認された。しかし、当時日本語では「大書深刻」の石に刻まれている字の様子を表しているのではなく、植物の外見に使用されていてことがわかる。この時期のこの意味の「深刻」は物理的な特徴にとどまり、心理的な描写にてその使用が確認されなかった。

1800年から1900年まで、「深刻」の意味①と意味②二つの意味は主に中国語に関する著作に使用される。その一方、意味③の用法はさらに抽象的な対象にも発展して、植物と物体の以外に、人の心理活動である「印象」、「感情」などの分野にもその使用が見られるようになった。日本語独自の用法に発展していくことがわかる。

さらに、1880年代前後では新しい意味④「事態が切迫し、重大なこと。言葉などが重大な意味をもつこと。また、そのまま。」が出現して、『最暗黒東京』、『貧児立身傳』のような小説に使用された。しかし、その用例数がわずかであることから、当時の主な用法となっていました。

1900年から1976年の間に、以上の意味①～意味④とも使用例が確認されたが、元の中国語の意味である①、②が消滅していく傾向が見られる一方、意味③の範囲がさらに拡張して、当時の「深刻」の主な用法となっていることがわかる。それと並行して意味④では新聞紙の見出しに使用され、その後、新聞紙と公的な文書にて、この意味の「深刻」が主な用法となっておる。考察の最後の時期である1976年代では、意味③と④が日本語における主要な意味となっていると考える。さらにこの時期では、「深刻」が『日本国語大辞典』に載せてない意味⑤「批判が厳しい様子」と意味⑥「意味物事を真剣に考えている表情」の意味が確認された。その中、ここではさらに、意味⑤は以来の①と違って、「刑罰」や「法律の執行」ではなく、「批判」の様子に使用されている。それによって、意味⑤



は①の意味がさらに範囲が拡張している意味だと考えられる。しかし、意味⑤と⑥は用例が意味③と④より少ないとから、当時「深刻」の主な用法であると言えないであろう。

『日本語と対応する漢語』や任（2014）の研究成果を踏まえて考えると、1976年以降では、意味③の使用が減っており、それに代わって意味④が主要な意味用法となって、現在の使用状況に発展しにいくと推測できる。

以上の「深刻」の意味変化の流れを大まかに、以下の表4にまとめる。

表4 各時代における「深刻」の意味

		1400～ 1500	1500～ 1600	1600～ 1800	1800～ 1900	1900～ 1976
受容義 意味①	きわめて残酷なこと。むごいこと。そのまま。苛酷。	○	○	○	○	○
意味②	物事を深くつきつめて考えたり、せんさくしたりすること	X	○	○	○	○
意味③	深くほりつけること。また、深く心に刻みつけること。深く胸を打つものがあること。また、そのまま。	X	X	○	○	○
意味④	事態が切迫し、重大なこと。言葉などが重大な意味をもつこと。また、そのまま	X	X	X	○	○
意味⑤	批判が厳しい様子	X	X	X	X	○
意味⑥	意味物事を真剣に考えている表情	X	X	X	X	○



## 6.2 今後の課題

本研究では、日本語における漢語「深刻」の意味変化の歴史について考察を行った。その変化のプロセスについて浮き彫りにした。しかし、一方、解決していない問題点もいくつか存在している。

例えば、各時代における中国語“深刻”に関する考察が欠けていることが挙げられる。例えば、日本語では意味③が使用されて始めた時期では植物の外見に用いられて、中国語の「字が深く刻まれている」意味とは違いが、その後でも中国語の「大書深刻」という用法が見られて、③の植物に用いられる用法が日本語独自の用法であるかどうかはまだ不明である。検討は他日に期することにしたい。



## 参考文献

[日本語]

- 村上恭一 (1986) 「伊藤仁斎の哲学 上」『法政大学教養部紀要. 人文科学編』58 法政大学教養部
- 大河内康憲 (1992) 「日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対象研究論文集（下）』 くろしお出版
- 欒竹民 (1994) 「漢語の意味変化について：「心神」を一例として」『国文学攷』142 広島大学国語国文学会
- 欒竹民 (1995) 「漢語の意味変化について：「濫吹」を中心に」『鎌倉時代語研究』18 鎌倉時代語研究会
- 金培懿 (1995) 「伊藤仁斎の孔子回帰思想成立の背景：呉廷翰の影響を中心として」中国哲学論集. 21
- 林玉惠 (2001) 「日中の対訳辞典からみた日中同形語記述の問題点—同形類義語を中心に—」『ことば』22 現代日本語研究会
- 中里理子 (2002) 「オノマトペの多義性と意味変化：近世・近代の「まじまじ」を例に」『上越教育大学研究紀要』22
- 王曉 (2005) 「中日同形語の翻訳」『経営研究』 19
- 鍵主智美 (2007) 「やさしさ」の意味変化：辞書記述に基づく語義分析『金沢大学経済学部社会言語学演習』7
- 三浦億人 (2011) お伽草子『十二類絵巻』幽香叢書本をめぐる一試論
- 張科蕾 (2012) 「辞書から見る中日同形語「勉強」の意味変遷について『下関市立大学論集』55 卷 3 号 下関市立大学学会
- 任海川 (2014) 「日本語と中国語における漢字同形 異義語の意味的相違に関する研究 —『日中辞書』『中日辞書』における辞書的解釈の問題点及び辞書編纂の諸問題をめぐって—」
- 前川喜久雄 (監修) 山崎誠 (編) (2014) 『書き言葉コーパス—設計と構築—』講座日本語コーパス 2 朝倉書店
- 欒竹民 (2016) 「日本語における漢語の意味変化について：「馳走」の続貂」

『広島国際研究』22 広島市立大学国際学部・国際学研究科『広島国際研究』  
編集委員会

宮川康子 中谷仁美 辻本伊織 (2018) 「伊藤仁斎『童子問』を読む(三)」京都産業大学日本文化研究所紀要 23

宮川康子 中谷仁美 辻本伊織 (2019) 「伊藤仁斎『童子問』を読む(四)」京都産業大学日本文化研究所紀要 24

吳座勇一 (2020) 『戦国武将、虚像と実像』角川出版

向靜靜 (2021) 「『医学院学範』にみえる医学院の学習手順と畠黃山の儒書観」

『日本医史学雑誌』第67巻 第2号

陳路 (2002) 「中世五山の漢学教育をめぐる考察 一桃源瑞仙の『史記抄』を中心として 一」

木山朔、小町守、小木曾智信、高村大也、松井秀俊、持橋大地 (2024) 「意味変化分析に向けた単語埋め込みの時系列パターン分析」『言語処理学会第30回年次大会発表論文集』

[中国語]

徐其寧 (2014) 「從「孔子家語」到《孔子家語》：《孔子家語》成書過程考」『第九屆漢代文學與思想國際學術研討會論文集』 國立政治大學中國文學系

蔡毅 (2018) 「日本漢籍《四河入海》的蘇詩別解」『共相與殊相：東亞文化意象的轉接與異變』 中央研究院中國文哲研究所

・辞書

[日本語]

国語学会編 (1980) 『国語学大辞典』東京堂出版

『日本国語大辞典 第二版』 (2007) 小学館

『デジタル大辞泉』 (2012) 小学館

[中国語]

《古漢語大辞典 新一版》 (2007) 上海辞書出版社

《漢語大辞典 訂補》 (2010) 上海辞書出版社

・インターネット資料

[日本語]





小木曾智信・近藤明日子・高橋雄太・田中牧郎・間淵洋子編（2023）『昭和・平成書き言葉コーパス』<https://clrd.ninjal.ac.jp/shc/>（2025年5月30日確認）

国立国語研究所（2025）『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

2025.03<https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/>（2025年5月30日確認）

国立国語研究所（2025）『日本語歴史コーパス』<https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/>（2025年5月30日確認）

次世代デジタルライブラリー <https://lab.ndl.go.jp/dl/>

『朝日新聞クロスサーチ』<https://xsearch.asahi.com>

『ヨミダス』<https://yomidas.yomiuri.co.jp>

[中国語]

教育部重編國語辭典修訂本 <https://dict.revised.moe.edu.tw>



## 付録

### ・各データベースの用例と意味分類

#### ア. 1400年～1500年

##### A. 『次世代デジタルライブラリー』（1例）

###### 意味①（1例）

- 文者法也持文法深刻謂之新文法刻曰文深以文法致人於罪謂之文致後漢宋均字叔庠好經書通詩礼性寬和不喜文法

万里集九（1489）『帳中香』

#### イ. 1500年～1600年

##### A. 『次世代デジタルライブラリー』（4例）

###### 意味①（3例）

- 杜周 漢書列伝三十、史記酷吏傳六十二（中略）史記、重遲外ハ寛内ハ深次（イタル）骨、注李奇曰、其用罪深刻至レ骨。索隱曰、次、至也

清原宣賢（1526～1529）『蒙求聴塵』

- 韓子（中略）新序曰申子之書言人主當執術無刑囚脩以督責臣下其責深刻骨、故號曰術商殃所為書號曰法（中略）孤憤

（1600前後）『蒙求抄』七卷

- 前漢書列傳曹參傳（中略）文辭云云、召除為二丞相史、吏言レ文深刻、務レ声名シ、輒斥去之。日夜飲レ酒。卿大夫以下、吏及賓客、見參不レ事レ事、來者皆欲レ有レ言

笑雲清三（1534）『四河入海』

###### 意味②（1例）

- 題云北山 北山輸綠漲橫坡（中略）石林詩話云荊公詩律精嚴、至「細數落花 因坐久，緩尋芳草得歸遲」之句、但見舒閑容與之態耳、而字々細考之、若經槩括權衡者、其用意亦深刻矣、又趙章泉評云荊公（省略）

笑雲清三（1534）『四河入海』

#### ウ. 1600年～1700年

##### A. 『次世代デジタルライブラリー』（7例）

###### 意味①（4例）

- 張湯巧詆 漢書二十九。張湯杜周二人ハ酷吏傳二。（中略）然得ノサレドモ公侯ノ氣ニ アフタ程ニ聲譽ヲ得タリ何事云ヘバ造請諸公寒暑モ。サケニト云ノ譽ヲ得タリ。而深刻。刻痛也剝也。物ヲ深クキザンテ



2. 湯カ爪牙ノ如キ者ソ。文學士ハ文學ヲナス者ヲ云リ。湯カ爪牙ノ用ナル者カ文學ヲナス者ニ歸依ノ文學ノ方ニモウトフトイソ。深刻ニハアレトモ
3. 于公高門 罷ハ本傳ニハ羅トカイテ 注レタリ 文法ハ法ヲ行フ處カキリキサムヤウニ。文ハ法也持法深刻謂之文

仁左衛門 刊 (1638) 『蒙求抄』十卷

4. 是年歩夫人卒追贈皇后一ヲ初權信二任校事呂壱ヲ性用レ法深刻

田犀點村上勘兵衛山本平左衛門刊 (1670) 三國志 65 卷 [32]

### 意味③ (3 例)

1. 薺 和名訓奈都 『集鮮』 薺有大小而一物也俎大者有レ毛ノ爾處處田野庭園俱多有レ之冬至レ後生レ苗其葉著レ地形如蒲公而葉頭有深刻鋸齒向レ下采レ之作蔬茹
2. 多牟保保草 『釋名』 俗稱藤菜或稱鼓草俱名義未詳 『集鮮』 野徑庭園多有春初生レ苗布レ地四散葉略似蘿蔔而小葉端三尖如鋒頭而次第深刻二三月之際一莖聳上三四寸斷レ之有白汁上開レ黃花如野菊
3. 鷄冠菜 『釋名』 鳥坂苔 『集鮮』 狀如雞冠有レ小齒有レ深刻深紅色味不レ美以レ淡味而愛此矣海濱石上生古者參河伊勢志摩紀伊石見等州貢獻于民部省部省今亦處處多ク有レ之氣味主治未レ詳

人見必大 (1697) 『本朝食鑑』

## エ. 1700 年～1800 年

### A. 『次世代デジタルライブラリー』 (11 例)

#### 意味① (4 例)

1. 予觀ニ予通鑑纂等ノ書ヲ其評ニ驚スル人物ヲ善レ善惡レ惡不ニ一毫假借可謂レ嚴矣然斷決深刻古今無全人殆有申韓刑名之氣象而無ニ聖人涵容之意味持己甚堅責レ人甚深浸淫於肺腑透浹於骨髓卒為刻薄之流專主ニ張理字之弊一至ル於此悲哉

伊藤仁斎 (1707) 『童子問』中 六十五章

2. 孤兒行 孤兒生孤子遇生命難持保、父母在時、傳姆令我出入在懷抱、父母已逝兄嫂令我供酒掃（中略）兄與嫂嚴且酷、歸當為我家鞭笞、亂曰、父母在上天、願托飛鴻通信、父母在下地、願屬潛鯉寄書、兄嫂深刻難與居

諸葛琴台 (1800 前後) 『鬢髮山人集』二十卷

3. 高節ヲ志在レ奉スル公然深刻シテ喜ヲ唱ニ害人ヲ一又好シテ言ヲ事刺譏

4. 然ニ得リニ此聲一ヲ而シテ深刻吏多シ為ニル身ノ用一者ニ於文學士

植村藤右衛門等 刊 (1790) 標題徐狀元補注蒙求 3 卷

#### 意味② (4 例)

1. 二千年以來而無萬世無絕此聖人之旨也讀春秋者當專據左氏之傳義理明白自與孟子之意合公穀二傳深刻過密殆若解隱語非聖人之意故善得夫子之意者莫左氏經至袁公十六年己丑孔丘卒（省略）

伊藤仁斎 (1707) 『童子問 下』 五章

2. 觀二予通鑑纂等ノ書ヲ其評ニ驚スル人物ヲ善レ善惡レ惡不ニ毫假借可謂レ嚴矣世非湯武貶管仲王魏亦是也然然斷決深刻古今無全人殆有申韓刑名慘刻之嚴而無ニ聖人涵容仁厚之篤持己甚堅責レ人甚深浸淫於肺腑透渢於骨髓卒為刻薄之流專主ニ張理字之弊一至ル於此悲哉

中江岷山 (1709) 『理氣弁論』二卷 十六章 辨自然之理

3. 穀梁伝宋胡安國皆以褒貶見春秋、朱子及呂大圭非レ之、以為春秋豈翅褒貶之一事已哉、三傳所レ説加レ列制レ義、鑿空揣摩、聖人豈有如レ斯深刻隱語乎辟諸太陽之召臨宇宙（中略）矣如三傳、艱深隱僻、歐陽氏不取之、可謂卓識也

畠黃山 (1785) 『医学院学範』 三卷

4. 遷北宋ノ版王蕭注本子。大書深刻與二今本迥二異。惜二二卷十六葉已前皆已蠹蝕。因復向先聖焚レ香叩レ首願窺ニ全豹。幸己卯春從錫山酒家復觀二函。冠冕歸然，亦宋刻王氏注也

太仔純 増註 小林新兵衛刊 (1789) 『孔子家語』

### 意味③ (3例)

1. 蝦手綿 其葉深刻如蝦ノ手樹葉故名レ之白花而桃大其棉契白而桃數少予
2. 鴛膏蕈 生ニ高山ノ中狀類ニ鴛子（中略）寸頭有柄如鼓槌其大者近尺經日發 傘外色黃白帶紫內白有細深刻奇柄肥大者柔而味良
3. 番蕉 五雜組 云相傳此樹從琉球來（中略）其葉長二三尺深刻比比似ニ魚刺兒 樹生ニ於根ノ下大レ如拳

寺島良安 (1712) 『和漢三才図会』 105卷

## オ. 1800年～1900年

### A. 『次世代デジタルライブラー』 (300例)

#### 意味① (95例)

1. 韓子深刻無レ恩賊道權機有レ術残レ忠ニ毒猶対レ症成薬可ニ獨医安樂公  
静軒居士 (1838) 『静軒詩鈔』
2. 無レ形因以督ニ臣下一ヲ其責深刻四刑名法術之書風冊等難ニ云人主曰レ法皆曰ニ刑名  
津田鳳卿甫 述河内屋喜兵衛等 (1849) 『韓子解詁』
3. 漢書蓋寬饒伝曰深刻喜陷ニ害人一東方朔傳曰喜爲庸人誦説可ニ以証  
尾台榕堂 (1856) 『類聚方広義』

4. 深刻吏然得此聲-譽ナサケヲ知ラ又・ルノ各代タ得タルナリキビシキ役人シ多爲爪牙

5. 高上ナル節義ヲ好ムニ上君ノ爲深刻ハ政ヲ行ク

田興甫 (1870) 『補註蒙求国字解 卷之2』

6. 九年二月都御吏陳瑛以レ罪誅、瑛殘忍專以搏擊レ為能帝寵認之益務深刻傾陷不レ可勝レ計怨聲徹レ天（中略）下獄死天下快之

後藤世釣 編集 藤原正臣 増補 (1860) 『増補元明史略』

7. 直義人トナリ強思狡猾、而ノ人ノ己ヲ議ルヲ畏レ、外恭順ヲ示シ、内ハ實ニ深刻ナリ



林春斎 (1873) 『校正王代一覽：鼈頭插画 6』

8. 其弟〔名ハ持密丁〕權ヲ操リ、更使阿房ノ如キ宮ヲ作ル刑ヲ繁クシ誅ヲ嚴ニス、吏治深刻ニシテ

モリソン (1874) 『万国綱鑑錄和解』

9. 設使大連之心能光明正大而非深刻狡詐必不薰於其罪可誅之

松岡時敏 (1875) 『学古贋議』

10. 法也又持法深刻謂廻租官歎九十五法元史氏は本郷リ切姓也以上海致人於罪文部

毛利貞斎 (1875) 『増続大広益会玉篇大全：校正 辰 卷第4上 4画上』

11. 深刻之法フカクセンサクスルムゴキオキテ齊眾ムリヲシシテ人心ヲト向ニ

ソロエサセル 戸田仙橘 編 (1876) 『唐宋八家文字解』

12. 九年、都御吏陳瑛罪ヲ以テ誅セラル瑛建文ノ時、燕府ノ金錢ヲ受ケ、多忠良ヲ害ス是ニ至テ益深刻ヲ務ム（中略）獄ニ下レ死ス天下快トス

小永井八郎編 (1877) 『漢史一斑』

13. 太政大臣賴長美姿貌為レ人嚴厲深刻每昭會諸卿或晚至、或議與レ己異者特摧辱之甚則焚其第、人呼曰「惡左府」

橋本寧 (1877) 『瓊矛余滴』

14. 爲人、外柔順而内深刻。姦謀密策。皆成其手令等暴死。

石川鴻斎 編石川鴻斎 (1877) 『日本外史纂論 3-4』

15. 甚則至壞或議與己異者、特朝會諸卿或晚至、不然嚴厲深刻

岩垣松苗 (1877) 『増補点註国史略 3』

16. 獄吏專為深刻殘賊

南保重英 (1877) 『初学文梯 下』

17. 瑛建文ノ時、燕府ノ金錢ヲ受ケ、多ツ忠良ヲ害ス、是ニ至テ益深刻

小永井八郎 (1877) 『漢史一斑 第4卷』

18. 元明史夏敏言文法深刻貧酷ハ、甚劇深文

岩城魁 (1877) 『元明史略訓字海 下』

19. 深刻非明。縱弛非寬。交際非私。協恭非黨

『清史攬要：6卷 卷之3』 増田貢 (1877)

20. 人ノ罪ヲ受ク、ポアソナード氏曰、佛國革命前、律法深刻

井上毅 (1878) 『治罪法備攷 下編 第2卷』

21. 居心深刻善疑特遣心腹之十監其軍凡軍中一動此下有離心士無鬪志日開於帥幕之

張宗良 (1878) 『普法戰記 9, 10』

22. 以爲忠信忠臣義士之氣憤深刻以待之、宜哉。

中尾与三郎 (1878) 『評論名臣文鈔 卷之1』

23. 註 其用罪深刻至骨。



高井思明 (1878) 『三音四声字貫 卷之 1』

24. 不爲漢廷之良佐乎而乃以申韓刑名之學峭直深刻

葉向高 (1878) 『綱鑑精采 卷之 4』

25. 瑕天性殘忍、寵任ヲ受ケ益く深刻

原田由己 (1878) 『歴史攬要 卷 17』

26. 胡亥極コノヒト惡ヲキハメツヲクト 用法益深刻只數語寫胡亥暴虐之甚下便接陳涉起兵矣

堤大介 編 (1879) 『史記啓弁』

27. to the very bones, 其用之刑深刻次骨

羅布存徳 原著 井上哲次郎 訂増 J. Fujimoto (1883) 『英華字典』

28. 其責深刻、故號曰術

貝原益軒 (篤信) (1883) 『小学句讀集疏 卷之 8』

29. 帝寵任之、益益務深刻傾陷不可勝計

井上重実 (1883) 『御批歴代通鑑輯覽 明紀』

30. 筑後守水野忠徳、後稱癡雲、爲人峭深刻厲

木村芥舟 (1883) 『黃梁一夢』

31. 忠邦之所信、果何人非深刻殘忍之鳥居甲斐

近藤瓶城 (1883) 『國史略：万国記註 5』

32. to the 其用之刑深刻次骨

ロブスチード (1884) 『英華字典』

33. 小人ノ心ヲ用ユル深刻險毒

藤田茂吉 (1884) 『文明東漸史』

34. 而言之事涉深刻。但兩京之内犯盜者

木村正辭 (1884) 『憲法志料 2 篇』

35. 專以轉擊爲能帝寵任之益務深刻偶陷不可勝計怨聲徹天

後藤芝山 (1884) 『増補元明史略：標記註解 二』

36. 饒傅ニ深刻喜ク害人ヲ陷チル

池田蘆洲 (1885) 『文章軌範纂語字類 2』

37. 務爲深刻。甚者或至枉濫。帝爲之惻然。

引田利章 (1885) 『大越史記全書 3, 4 本紀全書』

38. 韓非氏復流於深刻之文尹文氏又合黃老刑名爲交

帰震川 (1885) 『文章指南 礼集』

39. [文法] 西仲云說此ニ至テ深刻ノ極以テ加フル

三浦応 (1886) 『唐宋八家文詳解』

40. 深刻。無慈悲。等ノ諸毒鬼力。牙ヲ磨シ。爪ヲ爬シテ。咆哮スル所ノ一大噴火山ノ如ク。

徳富猪一郎 (1887) 『新日本之青年』



41. 李奇曰其用罪深刻至骨又造次猶言草次急遽貌

山田清風 (1887) 『增訂康熙字典 卯-巳集』

42. 深刻善疑。特遣心腹之士監其軍。凡軍中一動靜。無不飛書告知

張宗良 (1887) 『普法戰記 卷 9-10』

43. 其深刻殘忍殆ント言語ニ絶セリト謂ハザルヲ得ズ

北村三郎 (1889) 『印度史：附・朝鮮、安南、緬甸、暹羅各国史』

44. 而斥去深刻者。或以此短參以爲是時天下未爲全治

中村敬宇 (1889) 『敬宇文 卷之一、卷之二』

45. 觀三代以還能言之士。若莊周之宏肆。荀卿之嚴正。韓非李斯之峭峻深刻。賈誼司馬遷之豪情悲壯

吉村秋陽 (1882) 『讀我書樓遺稿』

46. 無辜ノ皇族大臣ヲ誅殺シ法ヲ用井ルヲ益深刻ナリ

47. 張湯、趙禹ノ輩務メテ深刻ナル法律を定メ

棚橋一郎 (1892) 『支那歴史：中等教育 上』

48. 天下を統一す始皇性剛戾果斷法を用ふること深刻にして假借する所なく人殆ど堪える能いす  
富山房 (1892) 『支那新歴史』

49. 實ヲ責ムルニテ君ヲ尊ビ臣ヲ卑クシ上ヲ崇ミ下ヲ抑エ上下ノ分ヲ嚴ニシテ深刻

村山拙軒 (1892) 『史記列伝講義』

50. 主曰釋迦牟尼、身毒迎維衛國王之其俗陰險深刻

会沢正志斎 (1892) 『下学邇言』

51. 史記酷吏社周傳内深次骨註李奇曰其用罪深刻至骨

石川鴻齋 (1892) 『鼈頭音积 康熙字典 再版』

52. 是以獄吏專爲深刻殘賊而亡極嫁爲一切。

池田胤、山田準 (1893) 『文章軌範読本 続』

53. 四角四面に世を渡らんと欲するの弊は、深刻苛察、楊子を以て重箱の四隅を掃除するに至る

54. 深刻苛嚴なる規律は、大將伯の萬事萬物に向て應用せんと欲する所の者なるが如し

尾崎行雄 (1893) 『内治外交』

55. 其刑政ヲ用フル極メテ深刻

56. 政ヲ用フルヲ深刻ナルヲ謂フ

太田才次郎 (1893) 『史記列伝講義 第1卷』

57. 更メテ法律ヲ爲リ、務メテ益々深刻

内山正如 (1893) 『受験問答支那歴史一千題』

58. 古ノ聖人ハ深刻、キビシキ)ノ法ハ、以テ衆ヲ齊フベク、勇悍ノ夫ハ、以テ事ヲ集ナス

59. 彼ノ深刻ノ法ト、勇悍ノ夫トヲ以テ、此ノ忠厚老成ニ易サル者ハ、其得ル所小ニシテ

石川鴻齋 (1893) 『唐宋八大家文講義 卷 17-23』



60. 某事某物の發明創造は彼れ深刻殘忍の民、之を能くするに足らん

西師意 (1893) 『經國大策百年之安危 上卷』

61. 是以獄吏專爲深刻殘賊而亡極。始爲一切

石川鴻斎(1893)『文章軌範講義 總』

62. 軀幹長大、音吐洪鐘の如く、而して其の容儀は、稍深刻苛嚴に近く

ジョン・チー・プリンス (1893) 『獨逸學校教授法』

63. 慘磣少恩註ニ、法ヲ用ウルコト惨急ニシテ鞠磣深刻

内藤耻叟 (1893) 『漢學速成：一覽博識』

64. 法ヲ持スル深刻ニ事ヲ處スル細カニシテ謹ミ深シ然レ トモ他ニ大謀略ノ天下(文深審謹)文深 ハ法ヲ治スル

太田才次郎 (1893) 『史記列伝講義 第5卷』

65. 賴長容貌美ナリ人ト爲リ嚴厲深刻

山田美妙 (1893) 『万国人名辭書 下巻 日本之部』

66. 太史公曰ク、商君ハ生レツキ、深刻殘忍

67. 無爲自然ノ中ニ變化ス、故ニ其ニシテ深刻

城井寿章 (1894) 『史記列伝講義 上』

68. 兩法案は極めて粗歯淺薄のものなり極めて深刻暴戾

越山太刀三郎 (1894) 『條約攬行論』

69. 君之少恩矣用刑深刻

安藤定格 (1894) 『史記讀本：校訂 卷之 61-69』

70. 深禍ハ深刻ナリ上ノ憎デ罪セント思フ者ハ、湯監等ノ賢者本ノ湯ノ爲メニ建議セシ

71. 法ヲ用ユル深刻ニシテ

城井寿章 (1894) 『史記列伝講義 下』

72. 司馬貞曰按質司馬貞曰本性也不憫誠也刑深刻薄謂棄仁義

73. 韓王司馬貞曰韓安也術之書鞅所、爲書號曰法皆其貴深刻故號日術

深井鑑一郎 (1894) 『史記列伝讀本：標註 卷之 1』

74. 李奇曰其用罪深刻至骨

75. 是時、趙禹張湯以深刻爲九卿矣。然其治尙寬、輔法而行

76. 持文法深刻論徐廣曰一作編傳蘇林曰謂傳囚也看易

深井鑑一郎 (1894) 『史記列伝讀本：標註 卷之 5』

77. 是時體萬張湯以深刻爲无卿矣然其治街寬補法而行

78. 一概不肯放是周深刻處

池田蘆洲 (1894) 『史記讀本：校註 第5冊』

79. 文深持文法深刻也

80. 是時趙禹張湯、以深刻為九卿

安藤定格 (1894) 『史記讀本：校訂 卷之 112-117 1894』

81. 然レトモ信長之ヲ待ツニ禮ヲ以テスル時ハ、固ヨリ能爲スナシ、但驕暴ヲ以テ深刻ニ加ヘ、且光秀ノ野心ヲ懷クアリ

京都市参事会 (1895) 『平安通志 17, 18』

82. 彼等は無情にして深刻なる家康より、磔殺、火刑、鋸刑、水刑の苦を受け  
83. 弟を殺ろし、親臣を自殺せしむる深刻の心を以て、法を執ること益す甚しく、初より刑殺する所二十五萬八に至る

竹越与三郎 (1896) 『二千五百年史』

84. 畏れ外恭順を示して内深刻

経済雑誌社 (1896) 『大日本人名辞書 上』

85. 賴長親美なり人と爲り嚴厲深刻

経済雑誌社 (1896) 『大日本人名辞書 補遺』

86. 深刻殘賊ムコタラシクシステムザンニ手アラキコト

富本長洲 (1896) 『文章軌範纂語字類 (続)4 1896』

87. 微發シ暴虐益甚ク法ヲ用フルコト愈深刻

岡田正之 (1897) 『支那歴史 卷 1』

88. 古來強奪ハ戰勝者ノ常ニシテ、可及的深刻ニ敗者ヲ屈スルヲ以テ殆ンド當然ノ事トセリ

川崎三郎 (1897) 『日清戦史 卷 6』

89. 一旦其犯罪に依て挑煽せらるゝや、其粗暴深刻なる懲戒を以て

ブシネル (1897) 『自然及超自然』

90. ○文深深刻ナル義

近藤元粹 (1898) 『日本外史講義：独学自在 5』

91. 人往々韓非を以て岐急深刻なりと評するありと雖、實はこれ道德の權威微弱にして、一國を平治するに足らざるを歎

木村鷹太郎 (1898) 『東洋西洋倫理学史』

92. 獄吏專爲深刻殘賊而亡極

深井鑑一郎 (1898) 『標註続文章軌範：教科適用』

93. 其罪ヲ文飾シ之ヲ法ニ致ス是以獄吏專爲深刻殘賊而亡極

石川鴻斎 (1899) 『文章軌範正解 続 5-7』

94. 而内深刻。姦謀密策皆皆其手令尊氏得志死鎌倉年四十七

石川鴻斎 (1899) 『日本外史纂論 4』

95. 首級ヲ取ルニヨリテ割青ノ名譽記章ヲ加ヘ又婚姻テフ月桂冠ヲ戴キ得ルトナセルハ何如ニ彼等ヲシテ深刻

台湾守備混成第一旅団司令部 1900 『台湾史料』



### 意味②（9例）

1. 所作五賦巧妙深刻而純用隱語

三尾重定（1884）『漢文紀事論說五百題 上』

2. 便曰奇僻深刻。望其才者便曰輕進浮薄。聖其氣者便曰奔逸放曠。

総生寛（1884）『一笑一歎東京市史』

3. 工巧深刻。純ラ隱語ヲ用シントナエンソウギヨクシンジョトウトシ

近藤元粹（1893）『作文教科書：中等教育』

4. 可一曰無者、乃真知春秋 又曰、嗟夫使春秋淺率無味一覽而盡何以為聖人之書使深刻隱晦終于不可解

梁川星巖（1893）『春雷余響』

5. 趙人荀況。楚ニ遊宦ス。其時ヲ攷フルニ屈原ノ前ニ在リト雖モ。作ル所ノ五賦。工巧深刻。純ラ隱語ヲ用ユ

近藤元粹（1893）『作文教科書：中等教育』

6. 考其時在屈原之前、所作五賦、工巧深刻

高林五峯（1893）『唐宋八大家文体弁』

7. 王荊公尾崎行雄氏特異深刻或は肖たり、然れども文を以て之を取る吾れ敢へてせず

徳富猪一郎（1894）『文学断片』

8. 屈原の前にあり作るとごろの五賦、工功深刻、隱暗を用ふ。今人の揣謎の如し、殆と詩的價値に乏し

藤田豊八（1897）『先秦文学：支那文學史稿』

9. 工巧深刻、隱語を用ゆ。然れども多くの詩趣の富むものにならず

後藤狂夫編（1897）『殘紅集』

### 意味③（179例）

1. 有益ノ術ナド唱フルハ其毒ノ深刻ナルコト。殷紂新莽ノ暴ト云ヘトモ。争デカ及ブ所ナランヤ

大橋訥庵（1857）『闢邪小言 4卷』

2. 鷄冠菜處々海濱石上生之状畧似雞冠而有細齒有深刻深紅色味淡甘不美

田中芳男（1874）『物産寶庫 卷2』

3. 鷄冠菜 ○処々ノ海濱石上ニ生ズトサカニ似テ小齒ナルモノアリ深刻ナルモノアリソノ色深紅

大館正才注（1876）『小学博物図解』

4. 松蕈 八九月ル初生落葉ヲ戴テ見難漸長テ二三寸頭圓ク柄有リ大ナルモノ尺ニ近シ傘ヲ發外黃白紫ヲ帶テ内白ク細ク深刻アリ柔ニシテ

山中市兵衛編（1876）『博物図教授本』

5. 大書深刻剥落不可讀



西野古海 (1877) 『作文啓上 中』

6. 上面両角ヲ削去大書深刻スヘシ

増田磐 (1877) 『慎終儀 卷之下』

7. 而大書深刻自列 其姓名以今耀

川上広樹 1878 『唐宋八家文読本：点註 卷 13, 14』

8. [松蕈] [サマツダケ] 蕈類中ニ於テ松蕈ヲ登壇ノ魁ト為ス山城北山ノ産最佳トス (中略) 傘ヲ張ル傘背黃白ニシテ紫色ヲ帶ブ内面ハ白ク細キ深刻

永田方正 編 1879 『博物教授解』

9. 觀曳布瀑遊摩耶山記 (中略) 山酒香拂拂。過者不飲而醉矣。至湊川。楠公墓在焉。碑面八字、大書深刻

斎藤拙堂儒学シュア (1881) 『拙堂文集』

10. 唐六臣傳後論 大書深刻 大字ヲ以テ碑ニ書シ、深ク之ヲ刻シ顯著ナラシム

行徳敬二郎 (1881) 『唐宋八大家文字引大全』

11. 今親觀碑則恍然驚矣。蓋 石質太粗又在樹下為風雨所泐。塌之則黑白漫漶絕無精采。而觀碑則大書深刻。蒼老之致。經千餘歲不泯

細川潤次郎 (1881) 『毛游紀程』

12. 藻鑑是ノ如ク深刻ナリ

ユージェーンヌ・ウェロン (1884) 『維氏美学 下冊』

13. 最モ完全ナル法典モ、尙ホ神ガル我良心ニ深刻セレ

フランク (1884) 『修身原論』

14. わらび 蕨 【部分】葉ハ宿根ヨリ叢生シ、細カニ分裂シテ、箭羽状ヲナシ各片更ニ深刻アリ宿根ヨリ生ス

15. 為ひたけ 香蕈 【部分】松蕈に類スレドモ瘠セテ小ナリ。蕈笠ノ向面、黒色ニシテ下面、白色深刻アリ莖ハ茶褐色

(1885) 『中等小学博物書』

16. 線ヲ成スヘシ、但シ五度毎ニ尖刃ハ眞鎗板ノ深刻目中

薩東 (1885) 『容量分析 下』

17. 葉ハ宿根ヨリ業生シ、細カニ分裂シテ、箭羽状ヲナシ、各片更ニ深刻アリ、宿根ヨリ生ス

18. 蕈笠ハ向面、灰褐或ハ淡黑色ニシテ、下面ハ白ク、細キ深刻、數多アリ

19. 蕈笠ノ向面、紫黒色ニシテ下面、白色深刻アリ

林光徳 (1885) 『中等小学博物書 植物之部』

20. 稅吏が特に嚴密深刻むる穿鑿を爲す時より、税吏の取扱穩順なれば不平心は起らざるなり

角利助 (1885) 『府県商業税賦課方法論』

21. 大道祇在目前觸目誕無羈汚漫我道今之祖誠宜深刻銘



辻顕高 (1885) 『參同契寶鏡三昧纂解』

22. 大小梶蓬、及船旁、大書深刻

福島安正 (1886) 『四声聯珠：自選集平仄編 第八卷』

23. 古正論通篇雄辨深刻一步繁一步

川島浩 (1886) 『文章指南集：評林 信』

24. 其行文ハ矯激深刻ニ過キ啻

ジエー・アー・シーレー (1887) 『斯丁伝 卷之 1』

25. 教師タル者ハ宜シク興味ヲ醒起シテ之ヲ一定ノ方向ニ深刻確立サシメ併セテ漸次ソノ範囲ヲ拡張スル

ゼームス・サレー 著 和久正辰 訳 (1887) 『応用心理学（左氏）』

26. 一場ノ演説ヲ以テ生物學若クハ地質學ノ真理ヲ述へ以テ聽眾ヲ感動シ其印象

ヲ深刻得ウシテ唯僅ニ其興味ヲ感セシメタエルノミ

和久正辰 訳 (1887) 『理科教授法』

27. 以銘四章俾大書而深刻之其一曰叩天之關極地之興瘴烟毒霧不能爲癒

大須賀庸之助 (1888) 『伊能忠敬先生贈位始末』

28. 百川學土筆大書深刻照千秋

山田東平 (1888) 『金溪遊草：附・峠中紀遊』

29. 左ノ銘辭ヲ引キ以テ其墳墓ニ深刻

望月小太郎、永島今四郎 訳 (1889) 『第十九世紀政海ノ泰斗グラッドストン公伝』

30. 植物ノ肥培ニ適スルモノト爲スニ在リ、石灰ヲ使用スル者須ク此事實ヲ腦裡ニ深刻スヘシ

斎藤祥三郎 (1889) 『農業及農学』

31. 白色ノモノヲ以テ純粹ナリトス此種ハ肉冠赤ク大ニシテ深刻ヲ有シ

古沢角三郎 (1889) 『普通農学講義 牧畜 2』

32. 忠孝兩全 豊碑深刻 傳芳萬年

関根痴堂 (1889) 『集古画譜』

33. セシガ氏ハ此ヨリ七年ノ久シキ深刻沈痛ナル筆ヲ揮シテ

34. 優和ノ氣全篇ヲ貫注シテ復タ昔日ノ深刻苦刺風ニ似ズ乃チ彼ハ此文体ヲ以テ

ボルトン (1892) 『貧児立身伝』

35. 把住作用。能ク把住センニハ映像ノ印象深ク且強カラサルベカラズ。即チ深

刻ナルベキ要ス。映像ヲ深刻スルニハ種々條件アリ

36. 再生作用。深刻セラレタル印像ハ再生セラルノモ從ヒ容易ナレトモ把住ト

再生トハ其ノ事柄ニ區別アリ

矢島錦藏 (1892) 『心理学』

37. 土庶人ノ家モ碑ヲ製スル甚タ大ニシテ大書深刻

忠愛堂 (1892) 『日本軍人用文集』



38. 忠孝兩全 豊碑深刻 傳芳萬年

渡辺知三郎(1892)『渡辺華山忠孝血淚譚』

39. 或は溫厚なるものとおり、或は深刻なるものとなり、夫々に異なりたる徳を發達したり

40. 父母の郷と、幼時の師匠とは、終身我等の一生に深刻せられいてる也

巖本善治(1892)「吾党之女子教育」

41. 所謂深刻堅志ノ人トハ充分ニ思慮ヲ盡クシ而シテ一タビ決心シタル以上ハ堅ク之レヲ守ルノ人ナリ

矢島錦蔵 (1892)『徳美教育及修身教授法』

42. 法律ノ抵觸トイフルハ是レ國際私法ノ一部分ヲ掩フニ過ギズト(ホランド三四二頁)サヴィニ  
ーノ議論ハ更ニ深刻ガ

福原鐸二郎, 平岡定太郎(1892)『國際私法』

43. 然至曷嘗自以爲辱哉、想其顯書深刻之時未必又願君子徒之氏一字之辱也左氏之紀錄

堀捨二郎, 深井鑑一郎 注(1892)『東萊博議 : 校訂標註 中』

44. 大書貞珉俾深刻。狹山茶神喜可知

大沼枕山(1893)『枕山先生遺稿』

45. モサスノメ、アカラサゴト簡易ニメ行深刻ナヲサル意ナリ

近藤延之助(1893)『小学講義』

46. 吾儕小人、務在枝葉、樂在詩酒、逆旅過客、時不可失、請俟春深刻成之日

47. 大祭有光赫奕神壇、洗洗烈烈、百卅二魂、大書深刻

阪谷朗廬(1893)『朗廬全集』

48. 必ラツクザカウブシシソゼンケンタンセ巧文深刻以テ前賢ノ短ヲ攻メ

近藤元粹 (1893)『作文教科書 : 中等教育』

49. 健全なる心意の徵候と看做す可きかラスキンの深刻なる言を以て之をいへば、文明人は生涯  
の目的として二事を有す

民友社 (1893)『文明之弊及其救治』

50. 阿弗利加の蠻民ブッシュマンに就きて其脳を解剖したる報告に據れば脳髄の盤廻は明白に存  
在すること勿論なれども、白哲人種の脳髄に比しては、其數寡少にして且深刻せる所なく

峰是三郎 (1893)『応用心理学 : 中等教育』

51. 吾心に無數の思緒あり、吾心に深刻の法理あり

上野雄団馬 (1893)『夏わすれ : 一名・塩原温泉紀勝 那須七湯紀勝 1893』

52. 諸君は或時は深刻なる悲劇の主公ともありしならむ

高瀬文淵 (1893)『若葉 : 詩篇』

53. 大書深刻青山睡。其後上皇在西内。

乘附春海 (1893)『古今各体作詩軌範』



54 而大書深刻自列其姓名

石川鴻斎 (1893) 『唐宋八大家文講義 卷 8-16』

55. 是記石質頑堅。不得深刻。文字隱晦。多不可讀

狩谷望之 (1893) 『古京遺文』

56. 殆ど人情に近からざるものあるが如しと雖も然れども其の悲哀の深刻なる

宮崎湖処子 (1893) 『ヲルヅヲルス』

57. 非常の喝采を得たる所以なるが議論の雄大深刻

黒川隆一 (1893) 『東京遊學案内 明治 26 年』

58. 其文章の明淨流麗其の批評の簡截峭拔、其の眼孔の銳利其の中では、此書靈活、滋深刻意大

徳富猪一郎 (1894) 『文学断片』

59. 其文章の明淨流麗、其の批評の簡截峭拔、其眼孔の銳利靈活、其時勢を寫すの明透深刻なる、

北村門太郎 (1894) 『エマルソン』

60. 唯古來の法律に確定義を與へたるに由り益々深刻

高田早苗 訳 (1894) 『國家学汎論』

61. 數度反覆するときは、益其印象を深刻して、其勢愈加はるべし

本荘太一郎 (1894) 『教育古典』

62. 亞米利加ニ於テモ演説セリ其批評ノ富麗深刻

磯辺弥一郎 (1894) 『英文学講義録 第 4-7 卷』

63. この故に最も凱切精到なり、一句短しといへども、その語は深刻にして骨に徹せむとす。

小此木信一郎、布川孫 (1894) 『俳諧史伝』

64. 而大書深刻。自列其姓名。以夸耀於世又讀梁實錄見文蔚等所爲如此

赤尾戒三 編 (1894) 『唐宋八家文抄 上』

65. 西方窮理之說如常者我雅是故理深刻失溫雅文思之理

戒定 (1894) 『二十唯識論帳秘録 卷上』

66. 修理ハ後來電氣銅版ヲ鑿ニテ深刻スル

上田貞治郎 (1894) 『実地製造化学 第 2 編』

67. 議論深刻にして巧に文を舞して羅織して

福地桜痴 (1894) 『浮世見物』

68. 精透深刻なるを推奨して止まざるべし

三文字屋金平 (1894) 『文學者となる法』

69. 謂之有議論、深刻者謂之有政事云云

松平直亮 (1894) 『西村茂樹先生論説集 第 1 卷』

70. 此深刻入骨之文末段以豪傑無窮之痛恨

依田学海 (1894) 『新評戯曲』

71. 魁邁なる着想と深刻なる筆力

井原西鶴 (1894) 『西鶴全集 上巻』

72. 其意を用ふるの深刻を見るべし

大橋又四郎 (1895) 『詩学捷径』

73. 或は強く或は弱く、或は硬或は柔、或は軽快、或は沈鬱、或は遠大、或は深刻

74. 著名なる歴史家コストマロフ、國民的歌謡により此深刻なる性情を指摘して

75. 大露四亞人の歌謡の最上乘なるは、勝利の最も深刻なる性質『彼等の歌謡に於て、勝利の標號として、あり。』

平田久 (1895) 『露西亞帝国』

76. 吾人の有する道性中に、信神、意志の自由及不朽の眞礎の存することを云へり。氏の議論は熱心にして深刻なり

今井恒郎 (1895) 『万国史 上世史、中世史、近世史』

77. 等の觀念思想其物を咀嚼し得ざるも又彼等より直ちに深刻なる刺激印象を受くるものなり。

78. 思想界を貫通する深刻なる懷疑は吾人をして佛陀の現はしたりてふ神通力、行ひたりてふ神變不可思儀の事柄を認容すること能はざらしむるなり。

アイザック・ドゥーマン (1895) 『比較宗教学 卷之4』

79. 東門越後判牒を破り議論深刻

篠島久太郎 (1895) 『越中史略』

80. 銅碑に鑄るものは溶解するの時あらん然れども人心に深刻する

桑島蚕造(1895) 『鉄将遺稿』

81. 詩人は必ずしも人生觀など云ふか如き哲学を要せすと雖、然れども人生に對する深刻なる批判眼を要す

82. むしろ深刻なる寫實主義に入りしとの心ならむか

83. 露伴は到底その深刻なる洞察と冷酷なる情熱とを捨つる能はず、紅葉はその細心なる同情の溢れむとするを去る能はざるべし

尾崎紅葉 (1895) 『不言不語』

84. 帝國文學評水蔭に深刻なる寫實の筆なく、また、圓滿なぞ理想の讀すれば面白きが如きも、竟に三讀四讀愈讀んで愈其妙を感じるの筆致筆なし

江見水蔭 (1895) 『速射砲』

85. 大書深刻。垂名不朽者。孰榮孰辱。雖三尺童子。亦能辨之。

松風散史(1895) 『千葉繁昌記』

86. 五八南幹は大關嶺より流下し、深刻なる山間を通過し、永春に来る

菊池謙譲 (1896) 『朝鮮王国』

87. 價値ある大部の報告書は出版せられしが、其結論は深刻なる感情を與えた

ロバード・マッケンジー (1896) 『十九世紀史』

88. 停春樓主人の批評眼例に依て深刻

民友社 (1896) 『巣林子戯曲 下巻』

89. ゲツセマ子及カルバリーに於ける景状は如何、耐へざるの悲哀、深刻なる愁嘆

ジョン・マイレー(1896)『基督贖罪論』

90. 純理批判ノ最モ深刻ノ評讐家ナリ

清野勉 (1896) 『韓國純理批判解説 : 標註』

91. 迷信者ガアル如ク、自己ノ狭隘深刻ヲ以テ信心ノ熱情ト誤想セリ

渋江保 (1896) 『英國革命戦史』

92. 與フベキ智識モ深刻ニ印記セシム

岡本常次郎 (1896) 『単級学校ノ教授ト管理』

93. 小説の巧妙なる、彙報、書東、批評、餘興、英文、國文、漢文、詩歌、俳諧の深刻、典雅

少年園 (1896) 『東京遊學案内』

94. 物語る所あり、其着想の深刻なる

95. 社會の秘密を描く事頗る深刻、幸ひに一讀の榮を垂れよ

堀江松華庵 (1896) 『初あらし』

96. 文法ハ單ニ之ヲ了解シタルノミニテ深刻ニ習熟スル

大村仁太郎 (1896) 『獨逸文法教科書 後編』

97. 小説の新に出づる毎に、深刻剝切なる言をなしたりしが、今又更に江湖新聞の紙上に於いて  
美文月旦の筆を揮はむとす。

森鷗外 (1896) 『月草』

98. すペイ河(spey)ナリ高台ノ間ニハ處々ニ並行セル深刻ノ峠谿

矢津昌永 (1896) 『中学万国地誌 中巻』

99. 十身次第淺深刻之謂衆生身國土身業報身聲聞身支佛身菩薩

姫宮大円 (1896) 『台宗論要』

100. 希望と恐怖との深刻な感動

ウキリアム・アーサー (1896) 『焰之舌』

101. 一々活ける個人の如く、深刻精緻なる差別性を具へて、決して、相混ざる能はざること

102. エークスピアの傑作を讀破せば、其の間に經驗する苦惱は、如何に大、如何に烈、如何に  
深刻なるべさぞ

坪内逍遙 (1896) 『梨園の落葉』

103. 第二期は史劇と快活なる喜劇とを作りし時代、第三期は深刻なる悲劇と表、快活にして  
裏、嚴酷なる喜劇とを作りし時

104. 彼の粗放大膽なる談諧の裏に、銳利深刻なる諷刺の貫通することを察らざりき



105. 創見炳耀たるメレヂッス氏深刻なる人生の研窮に長たる Wowella 氏

坪内逍遙(1986)『文学その折々』

106. 夫れ綱豊從來吉保に深刻の怨仇を有す

工藤武重 (1986)『柳沢吉保』

107. 文法ノ諸規則ハ單ニ之ヲ了解スルノミニテ深刻ニノ之ヲ習熟スル

大村仁太郎 (1896)『独逸文法教科書 前編』

108. 高知縣近澤勘兵衛路ノ作ハ地鐵細緻銚匂亦深刻ナリ

第四回内国勧業博覽会事務局 (1896)『第四回(明治廿八年)内国勧業博覽会審査報告 第5-10冊』

109. しかして或る記憶が、吾人の脳底に深刻さるゝや否やは

尺秀三郎(1896)『新編実用教育学』

110. 大なる綜合の力を欠きたり、又深刻なる直覺の力を欠きたり

水谷不倒(1897)『近世列伝駄小説史 上, 下巻』

111. (略)些細の心中小説、人殺小説位でやれ深刻の

尾崎紅葉 述 柳川春葉 記 (1897)『西洋娘形氣』

112. 豁達明快なる頭脳を有し、チボードーは精冷深刻にして最も法理に通し、又カムバセレは大状師にして

奥田竹松 (1897)『仏蘭西革命史』

113. 子を愛する情ほど自然にして深刻なるはるかるべきなり

須藤南翠 (1897)『ぬれぎぬ』

114. 「新著月刊」記者は其四卷に於て、先進を論ずること沈痛深刻

115. 一章は一章誰か巻を掩ふて啞然たらざらより深刻なり

村井弦斎 (1897)『新橋芸者 前編』

116. 古來韓子の文を評するもの、孤峭といひ、深刻といひ奇にして破的なるものといひまた古峭といふ。

藤田豊八 (1897)『先秦文学：支那文學史稿』

117. (三)深刻なる實と清鮮爽涼人を慰する情趣の調和

118. 「罪と罰」、「損害と凌辱」の作者は多く材を都會の下層にとつて、疾病的の個人と社會、壓搾苦悶の人心を、深刻骨に入る筆力を以て描き出して

119. 况して悲惨沈鬱具蘂深刻の國民、或時は昏々眠るが如くして一たび情の動けば、悲喜愛怒風雨の如く荒る

徳富蘆花 (1897)『トルストイ』

120. 庭堅は字を魯直と云ひ山谷と號す江西の人なり、其の詩、生新奇巧本と老杜を學び、變して深刻となるものにして

古城貞吉(1897)『支那文学史』



121. 前期のに比して思想は精緻、想像は深刻、人間の性情を詠ぜるものさへほの見えたり
122. 情操潔白想像は深刻ならねども新奇なり
123. 我が心から普通の人情を深刻に歌ひたりといふに止まるのみ
- 池谷一孝(1897)『日本文学史』
124. 多數の養蠶家の脳裏に深刻せられたる此の誤信迷信
125. 脳裏に深刻せられたる舊思想を改良する
- 西条芳三郎(1897)『養蚕改良策』
126. 又外國に於ても紀念せられ、彫保に非ず、碑銘に非ずと雖、能く人心中に深刻せらる、彼等を以て汝の摸範とせよ
- 木村鷹太郎 (1897) 『万国史』
127. 生命にみち滑警に其顔の輝く渠を見しもの-今や渠の前額に深刻の皺を見るに至り
- 民友社(1897)『少年伝記叢書 三巻』
128. 夫れ其の害を爲すこと未だ深刻ならざるなり、故に今の素封家、或は詭譎惡計を用みて
- 内藤虎次郎(1897)『涙珠唾珠』
129. 狀を輕々淡々映し來りたる者にして、虛々實々、一段は一段より細かに、一章は一章より深刻なり
- 春陽堂 (1897) 『春陽堂書籍目録』
130. 其應報の深刻ならざるもの偶々想像の力弱く一里にあつて一里を知つて千里を知らず
131. 軽快なる「ユーモル」と深刻なる「ベソース」
- 角田柳作 (1897) 『井原西鶴』
132. 僧出寺碑錄本大書深刻
- 近藤元粹 (1897) 『新撰文語粹金』
133. 彼は深く攻め淺く賛する男なり、深刻なる攻撃は彼の長所にして短所も亦茲に在り
- 渡辺修二郎(1897)『陸奥宗光』
134. 深刻なる裏面的考察、軽快なる諷刺的文字等
- 佐々政一(1897)『連俳小史』
135. 其語痛烈深刻、讀者をして百雷の一時に落つるが如く感ぜしめたりき
- 村田勤 (1897) 『マルチン・ルーテル伝』
136. 或は深刻の筆を用ゐ、或は懷愴の語を成し
- 野口寧斎(1897)『少年詩話』
137. 當時戰死者七百餘人の姓名も併せて之を鏤し大書深刻千載
138. 駒形をなし文字深刻歴々
- 寺石正路 (1897) 『土佐遺聞録 上』
139. 絶叫するバイロンの深刻なるに如かず、蓋しバイロンは自から自然を慕ふと雖も
140. 徳川文學が一面人間を題目としたるを喜び、更に他面には深刻に人間の靈性問題に

文学普及会（1897）『文学概論』

141. 深く迷信を嫌惡するの餘り、銳利深刻なる筆を驅て

木寺柳次郎（1897）『西洋歴史：中等教育』

142. 若人忠孝両全豐碑深刻傳芳萬年

小菅廉 等編（1897）『尾參寶鑑』

143. 其の妻の世を去りてより二年間は言ふ可らざる深刻の苦痛を覚え

144. ダンテは之に反して、言ふ可らざる深刻なる苦痛を感じて、其の罪を悔悛せり

内村鑑三（1893）『月曜講演』

145. エースキロスの想像は深刻なりき、然れまたくわうとうきくわいわたところども亦荒唐奇  
怪に亘りたる所あり

146. 其文章其卓見、其觀察の深刻

147. 上層下層を洞察して深刻に亘り、之を其洒落なる筆を以て記したるなり

長谷川誠也（1898）『通俗世界歴史』

148. 感情の深刻物色の逼眞又往日の比に非ざるに到れり

高山樗牛（1898）『世界文明史』

149. 沈痛の深刻のといふを見れば渠等が唱ふる雄大も莊嚴も知れたものなり

斎藤綠雨（1898）『あられ酒』

150. 複雑なる詩趣を有するものにして、殊に深刻なる印象を與ふるものなり

151. 詩歌俳句の洒落深刻

高浜虚子（1898）『俳句入門』

152. 心理的深刻は唯一眞實の恩寵方便にして、其他に外面的方便ありとなせるは、魔術的効力  
の迷妄にありながらも

153. 消極的には自利の惡素質を滅却し、積極的には遺傳恩寵の善素質を練達し深刻にする

ハルトマン（1898）『宗教哲学』

154. 周到ナル診檢及ヒ其生活法ノ深刻ナル調査

ハインリヒ・シュミット（1898）『袖珍内科臨床錦囊』

155. 愉快なる語を以てし、而かも讀者に一層哀婉深刻なる感動を與ふる方法をいふ

武島又次郎（1898）『修辞学』

156. 外國に於ても紀念せられ、彫刻に非ず、碑銘に非ずと雖、能く人心中に深刻せらる

木村鷹太郎（1898）『西洋小史』

157. 吾是を子の小説に見る、紅葉の艶麗露伴の深刻

158. 而して深刻奇警の筆致なく、奇想天外より来る底のものを見る可からざる

妖堂居士（1899）『文壇風聞記』

159. 宜なり宏大雄偉深刻悲痛の思想に欠ける





160. 卑近俗を擇ばすに足れども深刻の人を動かすに足るものなし

田岡嶺雲(1899)『嶺雲搖曳 第2』

161. 又情性に感銘深刻せざるべからず

162. 此の誤れる觀念を其の幼稚柔軟なる脳裏に深刻せんとするなり

宗像逸郎 (1899) 『教育者之品性』

163. 人ト之ヲ共有セサルヘカラサルナリト論ノ深刻犀利

岡村司(1899)『法学通論』

164. 將に文字上の眞理を排斥す、然りと雖も深刻に觀察せば忽ちに見るべし、何等の害惡も行はれざるを

165. 彼は周囲の人々に深刻なる印象を残す、故に彼の使徒は祖師の精神のみならず

166. 深刻なる悲哀に捕はるゝは事實と言ふべし

パウル・ケーラス (1899) 『科学的宗教』

167. 陸奥の辯、銳利當るべからずと雖も、伊藤の明透大隈の深刻無し

北村紫山 (1899) 『小文章』

168. 故に一朝此満足を失ひたる時は其悲哀自ら深刻にして、其間往々思慮考察の餘地を残さず

高山樗牛(1899)『時代管見』

169. 之を以て具象的箇體を深刻明透に直觀するが爲めの手段となすことはれなり

170. 之に反して、學者は勿論深刻に考ふべし、則ち深刻に考ふると雖ども其の之を表出するに當りて

湯原元一 (1899) 『教育的心理学』

171. 多くの急湍、瀑布あり、或は深刻の峠をなし、其下流に至れば沙灘多きを以て、交通の利、灌漑の便、共に少し。

角田政治(1899)『新編中学地理 外国誌 下巻』

172. 工夫精緻・想像深刻用語は雅馴なり

和田万吉、永井一孝 編(1899)『国文学小史』

173. 最暗黒の英國に描きたるエストロンドンに住める者の如く、醜惡にして深刻

横山源之助(1899)『日本之下層社会』

174. 是ニ於テ其所ヲ號シテ三崎山ト稱シ別ニ此ノ三字ヲ大書深刻

亀井茲明(1899)『従軍日乗』

175. 但喬木剝見磨崖碑尙存大書深刻感忠銘字字蒼健如鷄騫

本田種竹 (1899) 『戊戌遊草』

176. 紙數三百餘頁、深刻の想は柳浪子唯一の長縦横書き來りて

渥塚麗水(1899)『日本名勝記 上巻』

177. 其同情社會の同情の沈痛深刻なる、今世の如きは前古未たきかず

178. 深刻なる詩歌美術等を味ひしを見は、蓋し思半に過ぎむ

ベンチャミン・キット(1899)『社会之進化』

179. 鐵案稜々深刻骨。金辭片々巧裁霞

大橋乙羽(1899)『藤侯実歴』

#### 意味④（12例）

1. 民ノ罪ヲ犯ス者少ク弊害薄フシテ其政府ニ收入スル所ハ深刻ナル累進稅

ポール・レルワボリュー(1886)『租税論 上巻』

2. 残忍惨酷ニ慣深セルニ因テ、其妻兒ヲ遇スルモ、亦實ニ深刻ナリ

中川元 訳述(1889)『修身鑑 卷4』

3. 反対者ノ妨害ハ益々深刻トナリ奴隸ノ子女ヲ教育スル學校ハ破壊セラレ商家ハ之ニ物ヲ賣ルヲ拒

ボルトン(1892)『貧児立身伝』

4. 世界の最も微弱、無氣力なるもの、深刻、無法、思ひ切つたる舉動によりて天下を驚かすこと多し、後藤は決して信念を有せず

竹越与三郎(1892)『新日本史 上』

5. 斯くて此の悲しむべき食の事實が人間の生活を説明するは極めて深刻なるものにして

松原岩五郎(1893)『最暗黒の東京』

6. 内地雜居の波瀾中に没頭し去らんと欲するて峻急なる極めて深刻なる人事上の場合を豫定して

鈴木力(1893)『国民の真精神』

7. 其弊政を革め奢侈を抑へ風俗を矯むるの事甚た急激深刻にして

野口勝一(1893)『印旛沼開疏論』

8. 猛烈なる洪水も飛て彼の驕慢を警むる能はず、深刻なる国民の怨恨

菊池謙譲(1896)『朝鮮王国』

10. 今や政治に深刻緊急なる利害を感じる才識ある労働者間には、大に之を斯くるものあり

ロバード・マッケンジー(1896)『十九世紀史』

11. 心中の希望盡く雲と散じて後段深刻慘憺の源となる

12. 命は容赦なく翠翫を驅て之を悲惨深刻の域に轉ぜしめんとす

笛川臨風(1897)『支那小説戯曲小史』

#### それ以外の用例（5例）

1. 非言魯侯以諸侯逆之慢然書曰郎伯也、後儒深刻不通禮

安井息軒(1871)『左伝輯釈 卷7』

2. 終ニ丹波ヲ賜フ、信長將士ヲ待スルニ禮節ヲ設ケズ、嘲謔嫚罵以テ常ト為ス而シテ光秀人ト為リ文深〔文法深刻ナリ〕喜ンデ自カラ修飾シ、材藝ヲ以テ自カラ高ブル

頼山陽 (1874) 『訓蒙日本外史』

3. 製造種類 諸文房具 提琴 月琴 古琴 八雲琴 深刻 浮刻

4. 製造種類 深刻 浮刻 花瓶 筆筒

京都市参事会 (1895) 『平安通志 17, 18』

5. かてニ (katu)、銳利、深刻ナドノ義

山田美妙 (1895) 『日本大辞書 全六版』

#### B. 『日本語歴史コーパス』 (5例)

##### 意味③ (5例)

1. さるに女性は悲しむこと誠に、 深刻にして永久なるが故に

布川静淵 (1894) 「悲哀の美と女性」

2. 劇然として一新紀元を印すべき深刻なる形跡を遺さざる可らず

巖本善治(1894) 「大日本海外教育會」

3. 快説あり、考證の精にして新なる、隨筆の洒脱輕妙、深刻痛快なる

(1895) 『太陽』

4. 鰯釘剪彩の痕を見ざれども而かも幽玄深刻なる想を欠ぐ

高山樗牛(1895) 「戯曲的人物と近松巣林子」

5. 一々活ける個人の如く、 深刻精緻なる差別性を具へて

坪内逍遙 (1895) 「劇評に就きて」

#### D. 「ヨミダス歴史館」 (1例)

##### 意味③ (1例)

1. [塵影] 悲惨深刻の小説

1896. 11. 26(木) 全国版 朝刊 3頁

## カ. 1900年～1976年

#### A. 『次世代デジタルライブラリー』 (300例)

##### 意味① (26例)

1. 然れとも性猜忌、外寛和にして内深刻也

城井寿章 校補(1902) 『駿台雑話註釈：2卷』

2. 慘刻總て無惨深刻なる事柄を指す。刑法第二九五條は無惨の所爲にて人を殺したるを罰するの規定なり。

田辺慶弥(1902) 『法律経済辞典』

3. 趙高政ヲ專ニシニ世ニ勧メテ更ニ法律ヲ深刻ニセシメ

斎藤坦蔵、成田衡夫 編(1902) 『東洋史』

4. ○深刻喜陥害人



5. ○深刻吏多爲爪牙用者

菊池晚香(1904)『漢試關鍵』

6. 尊氏の志を得る多く直義の力によると云へども、狡猾・深刻にして高師直の權勢を惡み之を殺さんとし、却て剃髪・謝罪を表するに至る

国定小学教科書教材研究会(1904)『国定小学教科書各科教材辞典』

7. 言文深刻にして聲名を務めんと欲する者は輒ち之を斥く

8. 性深刻にして計數多し。人皆之を惡む。年を踰え風疾を得て去る

9. 深刻を喜はず。紹興中、地震す。廉約正推官劉向京房の意を上疏すること無慮數千言

難波常雄、早川純三郎、鈴木行三 編 (1904) 『支那人名辭書』

10. 莽知民愁下詔、諸食王田及私屬皆得賣、勿拘以法、然刑罰深刻、他政諄亂、用度不足、數賦橫歛

臨時台灣旧慣調査会(1906)『臨時台灣旧慣調査会第一部調査第二回報告書 第1卷』

11. 春秋傳を修め、筆削大旨發明する所ありと雖、頗る深刻なりき

桂湖郵 (1906) 『漢籍解題』

12. 【深文】【意義】文は刑法なり、刑法を執り行ふこと、深刻なるをいふ。【出處】任昉の文に、ガギヨーハクユクカソ深文爲吏、積習成奸

池田四郎次郎(1906)『故事熟語辭典』

13. 「韓子引 墨墨切事情、明是非其極---」註「法ヲ用フル慘急ニシテ、鞠磁深刻」

14. 【深文】文は刑法なり、刑法を執り行ふことの深刻なるをいふ

15. 【深刻】人情の忍びざる程のむごきことをする義、後ルヲ漢書に「用刑--」

簡野道明(1907)『故事成語大辭典』

16. 而深刻吏多爲爪牙用者。依於文學之士

芳賀矢一(1907)『國文學歴代選』

17. 非社會性ノ重大ナルニ拘ラス又ハ其深刻

18. 犯罪ヲ犯ス者ハ偶然ニ一個ノ犯罪ヲ犯ス者ニ比シテ其非社會性ノ程度深刻

泉二新熊(1908)『日本刑法論 上巻 (総論)』

19. 單に對症の妙藥として、其の深刻、少恩、露骨詭矯の論を吐きたるのみならず

徳富猪一郎 (1910) 『天然と人 第2』

20. [深刻] (名)極めて殘忍なる

金沢庄三郎 (1910) 『辭林』

21. 史記に「内深く骨に次る」といふは、罪を行ふこと深刻にして、骨まで行き届くことなり

久保得二 (1912) 『新式大辭林：讀書作文』

22. 【深刻】ひどく殘酷なり。後漢書に「獄多冤人、用刑深刻」

23. 史記に「内深次骨」注に「其用罪深刻至骨也」

浜野知三郎 (1912) 『新訳漢和大辭典』



24. [深刻] きびしきこと。ひにくなること

金港堂(1914)『国語漢文新辞典』

25. 廉約正を守り、深刻を喜ばず

難波常雄(1926)『支那人名辞書 下巻』

26. 【深文】深刻ナル法令ノコト、深ハ深刻、文ハ法文ノ略ナリ。【漢書】張湯傳「湯與趙禹一  
共定諸律令。務在深文。」

東川徳治(1933)『支那法制大辞典』

### 意味② (1例)

1. 深刻過密。殆若解隱語。非聖人之意。故善得夫子之意者。莫左氏若也。

井上哲次郎、蟹江義丸 共編 (1901) 『日本倫理彙編』

### 意味③ (169例)

1. 麻桐雖然屋柚基栽著義務百尺雲楓變老禪靈銘深刻

大野清太郎(1902)『岩手叢書 第1,2巻』

2. 自から男女の情交の深刻なる觀察を含有せるものと聞きつる小説等を男子と共に朗讀せむ

は、そが堪ふる所にあらざればなり

3. その他深刻なる心情の興奮、及び驚くべき道義心の發現の如きもかの關係を明かにし得て、  
始めてその真相を知ることを得べし

4. 詩人作家等が學殖觀察の、自から豊富深刻なるべきは理の最も明なる所なりとす

登張竹風(1902)『氣焰錄』

5. 獨逸人ランケハ爛々タル眼光ヲ以テ深刻

野英太郎(1902)『新撰問答全書 新撰西洋史問答』

6. 強大な獻身的感情と亞細亞人に對する深刻な人種的憎惡の感情とに狩られたゝめである

7. 斯く我大和民族は深刻な感情を有して居ないから意志が薄弱なのである

8. 感情の深刻で無いからであると云ふのは之のが爲めである

伊賀駒吉郎(1902)『感情教育論』

9. 永久に深刻せしむの効なきが如きも、兎角不良の慾望、不正の情癖旺盛なる兒童期に於ては  
却て此の忽らに消散し

内藤慶助(1902)『小学教授法』

10. 殆んど悉皆の文明諸國の習俗に極めて深刻の影響を及ぼせし

ゼー・エス・マケンジー(1902)『倫理学提要 下』

11. そこで言文一致と論說文に就ては、人或は、深刻を欠くとか

杉本文太郎(1902)『作法指南：言文一致』

12. 又箱根早川火口瀬の如き、深刻なる谷は、主として此の流水の浸蝕作用に由りて成りしもの  
なり



佐藤伝蔵(1902)『中学地文学教科書』

13. 後にアダム、スマツスは此かる場合の同情に對して一層深刻なる心理的分析を加へたり

綱島梁川(1902)『西洋倫理学史』

14. 寧ろ悲哀の生活を取らん其人生觀の深刻

田川大吉郎(1902)『青年の志業と準備』

15. 爛々たる史眼と、深刻なる研究とを以て、文書を利用し、世界歴史の趨勢を達觀せり

箕作元八、峰岸米造（1902）『西洋略史 本編』

16. 再三再四反覆するを以て、印象を深刻することを得べし

17. 印象を深刻ならしめんが爲なり。然らざれば從ひて得れば從ひて消え

山本宗太郎(1902)『新撰教授学 上』

18. 一層確實ニ深刻ナラシメンコトヲ希圖シ、熱心ニ直覺テフコトヲ唱導セリ

砂崎徳三(1902)『小学校算術教授法』

19. 「好んで誰が泣きますかツ」と又も深刻な一語を逆らせて

20. 深刻きはまる一言、その後は嗚咽である

山田美妙(1902)『女装の探偵：慨世志士 前編』

21. 離れはるゑしきごとた、深刻な言葉で形容し切らなければ

山田美妙(1902)『人鬼』

22. 開歴世故に富み、人生に對する感想の漸く深刻

23. 第二期は史劇と快活なる喜劇とを作りし時代さて其の三期は深刻なる悲劇とおもて快活にして

坪内逍遙(1902)『英詩文評釈』

24. 有應安六年巨碑、大書深刻文字可觀

村岡櫟斎(1903)『日本地理志料 卷之 18-20』

25. 深く觀察するときは、唯内容の變化、描寫の深刻にのみ拘々として、以て小説の能事となし

登張信一郎（1904）『読書と修養』

26. 世人に深刻なる印象を與ふる者あるによるか。然り、恐らく以上のもの皆多少の眞理を含まん

27. 此の如き點に於ては、レオ等は渠よりも遙かに微妙なる趣味と、深刻なる判断力とを有せしなり

28. 終に衷心深刻なる嫌惡の感情を懷くに至りしは、敢て怪むに足らず

パウルゼン(1904)『倫理学大系』

29. 其印象を深刻ならしめんことを期すべし。

愛知県第一師範学校(1904)『理科教授細目』

30. 其項には愛らしき花を開く、葉は葉身の縁に深刻ありて鋸齒状をなせり

国定小学教科書教材研究会(1904)『国定小学教科書各科教材辞典』



31. 田段を準と爲し或は山垠に抵り或は坑崁に傍ひ地方官をして堅厚の石料を揃用し碑を立て  
界を定め詳に年月地を定めて大書深刻し估墾の風を禁絶せん

台湾總督府民政部殖産局 (1904) 『台湾蕃政志』

32. 北方に流るゝ河流の深刻する所となりて、數多の山脊、峡谷をなし

フランクリン・ヘンリー・ギディング (1906) 『社会学』

33. 亞耶列米亞哀歌等は皆猶太人が熱烈にして深刻なる審美感を含めるものなり

上田敏 (1901) 『文芸論集』

34. 銀月君獨特の深刻なる筆致によりて神の如き霓の如き女の眞相を赤裸裸に露はし躍々として  
紙上に躍り来るの感あり行文流麗奇抜にして趣味津々たり

スクリープ(1906) 『怨』

35. 同姓不婚ノ原則ハ淡人ノ脳裏ニ深刻セレ

36. 船號ヲ大小ノ扼蓬及船旁ニ大書深刻

臨時台灣旧慣調査会 (1906) 『臨時台灣旧慣調査会第一部調査第二回報告書 第2卷 上』

37. 若成熟期、乾燥過度、雖致品質佳良、然其米粒甚小、且有深刻綫條

佐々木祐太郎 (1906) 『栽培各論』

38. 小説如何に科の胸奥に徹すべき深刻雄大なる作物を提供するは、寧ろ不可能の事也

39. 美的趣味を明瞭に深刻に感銘し得た始めである

高須梅溪 (1906) 『青春雜筆』

40. カルデロンは性格描寫に於てロオペの深刻には及ばずといへども、其戯曲形式の統一に至て  
は遙かにローペに優るものあり

41. 十六世紀文學の特徴たる深刻なる寫實を以て成功せる者はセポルラの飾職たりシロオペ・デ・  
ルエダ

42. 「ドン、キホオテ」心理的解剖深刻にして、幻想亦甚だ豊麗、之を諧謔洒落の筆に行りて、  
無限の趣味を湛へたり

橋本青雨(1907) 『世界文学史』

43. 國民の心を動かして、其脳裡に一深刻なる印象をあたへぬ

神藤才一(1907) 『歐洲列強近世外交秘史』

44. 時代の葛藤を描く、極めて真撃に、極めて深刻に、且つ極めて妥當に、文章亦平淡の裡に秀  
潤を包み

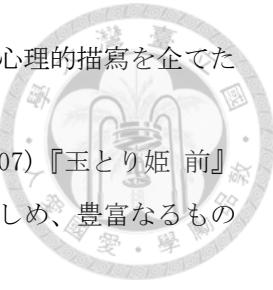
高橋五郎 (1907) 『英学実驗百話』

45. 従つてかの徒の所謂深刻と云ひ、痛切と云ひ、熱烈と云ひ、日常茶飯裏の活計

46. もしくは深刻なる材を不留意に平淡なる材として使用するを可とす

47. 深刻も、痛切も、熱烈も、悉く是天外の深刻と痛切と熱烈にして、實世界の感動にあづから  
ず

夏目漱石(1907) 『文学論』



48. 世末だかくの如く同情ある筆を以て、深刻に、精細に、巧妙に、女性の心理的描寫を企てるものあらず。

渡辺黙禅(1907)『玉とり姫 前』

49. 文藝に足らざるところを補ひ、深刻なるものをして、更に一層深刻ならしめ、豊富なるものをして更に一層豊富ならしめむが爲めに

50. 寫生は以て人生の深刻痛切なる経験と觀察とに代へることは出來ないが

51. 人間生活の最も深刻なるところ、最も痛切なるところが、病室の窓を通して最も明かに見得られる以上、最も深刻なる文學、最も痛切なる文學が

生田長江(1907)『文学入門』

52. 兩防禦線の類似せる事は南亞戦及日露戦の兩者に從軍せる人に深刻する印象を與へぬ

53. 影響を來すを以て戰爭全般の經過は常に至大深刻

イヤン・ハミルトン(1908)『日露觀戰記 第1卷』

54. 彼が本性の深刻にして絶對的なる聖善に由り、彼は死に縛がるゝこと能はざるな 50 復活は全然必然の事たりしなり

55. パウロの心中極めて深刻なるものありき。神の怒は或人の解釋によれば『眞理を抑壓する』

56. こと能はざらんとするの時、深刻にして雄大なる世界的大使徒、タルソのパウロ

アルフィアス・ダブルユー・ウキルソン (1908) 『保羅の神學：羅馬書に拠る』

57. 百五五十四觀察を深刻にするには寫生と云ふことを忘れては不可い

58. 女性に關する該博なる所見、深刻なる研究にして

吉野臥城 (1908) 『日記文作法 1908』

59. 如此而後大書深刻

村上珍休 (1908) 『函峯文鈔』

60. 修羅場は砲聲劍光の修羅じやうしんこてひさんしょくんかくご場よりも、より深刻に、より悲惨である

61. あいおつたいしんこくどうじやういうキンしんこくゆへ愛は己れに對して深刻なる同情を有してゐる

62. 自然から要求せらるしんこくはんもん眞れて居る深刻な煩悶が一つある。えんぴつおと鉛筆の音がする

夏目漱石 (1908) 『草合』

63. 靈妙濃艶の筆を以てし微女が派的業作戀愛の徑路曲折深甚なる人生の慘目愴情を描いて實に深刻精致

64. 世末だかくの如く同情ある筆を以て、深刻に、精細に、巧妙に、女性の心理的描寫を企てて成功したるもののはあらず宜なり

小栗風葉(1908)『天才 前編』



65. 此境遇上の深刻なる實驗は他人の想像し得る所でない人は此境遇を知らないが幸福である。

森恒太郎 (1908) 『一粒米』

66. 歐州人ニアリテハ上眼瞼縁トノ距離遠キヲ以テ、深刻ナル

67. 厚圓深刻ニシテ偏斜稜角ナク下端ハ柔軟ナル耳垂トナルモノ佳ナリ、我國風ハ大耳ヲ貴トシ

68. 厚部ハ上網少シク沒落シ、下緣ハ突隆ス、之ヲ唇結節下イフ、人ニヨリ深刻

鈴木文太郎, 蔵田貞造 (1908) 『美術解剖学』

69. 一個の大紀念碑を建て自ら銘文を撰して其詳傳を記し且つ當時戦死者七百餘人の姓名も併せて之を鐫し大書深刻千載

寺石正路 (1909) 『土佐遺聞録』

70. 深刻な描寫と官能に訴へると云ふことの効果の多いのは事實であるが併ながら單に讀者の官能の方面にのみ訴へて

71. 感情の一層大となれば、互助及び協力も一層明瞭且つ深刻となり、一層深密なる互助と協力とは更に類意識の深厚を來す

樋口秀雄(1909) 『社会論叢』

72. 「ミコデルマオー」 (桃ヨリス) (中略) 二、發育ノ狀態、桃浸出液又ハ麥芽汁上ニハ稍々灰色ノ厚キ皮膜ヲ成シ深刻ナル皺褶ヲ現セリ

高橋眞造 (1909) 『最近清酒釀造法』

73. 湿疹 (中略) chenisation ヲ呈シ、當該ノ皮膚肥厚シテ皮丘及ビ皮溝粗大深刻トナリ表面著シク粗糙トナルベシ

土肥慶蔵 1910 『皮膚科学 上』

74. 反して單一の大犯罪若くは單一大事變は、よしや其結果が百の小事變の結果を合計したるものよりも、遙に慘害少き場合と雖、却つて群衆に深刻なる印象を與ふるものなり

75. 精神に深刻なる感化影響を及ぼす方便は制度の中に求むべからずと結論し得べし

76. 議論最も深刻なる心理學の見識に富み、頗る傾聽に値す。故に余は下に之を轉載すべし

大日本文明協会 (1910) 『群衆心理』

77. 文然らば何故に西鶴が近松よりも深刻なるやとの間に對しては、小生が今更ら反復絮説するまでも無之

78. 近代的に深刻とでも言はう。けれども更に大觀すれば要するに兩方とも同じやうに自己の満足を求めてゐるのである

79. 西鶴の方或は深刻なりと申し得らるべく候はん。乍併西鶴のみ事實を描いたりとは斷じて申され間敷かと思考仕候

徳田秋江 (1910) 『文壇無駄話』

80. 勳章の目を眩するよりも、更に深刻な印象を與へる物のあるといふことを斷言し得る

河東碧梧桐 (1910) 『三千里』



81. 觀念の眞價は最もよくその深刻なる感化中に現はれたる處なり

82. 影響する處は極めて深刻にして、爾後の煩瑣哲學思想上に於ける一大勢力たるを失はざりぎ

83. フレーベルはヘルバートよりも猶深刻に諸學科の統一と有機的關係とを認識し

ポール・モンロー(1910)『世界教育史要』

84. 然レドモ此時小童タル著者ガ脳底ニ深刻セラレタル一事アリ

和田啓十郎 (1910) 『医界之鉄椎』

85. より深刻なる印象を與ふる所以如何と尋ねしに、渠答べて曰く「足下は眞理を假構の如くに説き、吾人は假構を眞理の如くに演ず」と

86. 正徑的信仰に基ける深刻嚴肅なる確信を要す

87. 新なる技巧により、或は深刻なる諷刺によりて銘々一世を風靡しました

内ヶ崎作三郎 (1910) 『人生と文学』

88. Ranunculaceae. 伊吹白山等ニ産ス、葉五深刻アツテ殆ド五裂、每片不齊ノ缺刻ヲナシ、各細

尖鋸齒アリ、質厚クシテ光澤アルコト石龍芮ノ如

飯沼長順 (1910) 『草木図説』

89. 少納言と紫式部一五四の讀者には、さまで深刻な印象を與へないものもある

90. 深刻で痛快で適切である。其の詩は老杜の壘を摩してゐる

梅沢和軒(1912)『清少納言と紫式部』

91. 西に向て弧形を成し、弧の内面は深刻の絶壁を成し、千鳥返シと稱する大蘿あり

太田爲三郎 (1912) 『帝國地名辭典 下巻』

92. 『移轉前後』にも、『一年間』や『妻』にも見出せないやうな、作者自身の深刻なる

Confession がある

93. 淺薄輕快の風尚は、嚴肅にして深刻なる、輓近の思潮を迎ふるに適當しなかつたからである

生田長江 (1912) 『最近の小説家』

94. 直ニ紙上ニ列記シ、其研究程度ノ深刻ナルヲ發表セントシテ

土曜会 (1912) 『陸軍大学校入学初審試験答解並研究：附・答解構成之要領 明治45年度』

95. 従て聽忌なる觀察者、深刻なる思想家、犀利なる事業家の修飾なき備忘錄に似たるの感あり

高橋五郎 訳 (1912) 『ベーコン論説集』

95. 依つて以つて、有力に、深刻に影響を與へねばならぬ。然るに、茲に問題がある

96. 児童に、一層有力に、深刻に影響せねばならぬ

97. 一思念は一思念よりも迫るといふ瞬間が感化の最も深刻に浸徹する時である

佐々木吉三郎 (1912) 『教育的美学 中』

98. 官能の高潮、若しくは深刻なる情調を渴くが如くに求むる一派の青年は正に是である

茅原廉太郎 (華山) , 大住舜 (嘯風) (1912) 『現実生活論』



99. 櫻井遺訓深刻骨臥薪嘗膽不暫忘

100. 深刻豐碑。以診後世蓋表彰兩先生之學德功業

南摩綱紀(1912)『環碧樓遺稿』

101. 一定部位ニ限局シ皮丘粗大皮溝深刻トナリ瘙痒劇シク慢性ニシテ濕潤ノ傾向ナシ

坂口勇 (1912) 『袖珍皮膚科學』

102. 鬼子桐、(大戟科)落葉喬木で、高さ二丈餘に達し、雌雄第異株である。葉は雌本は多く圓形で九尖り、雄本は二或は三の深刻がある

菊池正助 (1914) 『應用馬匹衛生学』

103. 觀察力ノ銳利、判断力ノ深刻ナル而カモ剛膽

研究会 (1914) 『改正陣中要務詳解 卷5』

104. これには彼は全く驚愕すべき表現と、精妙深刻

105. あの深刻な内省の習慣となり、ひいて彼の藝術の非常に大なる特質

106. 描寫の精緻適確にして、心理的透察の深刻なるこおそこさくおきりとは、恐らくこれに越した作はないであらう

エドキン・ビヨルクマン (1914) 『アウグスト・ストリンドベルヒ』

107. 『罪と罰』の深刻な心理描寫も

厨川白村 (1914) 『文芸思潮論』

108. 翁が靈と肉との戰を深刻に描盡せる大傑作にして、實に世界の有らゆる方面に大なる影響を與へたるもの也

松井須磨子 (1914) 『牡丹刷毛』

109. あま蟲の音は物思ふにはあまりいたはりもなく深刻なる感をそふ心地す

110. 進達古太郎氏も來モ后らわて深刻な感がしません

三宅花園 (1914) 『その日その日』

111. 或は此等の夢に伴ふ深刻なる實在の確信と符合するやも知れず

112. 其あらゆる深刻の度を包含するを得べしと想像するは、徒勞の業なり

113. 夢より覺めたる後に於てすら、深刻なる印象を與へ、且、或銳感なる人に對しては、餘りに神聖にして、殆ど之を口にすることを憚るなり

エリス 著 大鳥居弃三 等訳 (1914) 『夢の心理』

114. 本病ハ皮膚面ニ於ケル皮丘ノ肥厚隆起ト共ニ皮溝ノ深刻増大 スルコト稀ナラズ或ハ漸次増悪スルモノアリ

115. 時トシテハ顔面皮膚ニ於ケル異常ナル肥厚ト深刻疾患運動器疾患

入沢達吉 (1914) 『老人病学 下巻』

116. もつと深刻な、もつと利己といふものを超越した、もつと自分の頭を悩ましても惜しくないやうな、より直接にライフに觸れた問題であつた



117. 彼はこの深刻に傷付けられた精神の苦悶を、最も肉的な盲目の本能慾で押へ付けたなら忘れられるであらうと考へたのである

118. 人生觀が徹底し、確かに思想に深刻を加へたと自信した時でなければ出したくないと思つて居る

小川未明（1915）『雪の線路を歩いて』

119. 深刻な印象を心裡に包んで大事にして行くことゝ思ふし、君の一生が嚴肅な眞摯なものになるこゝ信する

120. 倶樂部とかを自分の興味や趣味の中心においてゐる人達に眞面目な深刻な人生の問ホ題などが解りつこはないといふが自分の想像であつた

121. 幼い兒を御導き下さい、眞當に深刻に生を味はふことが出来るやうに御導き下さい

小泉鉄（1915）『三つの勝利 上巻』

122. 其精忠義烈を丁寧反覆して深刻銘記

西村豊（1916）『軍人読法例話』

123. 然らずんば彼等は社會及び人間に對して徹底せる深刻なる批判な下すこと能はず

（1917）『イブセン美辞名句集』

124. 亦一面國民精神に影響して、其の淺薄なる現世主義を變じて切實深刻にして内面的ならしめたり

藤本慶祐（1917）『平叙日本佛教』

125. 尋常人よりは遙に豊富な微妙な深刻な経験を味はつて、其の経験が直に藝術的形式を取つて言現はされるか

126. 蓋し深刻な豊富な経験を積むといふことは、此の場合に於て異常な直覺に頼ることを意味するからである

金子馬治（1917）『普通心理学』

127. 老子は亡國の遺民に過ぎない、故に特に虚無の議論を吐き、深刻の觀察をなした

市村瓈次郎（1917）『文教論集』

128. 三十八章の談論、悉く直接緊要の問題にして觀察深刻引例適切、文章暢達、以て机上の良書とすべく、自己の伴侣とすべし

堀内文次郎（1917）『禪と健康』

129. 『一言にて盡せば、生活情態は全然一變したり』と然れども亂暴の原因を、一層深刻に究むるの必要ありといふ

内務省地方局（1917）『戦時列国地方資料 第3輯（列国戦時に於ける酒精の節制）』

130. 吾等の精神生活に貢獻し、其自意識を豊富深刻ならしむる點に於てのみ實在するのである

帆足理一郎（1918）『哲理と人生』

131. 深い谿谷とふところの深刻雄偉な姿には魂までも取られたかと思つた

加藤義夫（1919）『シオンの大路：加藤義夫遺稿集』

132. 此の深刻な皮肉は、正しく現在の經濟組織に於ける根本の病を曝露したといふべきである  
姉崎正治(1919)『世界文明の新紀元』

133. ウクライナ民族の言語、文學、歴史を詳論し、更に今次の大戰との、深刻なる內面的關係  
をもよく論破してある

世界思潮研究会 訳(1921)『新興国ウクライナ：附・チェック・スロヴアック』

134. 暴動の範圍は全露の農村に涉り、官僚及各社會階級に對し農民問題が如何に深刻の意義を  
帶び來れるかを明瞭に印象した

佐野學 (1921) 『露西亞經濟史研究 1921』

135. 永い幼少からの深刻な印象が深く私の頭を抑へつけて居たが東北學院の二年生の時小林文  
學士から、再び史實上の支倉傳を聞いた時、又もや深く六右衛門のローマ行

庄司一郎 (1922) 『聖雄支倉六右衛門』

136. その潜り穴となり卑陋の家屋を指す其顯書深刻

塙本哲三(1921)『文章軌範・東萊博議』

137. その深刻さの故に、彼の通つた道は比類なく顯著な普遍人間的刻印を打たれてゐる

岩波書店(1924)『ストリントベルク全集 第2』

138. 我經濟界ニ影響ヲ與フルモノ深刻廣汎

第百七銀行 (1924) 『第百七銀行史 明治 11 至大正 12 年』

139. 信仰を基礎とする深刻な體験を、犀利な人生批評に向け

ルノルマン 岸田國士 訳 (1925) 『落伍者の群』

140. 繊細且つ多數叢生す、葉は細小となり、切れ葉は深刻

原摂祐 (1925) 『実用作物病理学』

141. 要するに此問題ほど、當時の志士の心を深刻に刺戟したものはない

後藤武夫 (1926) 『高山彦九郎先生伝』

142. 地方官をして堅厚の石料を揃用し、碑を堅て界を定め、年月地方を詳開し、大書深刻

143. 一面には適種保存の欲求より、斯種の惡疾に對する忌避の情緒を深刻にし

伊能嘉矩 (1928) 『台灣文化志 【下卷】』

144. 生命の沸騰は全人格に震動を與へ、思想感情の深刻な覺醒を生ずる

閔衛 (1928) 『図画教授の基本問題』

145. 家族的並に遺傳的關係あるものに在つては、其考を深刻ならしめる

横森賢治郎 (1929) 『臨牀内分泌病学』

146. 千古傳在後進豐碑深刻磨而不磷

宮城県教育会 (1929) 『郷土人物伝』



147. 彼のこの演説は、かなり深刻な感動を労働者側に與へた。前に掲げクの労働組合大會に於ける演説は、首相の此の演説に應酬したものであつたと謂はれる

田川大吉郎（1931）『社會改良史論』

148. だから今は、親と子の、純正な深刻な關係に注目し、そこから新道徳は生れなければならぬ

高群逸枝（1931）『女教員解放論』

149. その筋の複雑さ、深刻さ、皮肉さ、その人物の人間的なる

春秋社（1931）『現代語西鶴全集 第3卷 1931』

150. 字形の觀察に伴ふ眼球運動の感覺を大にするときは軽てそれがその印象を深刻にし、その印象を深刻にする

雄文閣（1931）『西山庸平著作集 第2—10 讀方心理學』

151. どういふ深刻なる心靈的體験を告白したものた

山室軍平（1932）『コリント人への前後書：民衆の聖書』

152. その如何にも鮮かで水々しい透明な何とも言ひやうのない程の色につきては、出来るだけ充分に觀察をさせ、深刻に描き現はせるやうに指導するのである

板倉賛治（1933）『図画教育』

153. 強烈なる自覺は深刻なる反省を伴ひます。日本書紀はまさしく國民的自覺並に反省の所産である。然らば其の自覺は如何にして生じたか

大川周明（1933）『日本の言行』

154. 「本能が遺傳する如く深刻なる意識も亦遺傳するものである」と云ふ我が説である

屑屋極道（1935）『太陽は灼熱塊ではない：太陽と靈魂の正体』

155. 深刻な洞察や苛酷と思はれる諷刺は、何處にも見出すことが出来な

永井一孝（1935）『明治文学史』

156. 思想は、その根柢によこたはる人間の生活實踐が前進すればするほど、それだけ深刻に包括的に現實を把握する

松原宏（1936）『唯物論通史』

157. 時世は益々平和に向つて、寫實小説の深刻な描寫は時好に適せず、理想派の夢の如き又情緒纏綿たる小説を要求するやうになつた

山田珠樹（1940）『フランス文学観書』

158. 今後は裁縫科教全體がこの根本問題解決のために深刻なる批判を加へることを忘れてはならない

渡辺学園 編 1940 『明治以降裁縫教育史大要裁縫関係法令抄』



159. 自分の罪が基督の十字架の苦難に値いし、其の責罰を意ひ味するものと信ずる良心は同一の行爲に對して、如何に悲痛悔恨の情に深刻であるか

日高善一（1942）『信仰の人植村正久先生』

160. 人間一人が生れかはるほどの深刻なものを経験した筈である

上泉秀信（1944）『旧友』

161. 思想史の上に如何なる交渉を爲せるか、文學史の上に如何なる價値を持せるか、是等は精緻に深刻に研鑽を要すべき題目なり

岡田正之（1946）『近江奈良朝の漢文学』

161. その歌が從前とやや異り、病氣に對する驚き、老母に對する心痛、少女に對する親しみ等の、現實相に沁入つた深刻な歌が出來たのである

斎藤茂吉（1950）『長塚節歌集』

162. 乙彌の傾向として力作であればある程、ともすれば神經質に深刻な感じのものになり勝ちなのであつた

長与善郎（1951）『野性の誘惑 1951』

163. この夜の出來ごとはわたしの心にかなり深刻な印象をあたえ、わたしの神經を刺戟した。自分がいま宿命を信じているかどうかを確實には知らないが、この夜はわたしはそれをかたく信じていた

レールモントフ 著一条正美 訳（1954）『現代の英雄 1954』

164. 「あらまほしき御間ども」というのは、ただ表面だけのことで、事件はこれから次第に深刻に具体化して行くのである。

165. この物語の主人公がこうした性格であるから、その恋愛は複雑であり深刻

佐成謙太郎（1954）『源氏物語講説：対訳・精註・文法解説 1954』

166. 張英は深刻な恨を胸にいだいて家に歸った。

村松梢風（1957）『中国デカメロン 1957』

167. 徒然草には、現実と対決した深刻な体験記録はなく、風流隱者の筆のすさびというべき段が所々に見えている

宇佐美喜三八（1958）『解説徒然草』

168. あの「賭」の思想はパスカル独自の深刻な思想で、神が存在することのほうに賭けたほうがよいと数学的に論証しているのであるが、結局絶対的なものがあつて

菱山修三（1963）『不信の時代』

169. それが深刻な諷刺にもならず、滑稽的に世を観るやうなこともなく、また文藝としてまとまつたものにもならなかつた

岩波書店（1894）『津田左右吉全集 第4巻（文学に現はれたる国民思想の研究 第1） 1964』

#### 意味④（89例）

1. 國際間に於ける生存競争の問題は、日一日と深刻を加へて

樋口秀雄(1909)『社会論叢』

2. 試みに一朝我が國土が廣汎激甚なる水害に罹り、又は經濟界に深刻なる恐慌を來し、爲めに租税の收入に激減を生じたりと假定せよ

小林丑三郎 (1912) 『財政整理論』

3. 懐疑の程度が現代に至りて益々深刻となり其苦痛が堪ゆべからず成つたなぞは此理である

茅原廉太郎 (華山) , 大住舜 (嘯風) (1912) 『現実生活論』

4. 幾多の波瀾を背景として、遺瀕なき人間の苦しみと、深刻なる人間生活の一面とを語つてゐる

徳田秋声(1912)『黴』

5. 不景氣は一時の現象に止つても、この傾向は將來益々深刻

井関十二郎(1915)『実務叢書 第5巻 (商工繁栄現代式經營)』

6. 特に此の離反が、又同時に國家對個人の對立に伴つて一層深刻になる、徵候のあるのは、最も恐るべき點であらう。

姉崎正治(1919)『世界文明の新紀元』

7. 佐濃谷川沿岸は古來未會有の洪水に依り両岸の浸水を受けたるも、比較的災害の深刻ならざるは地勢平坦なればなり

京都府熊野郡 (1921) 『熊野郡水災志』

8. 露西亞の歴史は深刻の階級争鬭に貫かる。

佐野學 (1921) 『露西亞經濟史研究 1921』

9. 兩國々交上の紛争は、極めて深刻である

南満洲鉄道東亜經濟調査局 (1926) 『満鉄を中心とする外交：東亜に於ける日米衝突の基調』

10. 長き期間に亘る深刻なる經濟界の不況時、株式暴落して夫が賣却に大なる犠牲を必要とするが時に於ては往々にして

11. 宅の缺乏は悲惨なる深刻なる社會問題にして、經濟的に安價にて各階級の者のために住宅を建てむとすることに對し不必要なる妨害物たるもの除去すること

イギリス王立消防制度調査委員会 (1926) 『英國消防制度調査委員会報告書』

12. 一般雜貨ノ著シキ擡頭ヲ見タルモ財界不況深刻

鉄道省 (1926) 『鐵道省年報 大正13年度』

13. 學生の經濟的反抗も深刻に展開される

14. 知識階級の間には深刻な就職難、失業の悩みがある

産業労働調査所 (1928) 『無産者政治必携 1928年版』

15. 正貨の減少は憂ふるに足らず、通貨の縮少は寧ろ喜ぶべく、一時不景氣の深刻となるを厭はず

深井英五 (1929) 『通貨問題としての金解禁』



16. 不生産的知識階級の濫造を抑制することが今日の深刻なる知識階級の失業問題を緩和する最も有力なる方法である

安部磯雄（1929）『失業問題』

17. 桂内閣に至りて壓迫漸く加はり、迫害漸く深刻を極め、言論集合の自由漸く剝奪せらる

大原社会問題研究所（1929）『日本社会主義文献 第1輯』

18. 経済活動は量的に又質的に拡大され、民国時代の深刻な農業恐慌の嵐にも其の地理的條件の利を得てよそ耐へることが出来た

臨時産業調査局（1930）『農村実態調査一般調査報告書 康徳3年度』

19. 現下經濟界ノ不況ハ深刻ニシテ就職ノ機會ヲ得ルコト能ハス生活上ノ脅威ヲ受クル者夥シク全國ニ彌蔓シ

東京地方職業紹介事務局（1930）『東京地方職業紹介委員会答申及建議』

20. 経済危機は本年初めに於てすでに非常に深刻であつた

経済批判会（1931）『世界經濟危機の一年』

21. 此等農業諸州の状態がワシントンで想像するとは異り

全国經濟調査機関聯合会（1931）『[全国經濟調査機関聯合会]彙報 別冊 第46号』

22. 世界經濟ノ大勢ヲ見マスルニ不況ノ深刻ナル

大蔵省（1932）『予算の解説 昭和7年度』

23. 而モ漁村ノ經濟的窮迫ハ農村ニ比シ遙カニ深刻ナルモノアリ

産業組合中央会高知支会（1932）『高知県産業組合拡充五ヶ年計画』

24. 金解禁等 25 二年春の金融大恐慌を経て財界の不景氣は益々深刻となり、財政緊縮、消費節約

東京市（1933）『東京市産業統計年鑑 第1編（昭和8年版）（商業）』

25. 十一月二十七億臺トナリ結局同年中增加額二億七千餘萬圓ヲ算セリ昭和七年ニ入りテ我國經濟界ノ不況ハ益深刻

貯金局（1934）『郵便貯金業務状況 昭和9年2月調』

26. 第二の問題は第一のより決定的で深刻な問題である。現代の日本文化は要するに封建時代の文化であつて、古くなり古くなり破壊されつゝあるものなのだ

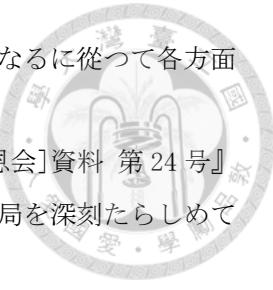
文部省学生部（1934）『プロレタリア教育の教材』

27. 最後に協調組合に就いては、小作争議が激甚深刻となるに二五四を要求するのが普通となり、更に年に依り又所に依つては七、八割の高率の減免要求に及ぶものもある

農林省農務局（1938）『小作争議・調停及地主小作人組合の概要』

28. その災害の深刻にして大なることは、我國の歴史上稀に見るところである

南洋協会（1938）『戦渦の中に育つ新生支那』



29. 一九二〇年創立された婦人職業中央委員會の働きは戦後の失業問題深刻になるに従つて各方面に非常な進歩を見たのである

三井報恩会（1940）『[財團法人三井報恩会]資料 第24号』

30. 現財政は巨額の國債をもつて當面の補綴をなすことによつて、益々其難局を深刻たらしめる

白石幸三郎（1940）『故園春秋 1940』

31. 以上の如く一般産業の不況は相當深刻なものがあつたが、これが對策として省當局の農民救濟事業は着々成果を挙げ疲弊困憊の農村にも一脈の恢復の兆が萌してゐる

大阪市産業部貿易課（1940）『貿易經濟叢書 第53輯』

32. こんなことが嵩じて、内訌はどこまで深刻な闘争に發展したかわからない

前田河広一郎（1940）『蒼龍』

33. 輸送難激化の現状交戦國たるわが國も同様いま深刻な輸送難に直面してゐる

朝日新聞社政治経済部（1941）『戦時下の産業合理化』

34. 深刻なる農村疲弊の現が打開に遭遇することが

下位春吉（1941）『農村青年に与ふ』

35. 経済上の壓迫を深刻にするのも反省を促す手段だと米國政客も新聞も説いて居る。正に原因結果の混同にあらずして何ぞやだ

木村銳市（1941）『世界大戦と外交』

36. 何となれば物價が急騰したために労働者階級には深刻な不安、動搖が起つて來た。一九一七年六月二十九日食料品管理官は食料品を差押へたり、價格を定める權限を與へられた

日独文化出版局調査部（1942）『英國の食糧危機』

37. 作者の戯作者的な描寫のせみばかりでなく、新舊の深刻な對立にまでは展開しないのである

矢崎弾（1943）『近代自我の日本的形成』

38. 事件が落着してから、かへつて問題が擴大し、深刻になって來た。その波動は、到頭、綾の身邊にまで波及して來た

村雨退二郎（1944）『南奇兵隊』

39. 其の影響は全國に波及して、經濟界の活動を減殺し逐年不況の深刻

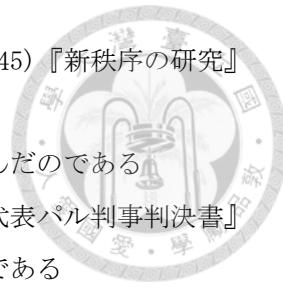
大垣商工会議所編纂事務所（1945）『大垣商工会議所史』

40. 五ソ聯影響下の赤區と新疆最も深刻な問題は、むしろ漢民族の内部にある

41. 奧地の經濟が事變の影響を深刻に受けて萎縮したので、寧夏、青海、西藏、四川、陝西各地との仲繼交易は殆ど杜絶の狀態となつたにも拘らず

上海靖亜学会、朝日新聞社 共編（1945）『西北支那』

42. かく見れば歐洲の相剋には深刻なもののあることを否定し得ないが



43. 日清間の戦争は、一つの問題を解決したが他に一層深刻なるものを生んだのである  
(1948) 『極東国際軍事裁判所判決 印度代表パル判事判決書』
44. 世界は嘗て見ざる廣い範囲と深刻なる殺戮を伴ふ大戦争を實行したのである  
矢内原忠雄(1950)『講和問題と平和問題 1950』
45. 凍上の問題として取り扱う二農業物理學に於ける凍上の問題は、進んで地力の問題と關聯して考えると、更に深刻な問題となる。凍土を起している凍土がとける場合を考えてみる。
46. 大きい河一杯にあ進んで地力の問題と關聯して考えると、更に深刻な問題と霜柱と凍上さきほどいった農林大臣のお話が、すでにその例である  
中谷宇吉郎(1950)『霧退治：科学物語』
47. 今日戦争の危機はますます深刻となつてゐる。國際的な反帝國主義デーは八月一日である  
市川正一(1950)『日本共産党闘争小史 1950』
48. この現象が続くかぎり(月別)貨幣資本の不足が増大し金詰りをより一層深刻ならしめ  
弘前市(1951)『弘前市統計年報 昭和25年』
49. いなそれはアメリカ以外に競争者もありえないほどの大兵力を有するだけに、その脅威は深刻だ  
佐野学(1951)『日本再武装論 1951』
50. 白人種對有色人種の人種戦争ほど深刻なものはない  
賀川豊彦(1951)『少年平和読本 1951』
51. これより両統の皇位争奪戦は深刻となり、後に前者が北朝となり後者が南朝となる  
佐野学(1952)『足利尊氏 1952』
52. 日本経済も過去一ヶ年の「景気上昇」的過程から、中だるみの過程に入つて深刻な影響を受けつつある
53. ベトナムでも失業問題は深刻であるが、この国では主として政治情勢の不安定と商業、工場生産の減退にその原因がある
54. 企業整備で深刻な様相を深めつつあつた雇用面は、動乱後の特需、輸出景気を迎えて俄かに生氣を回復したかに見えた  
桂労働関係研究所(1952)『労働年鑑 昭和27年版』
55. それがひいては大学の入学難を救うべからざる深刻なものにしていると思います  
森本清吾(1953)『中学生の数学 基礎篇 1953』
56. 現在人類の歴史が危機的段階にあることは、第一次大戦の時に比べて一層深刻であり
57. 労働者の經濟生活の安定を求める要求は眞實かつ深刻なものであつて、これを無視することは許されない
58. 内部的な対立が深刻になって行った

矢内原忠雄（1953）『銀杏のおちば 1953』

59. これに伴う製造予定数量の減少等深刻なる現状が再認識され

日本専売公社（1953）『業務概況報告 昭和 27 年度』

60. 昭和 22 年度においては、基礎資源の枯渇と物資の不足は、更に一段と深刻を極め

郵政省（1953）『郵政統計年報 昭和 27 年度 総括編』

61. 美子は自分をどう思うか、それは深刻な問題ではあるが、それだけにまた自分としては、今急にそれを解決する必要も感じていない

62. 直接には選手監督、ひいては先輩及び学校当局の深刻な問題にならざるを得なかった

成田秀三（1954）『白線への郷愁：高校今昔物語 1954』

63. 全体の七割五分は農家の生活難から来ており、深刻な様相を物語っている

河合悦三（1954）『農業農民問題講座 第 1 卷（日本の農業と農村の生活）1954』

64. これらの食料はこの深刻な物資欠乏の際直接命につながるものである

中勘助（1957）『くひな笛』

65. 昭和 22 年度においては、基礎資源の枯渇と物資の不足は、更に一段と深刻を極め

郵政省（1958）『郵政統計年報 昭和 32 年度 総括編』

66. しかし 32 年度も生産過剰は深刻となり公社も遂に減反に踏み切らざるを得ない段階にたちいたり

日本専売公社水戸地方局（1958）『事業統計 昭和 32 年度』

67. これは醉漢の單なる「らくがき」というべく餘りに深刻な時勢に對する感慨が表現されている

鈴木秀三郎（1959）『本邦新聞の起源 1959』

68. 府予算赤字のための通貨増発などの影響は、依然として深刻を極め

日本インドネシア協会（1960）『インドネシア輸出入貿易の動向』

69. 九州北部はようやく水不足は深刻となり、30 日に梅雨前線が急に九州北部まで北よし、久しぶりに 10~20 mm 程度の雨となって

福岡管区気象台（1960）『福岡管区異常気象報告 昭和 34 年』

70. 数度にわたる深刻な景気変動の試練をへるにつれ、これまでの自由放任を基調とする歩みから

71. 敗戦という空前の事態によって、わが国の住宅事情はきわめて深刻な量的不足

72. 自己建設能力をもたない低所得階層の住宅難が深刻となつてている

厚生省大臣官房企画室（1960）『厚生白書 昭和 34 年度版』

73. 農業生産の渋滞、物価騰貴、深刻な外貨不足、計画の運命を決する外国援助の見通しからみて、容易ではないとみられている

74. 最近の外貨保有高は独立以来最も深刻な状態といわれ、国有鉄道は鉄道用資材調達のための外貨ができるだけ節約しなければならない状態に置かれている



75. 鉄道職員当面の深刻な住宅難に対しては、鉄道は長期計画により対策を講じているが、取りあえず 1958-9 年度中に、40 万 5,000 ルピーを支出して宿舎 156 戸を建設した

日本国有鉄道外務部 (1960) 『アジア鉄道概観：東南アジア・中近東』

76. こるまでの数年間の国情は、深刻な不景気の底しかし、妙正尼は人間としてもりっぱな人でにしんぎんしていた

村松梢風(1962)『両国の川風 1962』

77. 佐賀県下でも東松浦郡が特にかんがい用水が不足し、人工降雨を自衛隊に依頼するなど水不足は深刻になつたが、7 月 26 日の雨で一応解決し

福岡管区気象台(1962)『福岡管区異常気象報告 no. 1(1961 年 1 月-8 月)』

78. 年少人口の減少によつてもたらされる若年新規労働力の増加の縮小傾向は、これらの産業へ深刻な打撃を与えるであろう

厚生省大臣官房企画室 (1963) 『厚生白書 昭和 37 年度版』

79. 近年の看護職員の需要の急速な膨脹によって、看護職員の不足は全国的にいぜんとして深刻な問題となっている

80. 施設の整備の遅れは、普及率とは別に給水量の問題において深刻な状況になっている

81. 住宅母子家庭の住宅問題は一般家庭のそれに比べいっそう深刻であると考えられるので、母子福祉法では、母子家庭の住宅について公営住宅の供給に特に配慮を加えることにしている

厚生省大臣官房企画室 (1965) 『厚生白書 昭和 39 年度版』

82. このことが、アジアの深刻な危機ほど、昨年において明らかになった地域は他にない

アメリカ大使館文化交換局出版部(1965)『アメリカ政策シリーズ no. 40』

83. 終戦に伴う悪性インフレが事業に与えた影響は簡易保険より一層深刻のものがあった

郵政省 (1967) 『郵政統計年報 昭和 41 年度 保険年金編』

84. しかしながら経済界において、あらゆる業種が深刻な不況の中で伸び悩んでいる状況のもとで

日本専売公社大阪地方局総務部庶務課 (1967) 『事業統計 昭和 40 年度』

85. 東西南北、西諸県郡では深刻な水不足となり、水田に地割れができた。このため、一部では水稻の植付けをあきらめ、秋大豆、ソバなどに切りかえた所もあった

86. 今までの深刻な水不足もいくぶん解消したが、まだ、完全に解消するに至らなかつた。深刻ではなかつたが、水不足の状態が続いた

福岡管区気象台(1967)『福岡管区異常気象報告 no. 19(1967 年 4 月-6 月)』

87. この年末における中小企業の資金確保は、極めて深刻な問題となつてゐる。よつて、政府は次の諸点について特段の措置を講ずべきである

88. 中小企業における公害問題は深刻な様相を呈しており、現に昨年においては、公害倒産と見られるものが数件発生するに至つてゐる

衆議院商工委員会調査室 (1967) 『衆議院商工委員会審議要録 第 53 回国会-第 65 回国会』



89. 証券界今日の危機の事態はきわめて深刻であります

参議院大蔵委員会調査室（1964）『参議院大蔵委員会審議要録 第47回国会-第56回国会』  
意味⑤（3例）

1. 此の目的より、彼等は日本の行動に對し深刻なる批判と陰險なる曲解を下し、之を支那官民に鼓吹した

馬場義興（1921）『国策の遂行と国力』

2. 後者が一段と深刻な批判を加へられて居るやうであります

遠山諦觀（1938）『求道の歩み：親鸞聖人』

3. 互に深刻な批判を下して相争ふといふやうなことはなかつた

亘理章三郎（1943）『日本魂の研究』

意味⑥（8例）

1. やがて、父さんが深刻な顔をして歸つて來た。おばあさんが眞先に出迎へて「今日は良かつたなア、お前」「えツ?」と父さんは複雑な表情でおばあさんの顔を見守つた

金川文樂（1940）『蚤の足あと』

2. 又子を負ふて唄ふ女の像の如きものを見ると、埴輪には東洋に於ける佛像の如き、又西歐に於ける神像や哲人の如き深刻な表情はないが、却つてその人間的な盛情の卒直な吐露が、時代を隔だてゝも觀者に新鮮な共鳴を喚起するのである

野間清六（1942）『埴輪美』

3. 「皆さん、どうですか」議長の杉本が、一同の意見を促したが、誰もみな深刻な顔をして静まり返つてゐる

大鹿卓（1943）『母の夢』

4. 今に日本にでも、支那にでも、いぎりすから荒しに來るにちがひないこんな風にヅーフが説明した時など、深刻な顔をしてお花さんは可愛い眉に八の字をよせたりした

平山蘆江（1943）『長崎出島』

5. 少年は岸の磯に丸裸のまゝうづくまつて、深刻な表情で川の表面をじつと見てゐた。瞬一つしないで、まるで死んだ物かのやうにじつとしてゐた

荒木巍（1943）『歴史をつくる者 1943』

6. 課長は、そこで、いつになく深刻な顔つきで、一同をぐるっと見まわしたあとで

7. これを聞いていた一同は、深刻な顔つきでうなづいた

海野十三（1950）『火星魔』

8. 乙彌は深刻な顔つきで袴の膝に手を突いたままのその姿を見ると、ふとをかしくなつた

長与善郎（1951）『野性の誘惑 1951』

それ以外の用例（4例）



1. 例之バ CH<sub>3</sub>·CHO + NH<sub>3</sub>=CH<sub>2</sub> < OH·NH 而シテ此アルデヒードアムモニアハ深刻ノ分解ヲナスニアラザレバ水ヲ析出セザルヲ

丹波敬三, 下山順一郎, 小山哉, 柴田承桂 (1909) 『有機化學 前編』

2. 容貌は深刻奇醜をきはむ。禿頭。紺の萬祝を着たり

長田秀雄 (1914) 『琴平丸：戯曲』

3. 例之ヲ溶解セシムルモ既ニ多少分解シ、濕潤セル狀態ニ於テ之ヲ貯フルトキハ速ニ深刻ノ分解ヲ受ク即チ腐敗ス

丹波敬三, 下山順一郎, 小山哉, 柴田承桂 (1916) 『有機化學 後編』

4. 而シテ修練ニ依リ受ケタル器官ノ變化ハ深刻ナルモノニアラシシテ修練ヲ中止スルトキハ其變化及獲得シタル最高能力ハ速ニ消失スルヲ特微トス

吉田章信 (1916) 『運動生理学』

## B. 『日本語歴史コーパス』 (77 例)

### 意味① (1 例)

1. 我輩は女の復讐の深刻なのに驚愕した

ドーレビリー 作 柳宗悦 訳 (1925) 「戀の復讐 鬼火の心」

### 意味③ (54 例)

1. 而かも是等の作、何れも痛切深刻、たしかに一部人生の幾微に入るるものあり

高山樗牛(作) (1901) 「文明批評家としての文學者 (本邦文壇の側面評)」

2. 深刻とか、幽玄とかとてもてはやされ來りし鏡花の小説

大町桂月 (1901) 「文藝時評」

3. ただ押入の中に餓死せる恨過ぎて深刻なる趣は、西洋人ならではと思はるのみ

大町桂月 (1901) 「文藝時評」

4. 森嚴の氣、深刻の調、直ちに神の聲を聞くべく

金山尚志 (1901) 「北海道に於ける無言の行者」

5. 更に深刻なる苦難を受く、これ宗教上の刑罰に因りてなり

(1901) 「世界紀聞」

6. 更に現實を深刻に觀察し、超道德的文學を興して

長谷川天渓(1909) 「文藝時評 超道德的文學」

7. 佛典は畢竟深刻なる不満足哲學に過ぎず

浅田江村(1909) 「政黨首領としての桂侯」

8. 言はば平凡なる逆境生活を描いたもので、其の内に深刻なる悲哀が含蓄されてある

長谷川天渓(1909) 「文藝時評」

9. 脳裡に日本の威風を深刻せしめたならば、容易に統監政治を布くことが出来るだらうと思ふ

戸水寛人(1909) 「統監政治批評 統監政治に對する疑問」

10. 蓋し佛國の自然主義は概して深刻である、殘忍である



ランソン 作 前田越嶺 訳 (1909) 「佛國近代の文藝界」

11. 思ふに宗教的道徳は人の頭脳に極めて深刻なる印象を與へて

尾崎行雄(1909) 「政治家の徳義問題」

12. 露西亞風俗や露西亞國體や露西亞文明の深刻なる批評を公にするのに遇ふことが出來なんだけれども、此上もない

坪内逍遙(1909) 「故二葉亭子の性行」

13. 日本文學に深刻とか雄大とか云ふものの無いのも同様である

黒田鵬心(1909) 「日本建築の將來と佛寺の再建 伊東大塚兩博士の説を評す」

14. 明治三十七八年の日露戰役に際して最も具體的に、明亮に、且深刻に其傾向を示した

望月小太郎(1909) 「政治家と生活問題 政治家と時代精神」

15. 併し大體を通じて、深刻若くは幽玄といふ方面の姿態を缺いて居る

浅田江村(1909) 「秋田大觀」

16. 之れは若し深刻なる自然の研究なしにクラシツクに到らんとするのは畢竟模倣の墮落に歸する

荻原守衛(1909) 「日本現時の彫刻界」

17. 消滅して現實の人生に觸れて往く徑路を描いて、深刻の意義を發揮してゐるでは無いか

長谷川天渓(1909) 「文藝時評 理想は假面也」

18. 現實よりも唯惘然たる過去の追憶に何とも云ひやうのない深刻な味を覺ゆるのである

永井荷風(1916) 「九 おさらひ」

19. 隨て一面より觀れば非常に雄大深刻なる經濟戰であることも明白である

鶴見左右雄(1917) 「戰時歐米産業界の活動」

20. 其の一代の生活を活寫し、之によりて文明社會の缺點を指摘し、深刻痛烈を極めたもの

(1917) 新刊紹介

21. 他人に就いての記憶は、それが如何に憐れであつても、また如何に深刻あつても、大方は、忽ちに消えて跡なくなり勝ちのものである

中村星湖(1917) 「歌さんの幻影」

22. よく人生の獸的方面と靈的方面とを其の犀利 深刻 なる筆を以て遺憾なく描寫し展開せしめたものである

(1917) 新刊紹介

23. 戰爭の經濟生活に及ぼせる影響は歐洲諸國民の腦裡に浸潤することの深刻なると共に

堀江帰一(1917) 「反動的經濟政策を排す」

24. 國家は永遠の基礎の上に立つて居るといふ見地から、今少し深刻に歐洲交戰國を觀察する必要がありはせぬかと思ふのである

某將軍(1917) 「歐亂戰爭を中心として」



25. 政治上社會上の激烈なる變化は社會人心に深刻なる感化を及して種々の變兆を來たすを免れず

三浦周行(1917)「深草元政上人と其時代」

26. 併し彼等の藝術は新しくとも確實とか 深刻とか云ふ觀念に於て他國の藝術を凌駕して居た事は否定

27. ルネサンス式の眞面目なる又深刻なる一種復興時代の複製品のやうな藝術が流行して居た

28. 又他方に於ては、クラシツクの畫家であり且つ自然の深刻なる研究殊に彼等の國民的特長たる寫景の深刻なる點を以つて生れ

29. 畫家であり且つ自然の深刻なる研究殊に彼等の國民的特長たる寫景の 深刻 なる點を以つて生れて來たものはドレスデンの有名なるリンゲルである

寺崎武男(1917)「大戰を豫言せる獨逸戰前の藝術」

30. 殊に專制國の帝王の暴虐が、頭腦に深刻せられて居るので、極端な共和主義者である

西湖漁郎(1917)「支那政界の中心人物（下）」

31. 日本人は何うも浮ツ調子で、深刻な内省がないワイ

前田蓮山(1917)「雜談」

32. 人形の悲哀の方がもつと深刻だと思ふけれ共、作者は恐らく此月並に囚はれたのではなからうか

河野桐谷(1917)「文展日本畫評」

33. 成心がなく、昨爲がなく、策略がなく、純一無碍の心境を、深刻と平明との融合を以て歌ひ出してゐる

服部嘉香（1925）「心境の詩人—河井醉茗氏について—」

34. これ等は物のあはれを深刻に語つて居る

（1925）「有識階級の失業状態を如何に見るか」

35. 實際生活の矛盾に對する政府と國民の深刻な悩みと見らるるのである

増田正雄(1925)「赤露印象記」

36. 彼れの熱血男兒的性格、それ等に對する余の興味を層一層深刻ならしめたのである

37. 我が大文豪の一人に對する貴下の感興が如何に深刻なるかを感じた

藤沢利喜太郎 作 田内長太郎 訳 (1925) 「吉田寅二郎とロバート・ルキ・スチヴェンソン」

38. 財力を得なければ何事を爲すことも出來ないといふことを深刻に感じたのであつた

浜田三峰(1925)「時事一家言」

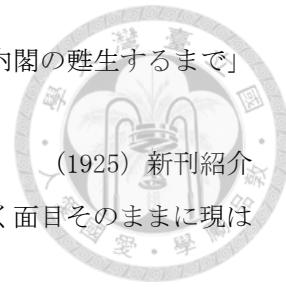
39. 先生の責任に歸着し價値に關係して來るわけで、實に深刻といふより慘酷だ

水島爾保布(1925)「科舉時代物語「一」」

40. 自分の死期を悟つてからは一層深刻になつて來た

三上於菟吉(1925)「長篇小説 蛇人（第九回）」

41. 出向いて行つたなどは可なり深刻な悲劇だね。横田は死んだからよかつたよ



前田蓮山(1925)「政界鬼語 加藤内閣の甦生するまで」

42. 椰子の入り結んだ葛藤は讀むにつれて深刻に深刻に縛れていつて

(1925) 新刊紹介

43. 近代になつて性に關する問題が眞剣に深刻に考へられて、遠慮會釋なく面目そのままに現はれてゐることは

宇野要三郎(1925)「法廷より見たる世態人情の變遷」

44. 世人は現在の政局に對して深刻なる不安を感じてゐる

45. 世人は、深刻な不安を抱いてゐる

床次竹二郎(1925)「現政局に對する感想」

46. 藝術品の價值の高下は問題でない。 深刻なものでもなければ、劇のスタイルとして餘り感心したものでは

(1925) 新刊紹介

47. 事實が餘りに深刻であり、且つその思想的背景が驚くほど濃厚であります

(1925)『太陽』

48. に教育上の施設に就きてさういふ感が深刻であるのである

藤沢利喜太郎 (1925) 「ステファニック將軍を懷ふ」

49. 慾をいへば、人物の表現に、もつと深刻な解釋が欲しかつた

市村英輔(1925)「帝展の日本畫」

50. 昨なほ今の如く本誌讀者に深刻なる印象を與へた沖野氏が、其の靈筆を驅つて

七月号新載小説(1925)『婦人俱樂部』

51. 同胞の隠れたる苦悶と涙と不安とを描いて、深刻を極めてゐる點に於ては寧ろトルストイ以上である

ドストエフスキイ 作 昇曙夢 訳 (1925) 「虐げられし人々」

52. その尖銳深刻な作風に於いてまことに新進作家中の新進として

(1925)「中河與一氏」

53. さうした深刻な思ひがけないショツクに驚かされた西歐の人々は

吉村勢子(1925)「現代婦人の最大幸福」

54. 直太郎は都會の魅惑力の甚大さを深刻に知つて

(1925) 文部省懸賞當選映画 ふるさとの歌-日活新作-

#### 意味④ (19例)

1. 蓋し強國の數益と減ずれば相互利害の衝突益と深刻劇甚を加ふればなり

野中勝明(1917)「平和と世界の統一（強國論）」

2. 時聯合國の困危、殊に生活必需品の缺乏より来る深刻なる困厄の激増は、實に米國の參戰が直接間接に招來した大痛撃

浅田江村(1917)「千賀博士の『日本の歐洲戰亂に對する地位』と聯合國の現状」



3. 尚ほ他の理由は歐米に於ける盜難の種類及び方法が最も深刻に行はれ

(1925) 「貸金庫とはドンなものか 東京では日本興銀と三菱銀行とが草分け」

4. 我國民は、事實に於て、深刻な、生活難を味ひつつある

三輪田元道(1925)「生活上に於ける差別撤廃論」

5. 更らに一昨年の彼の大震災がこの悲境を更に深刻ならしめたのであつた

大倉喜八郎(1925)「財的に觀察したる國難の襲來と國民の覺悟」

6. エクトは、月を重ねる毎にますます深刻を加へて來たかのやうに思はれる

(1925) 「卓上私語」

7. 深刻なる不景氣 不景氣の聲を聞くこと既に久しい

8. その深刻の度が、一層甚だしい様ではあるが

9. 財界に受けたその創痍は一層深刻であつた

10. 目下の深刻な不景氣が何時までつづくか、何時景氣が回復するかは

安川雄之助(1925)「内外に現はれたる好景氣の曙光」

11. 不景氣は世界的の風潮であるが、殊に我國が一層深刻にその影響をうけてゐる

岡崎国臣(1925)「不景氣の三つの原因と二つの救済策」

12. 風紀問題に關しては、隨分に激越、深刻、露骨、大膽な事件が運ばれて來ることもあるが

宇野要三郎(1925)「法廷より見たる世態人情の變遷」

13. 深刻な不景氣が長期間に亘つてゐる結果、我ホテル業者も

犬丸徹三(1925)「ホテル經營上から見た世相」

14. 今回の不景氣は、餘程深刻の様である

柳家小さん(1925)「寄席に映じた近頃の世相」

15. 大なる不安、深刻なる生活の脅威を感じてゐる

床次竹二郎(1925)「現政局に對する感想」

16. 戦後の不景氣は歐洲全土に亘つて尚止まず、却つて益々深刻になり行かうとしてゐる

鈴木文治(1925)「國際勞働會議より歸りて」

17. 市民は大震災に亞いで、現下の深刻な不景氣の爲に、何れも死線にさまようてゐる

(1925) 「復興建築會社長となれる沼田政二郎氏」

18. それまでには社會のあらゆる方面に亘つて最も深刻な鬭爭が繼續することは已むを得ません

山川菊栄(1925)「生産階級者の利益と自由を」

19. 生活難の深刻な時代に結婚することの方が問題で

新居格(1925)「當為的には別居が原則」

## 意味⑤（2例）

1. 間接に於ては殆ど深刻を極めたる攻撃を加へたり

(1901) 「桂總理大臣」

2. 其の代り批評は深刻だよ

前田蓮山(1917)「三黨の三思案」

それ以外の用例（1例）

1. しかし淺薄や深刻は本當は問題ぢやないんだね

正宗白鳥（1909）「何処へ」

C. 「昭和、平成書き言葉コーパス」（300例）

意味①（1例）

1. これは寧ろ城戸をアウトヘロツドするもので、罪九族に及ぶ式の極めて深刻な遣り口である

城西隱士(1933)「大毎王國御家騒動記 城戸と吉武」

意味③（133例）

1. 上記の如き事情で門弟の何者かに深刻な恨みを買ひその復讐を受けたと見るのが最も當つてゐるやうである

谷崎潤一郎(1933)「春琴抄」

2. 倫敦軍縮條約に對して、深刻な反対意見が生れたのは

馬場恒吾(1933)「岡田海相論」

3. ワード・スコット等一群の科學者も亦、かかる深刻なる機械の發達と、機械文明社會の複雜性とに鑑み

鶴見祐輔(1933)「テクノクラシーとは？」

4. 銃の音の深刻な意味には、少女の藍子ほどにも氣づかず

正宗白鳥(1933)「横光利一論」

5. 分り切つたことを『深刻に』説明し、以つて事の本質をゴマ化すブルジョアや俗流理論家を諷し

直井武夫(1933)「マルクス『資本論』の文學」

6. 鮮やかな表現と敏隸の構想深刻な戯曲、作者の氣魄横溢する八篇を收む

新刊紹介（1933）『中央公論』

7. インキで思ふままに汚されねばならない」と云はれたことは、蓋し深刻なる至言である

山川均(1933)「非常時世相を彩どる右と左からのテロリズム」

8. 彼の生涯中で最も深刻にして大膽な實際運動に働くかせてゐることも見逃せぬ

幸徳幸衛(1933)「叔父秋水の思ひ出」

9. 伯林の留學生からはもつと深刻な恨を聞いた

山浦貫一(1933)「圓安洋行奇談」

10. 一新大統領が世界對日本といふ形成を、もつと深刻に鞏固にしようといふならば

鶴見祐輔(1933)「ローズヴェルトの極東政策」

11. 其上に國民政府の急進思想が深刻な排外感情を養成して居る

小林絹治(1933)「ジュネーブ檜舞臺の勝敗」



12. 大した深刻な打撃を蒙るとは思はれぬ

藤原銀次郎(1933)「日本への影響 我国産業界への影響」

13. 批評は深刻だが奇矯は避け、犬と猫を可愛がることも知つてゐる

新明正道(1933)「新進教授物語」

14. 委員會に於ける批判質問はなかなか深刻であつて

矢内原忠雄(1933)「南洋委任統治論」

15. 『十一年にわたる痛苦な経験を深刻に検討しての結果』であるといふ

山川均(1933)「共産黨兩巨頭の轉向」

16. 學問的鋭鋒を隠してゐるが隠せば隠すだけ學生への影響力は深刻になつてゆくとのことである

住谷悦治(1933)「京大法學部今昔物語」

17. 男女間の愛慾を深刻に取扱つた最初の作は『髪』であるが

18. の體験から來た深刻な心境小説で、兼ねてまた嚴肅な人生記録であり

宇野浩二(1933)「文學の眺望」

19. 新に展開される状勢を知る毎に、深刻な自己批判に身を潜め、黨の政策や行動を検討して來た

鍋山貞親(1933)「左翼運動に於ける小ブルジョア氾濫」

20. 世的な常識範囲を出でず、深刻な形面上的世界にまで突き入る要素もなければ

杉山平助(1933)「菊池寛論」

21. 教室の講義や宗教の講話によつて、この深刻なる事實を切開全治し得るとは豫期し難い

鳩山一郎(1933)「現代學生に與ふるの書」

22. その苦痛は不眠症患者のみが同情し得る深刻なものであつた

伊藤正徳(1933)「現代學生に與ふるの書」

23. 真崎大將が愛娘の死に悲泣したやうな深刻な宗教的センチメントは、もちろん持つてゐない

24. 事變前の關東軍司令官として、あれほど満洲作戦の深刻な研究をやつたくせに動亂の二年間

平田晉策(1933)「菱刈大將論」

25. 君の様な深刻な見方も一つの觀察であります

栗林正修(1933)「金の身上相談」

26. 彼はいつになく涙ぐましい程 深刻 にその事を考へた

窪川いね子(1933)「進路」

27. 私共は人生に對して實に深刻な反省をさせられる

永井柳太郎(1933)「ブレーン・トラストとしてのシェークスピヤ」

28. 人間のあらゆる業と、妄執と、輸廻がここに集まつた、複雑で深刻で醜惡を極めたものであつた

阿部眞之助(1933)「レンペン的名士列傳」



29. 「制服のアナウンサー」問題が目下深刻に論議されてゐる

吉本明光(1933)「アナウンサー論」

30. ただこのことによつて深刻な人生の一面に試煉を経たやうな氣がした

上司小剣(1933)「戯曲 U新聞年代記」

31. その僥倖のおかげで人口増加が後年に齎らす深刻な影響を悟らずに居た觀があつた

前田多門(1933)「一年百萬も殖えてどうなるか」

32. 斯んな深刻な藝當は城戸には出來ない

城西隱士(1933)「大毎王國御家騒動記 城戸と吉武」

33. 例としては澤山あるけれども餘り深刻なものは除外して、賢明叡智な讀者に一寸刺激を與る程度のものだけ

前田善教(1933)「都市・犯罪・變態」

34. 深刻な、或はモデル又は畫材は、昔から私には肌に合はないので

ラグーザ・玉(1933)「ラグーザ・玉(昔の東京・今の東京)」

35. これは最も深刻な宗教の批判の仕方であらう

K・T・O(1933)「三面記事批判」

36. 決して偽文學ではないのだから、その惱みには深刻なものがあつた

青野季吉(1933)「33年文壇の總評」

37. 自分の児が生れてからと言ふものは、さらに深刻な疑り深いと思へるほどの眼光を

佐藤垢石(1941)「酒徒漂泊 二」

38. さらに私の最も深刻に憂慮する點は今次世界大戰後に當然豫想される世界經濟爭霸戦である

(1941)「読売新聞 3面」

39. 重慶抗戰陣營の蒙る精神的打撃の深刻なるに反比例して南京國民政府の待つ國際的比重は俄然數倍し

(1941)「読売新聞 2面」

40. 汪精衛氏は深刻な自己批判を行つて自責の念に驅られて居る

梨本祐平(1941)「日華條約と新支那の將來」

41. 葉山に対する立合法をいよいよ深刻に研讀し、手口をもますます精練してみがきをかけてきた

彦山光三(1941)「双葉山と四大關」

42. だが宇宙の構造を知つて深刻な恐怖や驚愕に襲はれるのは

43. この鬪争の中に窺はれる深刻を直視するものであつた

清水幾太郎(1941)「深淵から」

44. 一方日本精神の高揚は歴史の自覺を深刻ならしめた

船山信一(1941)「良書推薦 近頃の歴史哲學書」



45. 政治的性格が濃厚であり、深刻であるといふことが出来るのである

留岡清男(1941)「現下青年運動の點描」

46. 國民黨員の痛憤は實に深刻なるものがあり

谷水眞澄(1941)「支那青年運動の性格

47. 全體として當面してゐる問題に對して未だ深刻に考へてないと思ふ

48. 兩大民族が何時迄も爭ふべきでない、といふことを非常に僕は深刻に感じた

大平安孝 等 (1941) 「政治の現實と翼賛議會」

49. これを深刻な思想小説にまで淨らかに昇華させてゐるのであつた

50. 漱石のラヴ・シインは深刻な戀愛經驗無き作者が捏空造花した美辭のやりとりにとどまり

日夏耿之介(1941)「鷗外文學の日本の造立」

51. これによる民衆の惱みは徐々と深刻になってゆく

皆川總一(1941)「獨軍政下のパリ生活報告書」

52. 此間に紙幣價值の甚しき下落あり、士族の生活は深刻なる打撃を受けたのであつて

鈴木安藏(1941)「明治維新研究 14 集權國家の成立」

53. 利害關係からいつても米國の關心は相當深刻になって来る

清水一郎(1941)「米國の對東亞共榮圈貿易」

54. 政治的觀念を導入れてくるところに既に深刻な示唆があると私は考へるのである

岩片磯雄(1941)「今日以後の蠶絲政策」

55. 蘭印當局の深刻な惱みは茲にある

津輕國雄(1941)「一在留邦人の蘭印實感」

56. ないと信じ込まされてゐる市民の驚き方は大分深刻だつたらしい

金久保通雄(1941)「西安から延安へ」

57. 極度に嫌惡したのであつた。それ位だから、當初は中野の如き深刻な金の苦勞などは味はなかつた筈である

三鬼陽之助(1941)「惱める新興コソツェルン」

58. 行路を阻まれて居る支那民族の深刻なる苦悶が含まれて居ることは

59. 寧ろ、かくすることによつて民衆に與へる深刻なる苦痛が

60. 新中央政權にとつて深刻なる惱みとなつて居る支那に於ける糧食の窮乏は

梨本祐平(1941)「事變處理對策としての經濟的諸問題」

61. 民衆生活に喰ひ込んで、廣汎且つ深刻な役割を演ずる未梢機關なのである

草野文男(1941)「中國共產黨の工作實相」

62. 英佛の敗北は又極東にも深刻な影響を及ぼし

具島兼三郎(1941)「戰時ソ聯の研究（特輯）」

63. 『上から』斷行された深刻な變革であり

山村房次(1941)「戰時ソ聯の研究（特輯）」



64. 深刻な痛手を蒙つてゐるブルガリヤは、極めて用心深くなつてゐた。

城戸又一(1941)「バルカンの新情勢」

65. と言つたその深刻な悩みを、物心兩面一舉に解決したことだけは明かである

伊藤正徳(1941)「アメリカ援英の戰果」

66. 影響は概して深刻となり、國家の興亡隆衰は勿論

平貞藏(1941)「南進の世界的意義」

67. 彼がスンダ海峽とマラツカ海峽の重要性について深刻な考へを持つてゐたことは注目しなくてはならないところだ

片岡貢(1941)「新嘉坡の父 ラフルズ」

68. 大改革はその影響するところ極めて廣汎且つ深刻であつて

中野登美雄(1941)「首相の權限強化」

69. 深刻な影響を世界の各方面に投げてゐるのである

金内良輔(1941)「米國參戰と南米の地位」

70. それが狭義の戰爭の理念をあまりに深刻に把握したから

五十嵐豊作(1941)「政治學の新しい課題」

71. 世界觀的變革の意義を深刻に把握することによつて

72. 技術の歴史性に對する反省を要求する深刻な事實である

三木清(1941)「學問論」

73. 對して開放的であることとは同時的關係であるところにも歴史の深刻な暗合がある

堅山利忠(1941)「日・佛印經濟協定の成立」

74. アルサス・ローレン二州の爲ばかりでなく佛にはもつと深刻な目的があつた

奥野七郎(1941)「ドイツ外交政策の検討」

75. 日本の連戦連勝が深刻なる感激を彼に與へた

嘉治隆一(1941)「良書推薦 大川周明著「亞細亞建設者」讀後感」

76. 世界情勢の變化より蒙る影響は一層深刻なるものがあつたのである

尾崎秀實(1941)「轉機を孕む國際情勢と東亞」

77. 武漢・廣東陥落は彼にとつて深刻な打撃であつた

78. 特に奥地生産者の中に深刻なる共鳴を見出すであらう

伊藤武雄(1941)「事變の現實と打開 事變と重慶抗戰體制」

79. といふ様な深刻な疑惑をさへ現地では聞くこともないではないのである

小岩井淨(1941)「事變の現實と打開 南京政府と民族主義の再建」

80. 彼此共に自ら深刻な省察を加へねばならない點である

金内良輔(1941)「興亞國民運動の世界的使命」

81. もつと深刻に時局を認識してゐる

草間良男(1941)「戰時下國民生活費の検討」



82. 米價を如何にするかの論議は深刻なものがあつた

山田文雄(1941)「協力會議を結實せしめよ 會議に現はれた經濟問題」

83. 如何にこの事件の彼等にあたへた衝撃の重大深刻なりしかを知ることができる

84. 陸軍側よりも海軍側は一層深刻な計畫を考へてゐたと云はれ

85. 全左翼陣營に深刻なる衝動をあたへたことも注目されてよい事實である

津久井龍雄(1941)「日本國家主義運動史論 3」

86. 愛の宗教を信じると、かくも深刻な心境に到達する

杉山平助(1941)「復讐論」

87. この問題に對して眞剣に考へ、深刻に苦心した事實を

88. 驚異と苦悶は、さらに深刻であつた

清水伸(1941)「國家總力戰と日本憲法」

89. 戀愛詩的である。それゆゑ深刻、沈痛などといふよりも、温情で甘美なところがある

齋藤茂吉(1941)「伊藤左千夫の歌 下」

90. 不愉快ないやらしいことを暴露して、深刻と稱するのは我が國自然主義以來の傳統である

山本夏彦(1941)「文學青年論」

91. 発聲の動機に不純なものがなければ、中に深刻なる示唆を含んだ諷刺だとしてよいのである

津久井龍雄(1941)「精神主義の諸相」

92. 一種言ひ知れぬ深刻な感銘を受けたのだった

加能作次郎(1941)「心境」

93. 発展の正しい方向を、深刻に汲みとることにより

高谷茂木(1941)「臨戰下國民生活の構造 臨戰産業労働力の構造」

94. それだけに、彼らの焦躁も深刻なのである

杉山英樹(1941)「篤農家について」

95. 胸の奥まで徹底してゐない、複雑深刻な問題が残つてゐるやうに思ふのである

96. これはすべて深刻な事情に差し迫られて出來る未來記の常套的な形態であるが

河上徹太郎(1941)「「個」の運命」

97. 世界觀乃至人生觀の問題にまで喰ひ入つて來る深刻な溝である

中島健藏(1941)「地方文化運動管見」

98. 多角經營ならびにコンツェルンの取扱い問題以上に、深刻な論議を呼んだものに

丸川賢太郎(1941)「統制會論」

99. それこそ最も深刻なる孤獨である

赤岩栄(1949)「訪れ」

100. 相手の男に深刻な關係を結んでゐる婦人が附いてゐて

谷崎潤一郎(1949)「十四」

101. 真の親心が深刻に批判されるのもまたこのシーズンであるが

(1949) 「読売新聞 2面」

102. 調整の欠如がソ連生産に深刻な影響を与え生産記録を突破している産業がある

(1949) 「読売新聞 1面」

103. 資本主義の矛盾を最も深刻に體験する階級以外にはありえない

北見弘吉(1949)「社会主義と修正資本主義」

104. 深刻な劣等感をも終息させた

アーサー・M・シュレージンガー(1949)「血迷つた潮流」

105. 家庭や事務所や學校での深刻な不快さを避けたいあまりに

ジャン・シュオーベル(1949)「チトーとスターリンの亀裂」

106. 生活もつねに深刻な不安に動搖するし

木村健康(1949)「自由主義者の孤獨」

107. 人情に挾まれた寮長の深刻な悩みがあるという

108. 深刻な苦情が投げかけられる

本誌 N 記者(1949)「引揚げては來たけれど……」

108. 早くも國民のあいだに議會政治に對する深刻な不信

恒藤恭(1949)「議會政治の反省」

109. それらはアラブ世界に深刻な衝撃を與えた

ジョルジュ・ラス(1949)「血ぬられたパレスチナ」

110. オプチミズムに立つことこそ實は深刻だといえよう。ともかく、文學の中で絶望している文學者とちがい

桑原武夫(1949)「戦後の宮本百合子」

111. われわれの不安を一層増し、苦惱をより深刻にするだろう

福武直(1949)「社會科學の進歩のために」

112. アルバイトが最も深刻に響くのは自然科學、なかんづく數學

前田陽一(1949)「文化國家の忘れ物」

113. いまや税金の門打破深刻重大な社會問題にまで發展している

木村禧八郎(1949)「シャウプ博士に望む」

114. 工場幹部側を、深刻な思索にひきこんでゆくのだろうか

松田解子(1949)「首切地帶を行く」

115. 世間一般に考えておるよりははるかに深刻な、深い根を持つたもので

(1949)「日本における二十億ドルの失敗」

116. グルーのような新鮮な深刻な驚愕と恐怖とはわれわれに缺けておりました

清水幾太郎(1949)「暗殺」

117. 人間研究を志す小説の材料としては面白い筈である。深刻悲痛な文學は、戰敗國に於てこそ現われるであやう



正宗白鳥(1949)「戦敗國の小説」

118. この問題は相當深刻に考えなくてはならぬ

平田敬一郎 等(1949)「シャウプ勧告と日本經濟の見通」

119. 留守家族を啞然たらしめ、深刻な印象を國民のすべてに與えたのであつた

加藤重三郎(1949)「ナホトカ航路」

120. 十九歳でライ発病以来、深刻な体験をもとに強烈な小説『いのちの初夜』

桑原武夫(1957)「北条民雄」

121. 老人はひたと目をとぢる。たつた一つの深刻な演技.

石川淳(1957)「白頭吟 二十六」

122. お母さんは、ぼくのことばを深刻に考えなくともいいんだ

丹羽文雄(1957)「母との対決 十」

123. 深刻な覚悟というほどの気持もなかつた

丹羽文雄(1957)「別れの挨拶 一」

124. 作品そのものをまで深刻にセンサクするのは思いすごしというものだろう

臼井吉見(1957)「特集 さまざまの「鍵」論 耽美趣味の限界」

125. 戀愛をしたり、人殺しをやつたり、深刻そうな想い入れをする

青地晨(1957)「人物再評価 1 山田五十鈴」

126. しかし、こういう素朴な血統論は、あまり深刻に考える必要はないようだ

梅棹忠夫(1957)「文明の生態史觀序説」

127. 原子爆弾のもつ深刻な意義について反省し

林克也(1957)「特集 國際連合の舞臺に立つ日本 軍縮の今日的意味と國連の課題」

128. この敗北はわが黨にとつて深刻な教訓となつた

129. とのあいだの、最も深刻な差異をなすものである

(1957) 「再びプロレタリアート獨裁の歴史的經驗について」

130. 「これから日本の日本には教育が大切だ」と真面目に、また深刻に考えこんだのを

永井道雄(1957)「この教師の現状をどうするか」

131. 米国と日本内地の農民や、漁民との間に深刻な問題が各所におきることは外務大臣のご承知の通りです

(1957) 「特集 安保条約の改廃をめぐつて 安保条約・行政協定をめぐる国会議事録」

132. 社会主義内部の矛盾を深刻に自己批判する前に

橋本正邦(1957)「特集 安保条約の改廃をめぐつて アメリカはどう出るか」

133. 古い形の深刻ぶった芸術家とはおよそ反対の明快な生活者なのだ

益田義信 (1957) 「描くことの喜び 『ピカソ—天才の秘密』」

#### 意味④ (151例)

1. それから以前には見られなかつたやうな 深刻 で廣い範圍の恐慌

大森義太郎(1933)「唯物論弁証法読本」

2. 資金を融通して來たが深刻な財界不況はその償還に支障を生じ

(1933) 「読売新聞 2面」

3. 一般人はこの低級な累似宗教に釣られて深刻な害毒をうけてゐる

(1933) 「読売新聞 4面」

4. 國の低金利の本質は頗る深刻なものであつて今後も低金利から低金利

5. 一面不況の深刻な財界に一道の明るさを齎らしたものであるから

6. あまりにも深刻な問題である

(1933) 「読売新聞 3面」

7. 一八九〇年より九五年に亘る深刻なる不況時代に

高垣寅次郎(1933)「金を中心とする貨幣的景気論」

8. 財政の××は異常に深刻だ。

ABC(1933)「非常時景氣の展望 景氣好轉、それは何處まで本當か?」

9. 獨逸の英國に對する海軍競争が愈々露骨となり、愈々深刻となり

徳富蘇峰(1933)「英國政黨政治の内幕」

10. 世界の巨象は深刻なディレンマに陥つてゐる

ABC(1933)「非常時景氣の展望 世界の景氣と日本の景氣」

11. しかし二年経つても三年経つても、この深刻な不景氣は回復する模様がなく

鶴見祐輔(1933)「テクノクラシーとは?」

12. 第十五條第四項の勸告となり、我國との對立は一層深刻となり

蠟山政道(1933)「第二次世界戰爭と國際聯盟」

13. この一般的恐慌が如何に深刻であるかを、如實に示すだけのものである

ABC(1933)「非常時景氣の展望 非常時豫算から飛出す「景氣」」

14. ところでこれらの投資先は多くは周知の通りの 深刻 な恐慌に見舞はれてゐる

15. 例えは合衆國は危機の最も深刻なドイツに五二億六千五百萬マルク

阿部勇 (1933) 「弗王國の顛落」

16. 一九二九——三三年に亘る世界恐慌の深刻極まる打撃に耐え得ずして

XYZ(1933)「非常時景氣の展望 國際經濟危局の二重奏」

17. 不景氣は益々深刻になって、作った野菜や果物は市場へ積み出すトラック代にも價ひし

山浦貫一(1933)「圓安洋行奇談」

18. 自らその恐慌の度を深刻且つ廣汎ならしめるところの愚舉を敢てしないであらうと信ずる

小汀利得(1933)「經濟封鎖の渦中に」

19. 聯盟脱退による内外各方面の影響が深刻になればなる程

野村秀雄(1933)「混迷の政局は何う動く?」

20. 此三つの事件のなかで最も複雑深刻なる事件は



今井邦子(1933)「女の言ひ分〔最近の事件にふれて〕」

21. 如何にも不景氣が深刻であつて、物價は非常に下つた

三土忠造 等 (1933) 「米國金融恐慌座談會」

22. 米國財界悪化の程度が、如何に深刻であつたかを想像せしめる

安田與四郎(1933)「日本への影響 米国恐慌の我国に及ぼす影響」

23. 意圖することがなされたが事態の深刻はこの意圖の實現を許さないからである

藤原銀次郎(1933)「日本への影響 我国産業界への影響」

24. 或は流出防止を意圖することがなされたが事態の深刻はこの意圖の實現を許さないからである

高橋正雄(1933)「世界經濟恐慌論」

25. 従つて兩者の間隙は、益々大きくなるばかりで、その鬭争はいよいよ深刻となつた

26. 化學工業と炭鐵工業との間の最も深刻な對立を一時止揚した

27. 国内無產階級との深刻な對立がその溝を深めてゆくであらう

世界經濟批判會(1933)「ドイツ金融資本の解剖」

28. 崩落が始まって以來、恐慌は次第に深刻を加へて尖鋭化しきたり

有澤廣巳(1933)「世界經濟會議の檢討」

29. 米國の不景氣が他の何れの國よりも深刻であることは、目撃者の語るところであり

馬場恒吾(1933)「石井菊次郎と深井英五」

30. 勞働者農民の運動全體の上には、この反動期の性質がますます深刻してゐるこ

山川均(1933)「共産黨兩巨頭の轉向」

31. 不斷の成長を遂げ、やがては二者の間に深刻な矛盾を成り立たしめる

恒藤恭(1933)「刑法學における進歩的精神」

32. 韻に至つては、他各國へのそれと等しく極めて深刻なるものあるべきは言を俟たない

小汀利得(1933)「國際經濟會議の我國への影響」

33. 二大政黨對立の弊害は、上述の如き簡単なるものには止まらず、種々深刻なるものが存する

久原房之助(1933)「政黨合同論」

34. 件をかくまでに重大化し、極めて深刻な影響を一般の社會上に教育上に投げ與へたことは

横田喜三郎(1933)「京大問題を眞に解決するの道」

35. 國外では、猛烈な排日貨と深刻な帝國主義鬭爭

武藏太郎(1933)「激動期の經濟相」

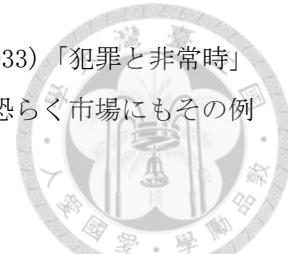
36. 今度トラストを結成するに至る迄の三社の販賣戰は、相當深刻なものであつた

野田豊(1933)「ビール合同悲喜劇」

37. 谷崎君のやうな深刻な神經衰弱はやらなかつたが

長田幹彦(1933)「京都時代の谷崎君」

38. 今日においても、この深刻なる社會的經濟的不況の暴風に因つて



木村龜二(1933)「犯罪と非常時」

39. 日英兩國の間に展開されてゐる程大規模で深刻な貿易戦といふものは恐らく市場にもその例が乏しいだらう

40. 日英兩國の対立が稀に見る廣汎深刻にかかわらず

武野信一(1933)「日本商品の世界的進出」

41. この悲劇の終焉が、より深刻な悲劇の発生でないと

林廣吉(1933)「米價は高くなるか？」

42. そこで設定された諸々の原則は——深刻で、そのメントにおいては正しかつた

43. 實の視覺的形象の豊富な、深刻な表現といふ、映畫藝術特有の力をなくさないであらう

フセウオロド・プドフキン 作 上田進 訳 (1933) 「映畫藝術に關する若干の考察」

44. 建艦競争の挑戦などの如き、對外關係がますます深刻になり

野村秀雄(1933)「廣田外相就任の顛末」

45. 恐慌時には特に深刻である。何故に我國の鐵鋼主産費が割高かといへば

有澤廣巳(1933)「製鐵合同の批判」

46. 國民は深刻な不況を克服し餓死を免れた

藤原銀次郎(1933)「日本財界の一隅より」

47. 財界の景氣不景氣の影響を受けることが深刻だ

阿部眞之助(1933)「レンペン的名士列傳」

48. かくして五相會議は深刻なるこの命題を解くべき難關に立つてゐるのであ

園田次郎(1933)「五相會議の行方」

49. 世界大戰が長延いて深刻がいやまして來るに及んで

小泉丹(1933)「進化學的戰爭論」

50. 國內的に社會問題を深刻にする可能性を持つ

前田多門(1933)「一年百萬も殖えてどうなるか」

51. 到底堪へ得ないほどに甚大深刻なるものであつた

伊藤正徳(1933)「「ロンドン會議」前後」

52. 國際經濟會議の決裂は、惱める世界に一段と深刻なる場面を展開しつつある

編輯後記 (1933)

53. イタリアはもつと深刻に人口問題を考へてゐた

(1941)「讀売新聞 7面」

54. これがために食糧不足府縣の食糧難をして一層深刻ならしめると共に、剩れる地方に

(1941)「讀賣新聞 1面」

55. わが國また幾多の深刻極まる關聯を茲に持つに至つた

東畠精一(1941)「資本主義の運命」

56. 歐洲における第二次戰爭の展開は資本主義諸國の經濟に深刻な動搖を與へ



57. 資本主義的再生産の循環行程に極めて深刻な混亂を生ぜしめるに至つた  
木村禧八郎(1941)「世界經濟より見たる日本經濟」
58. 更に溯つて昭和五、六、七年の深刻な農業恐慌當時に比較すると三倍に近い激増に當る  
河西太一郎(1941)「農村の時局的視角」
59. 一部の公卿のうちにも、新政府に對する不満は深刻であり、官位極めて低かつた岩倉などの活躍に對する嫉視もあり  
鈴木安藏(1941)「明治維新研究 13 近代國家體制誕生の苦悶」
60. 事態が深刻になればなる程、總ての全體的な思考と現實の生活とが  
徳田秋聲(1941)「喰はれた藝術」
61. 重慶側に與へた影響は極めて深刻である  
谷水眞澄(1941)「支那青年運動の性格」
62. 現に行はれてゐる戰爭を直接且つ深刻に結合せしめ  
蟬山政道(1941)「世界新秩序と米國の責任」
63. 生活は相當深刻な影響を受けることなきを保證しえない  
清水一郎(1941)「米國の對東亞共榮圈貿易」
64. やうな科學者の多くは、今日の深刻なる危機、急迫せる國際情勢關する認識に缺けたところの  
65. 深刻な危機についての認識を持ちながら  
小倉金之助(1941)「現時局下に於ける科學者の責務」
66. 政府のみを對象としての抗爭ではなくして完全に深刻なる民族戰爭の域内に突入して居る  
67. 支那に於ける糧食の窮乏は（勿論、重慶はより以上に深刻を極めて居る  
梨本祐平(1941)「事變處理對策としての經濟的諸問題」
68. それよりする勞働力の深刻な不足にあつたであらうことは  
具島兼三郎(1941)「戰時ソ聯の研究（特輯）」
69. その影響するところも相當深刻なものであることを覺悟せねばならない  
平出英夫(1941)「點滴 日本の地位」
70. 英國は前大戰とは比較にならぬ深刻な西歐作戰の失敗を補ひ  
聰濤克巳(1941)「獨英決戰とバルカン」
71. 勞働爭議の最も深刻な部面であつた  
三浦實(1941)「アメリカ戰時體制研究 戰時下のアメリカ勞働政策」
72. 多くの場合、あまりありがたくない存在である。深刻になると、奸佞邪智などといふところまで進んで来る  
小畠忠良(1941)「『政治』といふこと」
73. 官民の對立・抗爭は漸次深刻となり激化し來つて  
鈴木安藏(1941)「明治維新研究 17 立憲政治への過渡」



74. ドイツの方が優れてゐる限りその危険は深刻なものとはなり得まい

平貞藏(1941)「特輯・日本の新課題」

75. しかも内外の情勢は益々深刻となり

土屋清(1941)「低價格修正の基礎前提」

76. 實はそれより遙かに深刻なる東亞における新秩序建設といふ世界的な共通課題

堅山利忠(1941)「日・佛印經濟協定の成立」

77. 舊世界の轉換期における矛盾は極めて深刻である

尾崎秀實(1941)「轉機を孕む國際情勢と東亞」

78 日本の占領地區に對する深刻なる政治、經濟戰

伊藤武雄(1941)「事變の現實と打開 事變と重慶抗戰體制」

79. 乃至は、逆對鎖によつて、英帝國に深刻な傷手を負はせてゐる戰功の大半は、その潛水艦の威力を筆頭に

杉本健(1941)「建艦鬪爭の新標的」

80. 時の濱口内閣と海軍軍令部との間に深刻なる對立を惹起し

81. 國家は滅亡の外なく、此深刻なる行詰りは明治維新以來の支配階級が建國の本義を忘れ

津久井龍雄(1941)「日本國家主義運動史論 3」

82. 意識ながら科學によつて漸く深刻になつた封建の動搖を切りぬけようとした諸大名は

木村泰之(1941)「日本科學者傳 2 麻田剛立」

83. 財界人の混迷は、意想外に深刻なのである

三鬼陽之助(1941)「藤山・郷古・淺野と財界轉換」

84. 矛盾が裏面において深刻な發展を遂げたかを證明するものである

林田文雄(1941)「ソ聯抗戰力の研究 戰時下ソ聯外交の動向」

85. 一時はかなり深刻な紛糾をすら惹起してきたのである

86. 壓迫によつてウクライナにおいても深刻な社會的混亂を惹起し

本山顯一(1941)「ソ聯抗戰力の研究 ウクライナの政治的・經濟的意義」

87. 恐らくどんなに深刻なものか、見當もつくまい。地熱も六十度くらゐはある

杉山英樹(1941)「夕張炭礦にて 勞務手帳のことなど」

88. それは當然一方の赤字の部分をより深刻にすることであつて、全體としての無茶苦茶さは蔽ふべくもない

加賀耿二(1941)「北支の農民 3 その生計について」

89. 劣質化の程度は深刻なる限り、恣意的無責任配置が清算され

高谷茂木(1941)「臨戰下國民生活の構造 臨戰產業勞働力の構造」

90. 列強の對立は複雑であり深刻である

平貞藏(1941)「世界再編成と樞軸強化」

91. 民主兩主義陣營の對立を愈々深刻なものとする



深澤長太郎(1941)「參戰前夜の米國國內情勢」

92. 別の深刻な問題を投影してゐるのが現状であるといふこの事實は

杉山英樹(1941)「篤農家について」

93. 統一があり、深刻なる政治的抗争にさへ陥らないならば

今中次麿(1941)「強力政治の構造」

94. 防衛活動への民衆動員のうち最も深刻な形態はパルチザン運動であらう

山村房次(1941)「スターリン政権の民衆動員」

95. 蔣政権治下の經濟的紊亂ぶりが深刻になって行くにつれ

ヒュー・ディーン 作 真下眞一 訳 (1941) 「缺乏は彈壓を生む」

96. 危機状態は依然として深刻である

蟬山政道(1949)「權力への途についての論争」

97. 第一船引揚廿七名中市居住者は四名従つて全部が全部深刻な失業問題は起らないと見ている  
が

(1949) 「読売新聞 3面」

98. 雇用分野の増大は将来予想し得るどんな深刻な失業問題にも安全弁となるだらう

(1949) 「読売新聞 1面」

99. しかし、この國家資本主義論も資本主義を深刻な恐慌から立ち上がらせるまでにいたらず

100. 一見不可解に思われるところであるが、深刻な生産の危機と労働不安とに直面して

101. かえつて深刻な労働不安に対する鎮靜剤を財界はこの案の中に發見したことで

北見弘吉(1949)「社会主義と修正資本主義」

102. 大規模な援助に依つてやつと餓えをしのいでいただけに、一層深刻である

103. マルクス主義の見地からすればこの譴責は深刻である

ジャン・シュオーベル(1949)「チトーとスターリンの亀裂」

104. 政界腐敗の深刻なことを國民に思させたのである

(1949) 卷頭言 政界再編成の方向

105. 生命を滅ぼすほどに深刻な悲劇的戦いであつたのに對して

木村健康(1949)「自由主義者の孤獨」

106. 企業整理、實質賃銀の引下げと、生活難は深刻になつて

107. 生活の苦しさは深刻らしい

本誌 N 記者(1949)「引揚げては來たけれど……」

108 情勢がこのように深刻になるのには、數年間に數十萬のユダヤ人がパレスチナに移住する

ジョルジュ・ラス(1949)「血ぬられたパレスチナ」

109. 戦後三年有半、本年は最も深刻危機の年であり

南原繁(1949)「平和の擁護者」

110. かねあいについての討論などは、議長も收拾つかぬほど深刻になつたりする

徳永直(1949)「背のたかい娘」

111. 深刻な不況の折にもかかわらず、熱誠な御支援を寄せられる多數讀者

山本英吉(1949)後記

112. 「崩壊」は一九一八年よりさらに深刻であつた

フレデリック・C・バーグホーン(1949)「ヴァルガ論争とその意義」

113. 首切り法案をめぐる保守、民主兩陣營の深刻な對立鬭爭——國內階級對立の激化が

新名丈夫(1949)「侠客・國會・新聞」

114. 人が乞食となつてごみためをあさり歩くまでには深刻な事情もあろうし

淡徳三郎(1949)「敗戦の祖國を愛す」

115. 結局、深刻な危機に際して、實體とその本質とを資本關係の立場

土屋清 等 (1949) 「日本の危機」

116. たとえばイギリスの經濟危機は上にのべたように深刻なものがあるが

小椋廣勝(1949)「世界不況の展望」

117. ここで暴力とは一體何かという深刻な問題が出て来る

山川均 等 (1949) 「權力と暴力」

118. いわゆる當面の深刻な社會不安の反映として見られる大小の各事件がつぎつぎと

119. われわれが現在見ているような深刻を極めた社會不安の雰圍氣

大山郁夫(1949)「時評言 「法治國家主義」の茶番劇化」

120. 戦後資本主義の深刻な危機により日本民主化の歴史的任務を覺醒する革命階級に轉化しつ

足立梅市(1949)「黨内から社會黨を批判す」

121. 退職金をあてにできなくなつたことは、年とつたサラリーマンにとつて深刻な問題である  
(1949) 「山田さん一家の實態」

122. しかし現實の衣食住の問題はますます深刻で

ロベール・ギラン 斎藤博之 (1949) 「中共は愛されているか」

123. 屋住まひの肺病やみだから、結婚を許すはずがなかつた。もっと深刻なのは、河田の家の統（血統）が悪いといふことだつた

上林曉(1957)「過ぎゆきの歌」

124 ついでに榮子と深刻な喧嘩になつてゐるらしいといつてやれば

大岡昇平(1957)「雌花 十四」

125. 分派の弊は、この分野にも深刻であつて、この分野の人たちは

吉川幸次郎(1957)「東と西の間」

126. また世界の政治經濟に及ぼす影響も深刻であるといわねばならない

127. 新聞紙上に報ぜられていることをみても問題は深刻である。この米の問題について

東畑四郎(1957)「特集 日本經濟の前途を占う アメリカ農業が日本に持つ意味」



128 鈍つて最も深刻な問題に直面するのは雇用面である

木村禧八郎(1957)「特集 日本經濟の前途を占う 日本經濟 このまま行つたらどうなるか」

129. それ以上の大規模な深刻な冷戦へと逆転するという見方も成立つであろう

蟬山政道(1957)「變動しつつある世界と日本」

130. スエズ運河通航が中斷され、多くの國に深刻な損害を與えていることに留意し

(1957) 「ハンガリア・中近東をめぐる國際連合議事録」

131. スタアリンの指導に關係して、深刻の問題があつたが

羽仁五郎(1957)「社會主義と民族問題 ハンガリアの悲劇」

132. 人民民主主義はその内部の深刻の問題をどこまで自覺しているか

133. それはたしかに目もくらむような深刻な問題である

羽仁五郎(1957)「社會主義と民族問題 ハンガリアの悲劇」

134. しかし戦後の國民生活におけるもつとも根本的なもつとも深刻な問題點として

木村禧八郎(1957)「特集 日本經濟の前途を占う 日本經濟 このまま行つたらどうなるか」

135. 「作家委員會」の危機がいかに深刻であるかを物語るものであろう

内山敏(1957)「ハンガリアの流血と西歐左翼陣營の動向」

136. ソ連の現指導者はおそらく現在、最も深刻なディレンマにつかまれている

ジョーゼフ・オルソップ 作 内山敏 訳 (1957) 「ソ連は逆もどりしない」

137. 発資金の負擔問題が外觀以上に深刻なものであることを示すのである

伊藤善市(1957)「赤字地方財政の根柢にあるもの」

138. 深刻な不況期においては、純蓄積率はきわめて低い計數に低下するであろう

139. 戰前の深刻な不況時代にも繊維品とならんで外貨をかせいで

飯塚浩二(1957)「賃金労働者になりそこなつた資本家」

140. 「派閥解消」を表看板としたものの、深刻な派閥抗争にゆさぶられて

田島大二郎(1957)「特集 石橋内閣はこれまでの内閣とどう違うか 石橋内閣紳士録」

141. 相當に深刻な利害対立が出ると思いますね

和田博雄 等 (1957) 「石橋内閣はこれまでの内閣とどう違うか 石橋内閣紳士録」

142. 全體としての資本主義はますます深刻な危機に陥っているが

ポール・M・スウィージー 作 稲垣利一 訳 (1957) 「ソ連共産黨第二十回大會後の一年を顧みて」

143. 内部に深刻な危機をさえひそめた一年間だった

古在由重(1957)「「スターリン批判」の思想的意義」

144. 重苦しい層をなして澁んでいる深刻な事態を直視し

遠山信男(1957)「読者さん 税金と十八圓三十錢に寄せて」

145. 今日の自衛隊の危険な役割りをおもうと、問題は深刻である

佐多稻子(1957)「深刻な問題提起 『米』」



146. 世界を脅かす深刻な危険は存在しないはずである

橋本正邦(1957) 「特集 安保条約の改廃をめぐつて アメリカはどう出るか」

147. 砂川をはじめとする基地問題はどこでも深刻だが

火野葦平(1957) 「特集 安保条約の改廃をめぐつて 私はこう思う 平和条約は日本を不具廃疾者にした」

148. 米ソ、二つの世界の対立という深刻な事実がありますね

近藤日出造(1957) 「僕の診断書 松下正寿」

149. 現在の大変動は過去の大変動よりもずっと深刻である

杉山市平(1957) 「注目すべき中ソの改革運動」

150. 日本の経済に与えた損害は意外に深刻なものであつて

邱永漢(1957) 「官僚興国論」

151. つぎに深刻な問題は、当然のことだが、生産量に比例しては

星野芳郎(1957) 「特集 現代資本主義の再検討 日本におけるオートメーションの現状」

#### 意味⑤ (13例)

1. 景恵君は深刻な面持ちで更に語を繼いだ

駒井徳三(1933) 「馬占山會見記」

2. 眉毛の濃い苦味走った顔をわざと深刻さうに蹙め、道化た調子で、呟いた

藤澤恒夫(1933) 「支持者」

3. かうして出掛けてくることについての氣負つた、少し深刻がる氣持ちとがあつた

窪川いね子(1933) 「進路」

4. 伊能は深刻さうに云つて障子を閉めた

石坂洋次郎(1941) 「文學會」

5. それを何か深刻さうな表情で意味づけることは果してどんなものか

杉山英樹(1941) 「目撃者の反省」

6. 横山先生の深刻な顔がすうと頭に浮んでは消えた

木村不二男(1941) 「古譚の唄」

7. 白々しい警戒もして、深刻な顔をしながらぞろぞろ高原を歩いたのに過ぎない

芹澤光治良(1941) 「高原」

8. 非常時的な出版文化の表情を一層深刻ならしめるにいたつた

新明正道(1941) 「出版文化の非常時」

9. 天皇はラジオの前に坐し、深刻な表情をもつて、放送をお聞きになつたそうである

街の人物評論 (1949)

10. 深刻になつてくる表情に、強いてつくり笑ひを泛べながら

井上友一郎(1949) 「魔女」

11. 妹と顔を合わせる。母を深刻にさせたことは、手にあまることだ

丹羽文雄(1957)「母との対決 十一」

12. 農村から集まつた約百人の人たちが、深刻な面持で何事かを相談していた

高梨和夫(1957)「保守党をゆすぶる地主たち」

13. 「年々青年の有権者が増えますからね」と彼らは深刻な表情で語るのである

田島大二郎(1957)「人物岸内閣論」

#### 意味⑥（1例）

1. 本當の意味での深刻な批判が許容されるとは思われない

丸山邦男(1957)「ジャーナリストと戦争責任」

#### それ以外の用例（1例）

1. 第二に、獨ソ關係に極めて微妙にして深刻なる空氣が生じつつあること

尾崎秀實(1941)「轉機を孕む國際情勢と東亞」

D「ヨミダス歴史館」（300例）

#### 意味③（22例）

1. 日本に北欧の深刻な思想な雄大の文学を望むのは無理なこと

1904.12.26(月) 全国版 朝刊 1頁

2. 深刻なる各方面の研究

1915.1.8(金) 全国版 朝刊 3頁

3. 我々は率直深刻に聴きたいことがある

1922.5.24(水) 全国版 朝刊 2頁

4. 質問益深刻にして外相語塞がる

1923.2.04(日) 全国版 朝刊 2頁

5. 矢釜しくなった鹿町炭坑 貴族院決算委員会の追及漸く深刻

1923.3.10(土) 全国版 朝刊 2頁

6 深刻な芸に酔わされた観衆 昨日の本社「惡魔の鞭」観劇会

1922.6.4(日) 全国版 朝刊 5頁

7. 質問益深刻にして外相語塞がる 昨日の貴族院 ほか

1923.2.4(日) 全国版 朝刊 2頁

8. 秩父宮 社会主義を研究遊ばさる 深作博士に深刻な御質問

1924.5.6(火) 全国版 朝刊 2頁

9. 深刻なる書物愛 徹底したビブリオファイルの話

1928.11.6(火) 全国版 朝刊 10頁

10. 貴院側からの質問の重点 説明会と各派の態度 相当深刻に追究か

1929.9.11(水) 全国版 朝刊 2頁

11. [天狗になった頃の話] 3完 死線を突破した深刻な体験／辻潤（連載）

1932.7.30(土) 全国版 朝刊 4頁



12. 陸相の報告中心に深刻なる質問応答 きょうの内審総会緊張  
1935. 6. 29(土) 全国版 夕刊 1頁
13. 【第186回紙上討論・参院選挙の結果をどうみる】盛り上る深刻な国民感情  
1956. 7. 29(日) 全国版 朝刊 9頁
14. 東宝が“新サラリーマンもの” 深刻な社会劇 「背広階級」 社内の対立描く  
1958. 1. 21(火) 全国版 夕刊 4頁
15. 自民 “予想通りの勝利” 社会 深刻な自己批判  
1958. 5. 23(金) 全国版 夕刊 2頁
16. 苦悩をえぐるドラマ 人間狩り（日活） 深刻な刑事もの はりきる松尾昭典監督  
1961. 2. 20(月) 全国版 夕刊 5頁
17. 東宝でまた家族制度映画 千葉泰樹監督で「二人の息子」 深刻なホーム・ドラマ  
1961. 8. 26(土) 全国版 夕刊 8頁
18. 深刻な役がらの「ハスラー」で脱皮 パイパー・ローリー  
1962. 3. 24(土) 全国版 夕刊 6頁
19. 【ラジオ週評】作も演技も深刻すぎる NHK あと味の悪かった“悲田院”  
1962. 10. 5(金) 全国版 朝刊 5頁
20. 率直、深刻な国際認識 大平長官談話  
1961. 1. 31(火) 全国版 朝刊 2頁
21. 東宝でまた家族制度映画 千葉泰樹監督で「二人の息子」 深刻なホーム・ドラマ  
1961. 8. 26(土) 全国版 夕刊 8頁
22. 【スクリーン特集】日本の青春 戦中戦後の深刻な主題 ユーモラスに描く  
1968. 6. 7(金) 全国版 夕刊 12頁

#### 意味④ (271例)

1. 実際に働く者の方が深刻  
1916. 11. 7(火) 全国版 朝刊 4頁
2. 内務省の失業施設 失業数は減少の傾だが その性質は深刻となる  
1921. 11. 4(金) 全国版 朝刊 3頁
3. 長江筋の排日陰険 深刻で系統的  
1923. 7. 15(日) 全国版 朝刊 2頁
4. 連判状を集めて家賃値下げの歎願 だんだん深刻になる不景気  
1925. 9. 26(土) 全国版 朝刊 3頁
5. 度の多額戦は競争が深刻 互選人が増した結果行われぬ「更代私約」  
1925. 8. 20(木) 全国版 朝刊 2頁
6. 労働者仲間からもてはやされた「連隊長」 街頭に吹く深刻な不景気  
1925. 11. 12(木) 全国版 朝刊 3頁



7. 深刻となった英國罷業 一日の損失五千万円に上る▽政府が新聞用紙を撤収  
1926. 5. 10(月) 全国版 朝刊 2 頁
8. ますます深刻な英國罷業 軍隊で食糧輸送 トロッコ二百台に満載  
1926. 5. 10(月) 全国版 夕刊 5 頁
9. 農村金融はこうそく状態 不況は深刻  
1927. 3. 12(土) 全国版 朝刊 8 頁
10. 不渡手形漸増 不景気の深刻を物語るか  
1927. 3. 13(日) 全国版 朝刊 8 頁
11. 政治的の陰謀で邦綿は脅されぬ 排日深刻を裏切り綿糸閥門に突かける  
1927. 7. 2(土) 全国版 朝刊 8 頁
12. 天井知らずの原綿高と惨澹たる製品界 前回との比較が示す深刻なる不景気  
1927. 8. 23(火) 全国版 朝刊 8 頁
13. 不景気深刻が示す海運界の新傾向 定航船四苦八苦で不定期航却って活況  
1927. 8. 27(土) 全国版 朝刊 8 頁
14. 計画資本1億減る 不景気深刻の証左  
1927. 9. 8(木) 全国版 朝刊 8 頁
15. 皇女御生誕奉祝の日本国旗凌辱さる 奉天の排日ますます深刻  
1927. 9. 12(月) 全国版 朝刊 2 頁
16. 砂糖新甫の逆相場 いよいよ深刻  
1927. 10. 2(日) 全国版 朝刊 8 頁
17. 海運の不況深刻 海運2、3割方の下落で 係船続出の姿  
1927. 10. 27(木) 全国版 朝刊 8 頁
18. 深刻な世相を語る1万7000件の訴訟 いよいよ忙しい裁判所  
1927. 11. 28(月) 全国版 夕刊 6 頁
19. 新規の事業計画 全く不振 昨年より1億円激減 不景気いよいよ深刻  
1928. 4. 6(金) 全国版 朝刊 12 頁
20. 地方小銀行の窮迫 ますます深刻となる  
1928. 5. 17(木) 全国版 朝刊 8 頁
21. 明年度予算編成難 ますます深刻を予想する  
1928. 5. 30(水) 全国版 朝刊 2 頁
22. 砂糖市場の世界的混乱か 海外市場の増産圧迫いよいよ深刻  
1928. 6. 22(金) 全国版 朝刊 8 頁
23. 2億の払込超過でも緩慢はますます深刻 来月の金融界予想  
1928. 7. 29(日) 全国版 朝刊 8 頁
24. 深刻極まる排日綱領 4部に分け13条の規定／中国

1928.9.20(木) 全国版 朝刊 2頁

25. 深刻な不景気に紛績も屁こたる 採算は却って下回る

1929.3.12(火) 全国版 朝刊 12頁

26. 深刻な不況を語る 未決囚の大洪水 警察へ助け船を求む

1929.6.10(月) 全国版 朝刊 7頁

27. 二条公爵家の相続争い深刻

1929.7.13(土) 全国版 朝刊 7頁

28. セメント界の不況対策揉める 関西品の東流を半減させる魂胆 地盤競争深刻か

1929.7.13(土) 全国版 朝刊 8頁

29. 深刻な不景気の嵐に悲惨な困窮者街 いよいよ重大な社会問題

1929.7.22(月) 全国版 夕刊 5頁

30. 組合銀行の貸出減少す 深刻となる業況の不振

1929.7.24(水) 全国版 朝刊 8頁

31. 運送会社の不景気深刻！ さすがの鉄道省も整理を望んで成行にまかす

1929.12.12(木) 全国版 朝刊 8頁

32. ますます深刻な失業苦 安達内相宛の小箱から血に塗れた小指現わる

1930.3.6(木) 全国版 朝刊 7頁

33. 殖え行く労働争議遂に記録を破る 深刻な不況の反映

1930.3.8(土) 全国版 朝刊 7頁

34. 深刻な社会不安 不景気と失業問題を如何に解決すべきか

1930.3.17(月) 全国版 朝刊 2頁

35. これは不思議 高いものが売れる 実は深刻な世相

1930.4.29(火) 全国版 朝刊 9頁

36. 海運界の不況深刻で各社造船計画見合わせか 大阪商船まず見合わせに決定

1930.5.14(水) 全国版 朝刊 3頁

37. 東京からも庄川の実地検証 富山県相手の行政裁判開廷 深刻となる堰堤争い

1930.6.15(日) 全国版 朝刊 7頁

38. 米国絹靴下業の苦況深刻 操業継続難続出

1930.7.2(水) 全国版 朝刊 3頁

39 法廷に現れた不景気の深刻 裁きに転手古舞い 民事刑事も目白押し

1930.7.15(火) 全国版 朝刊 7頁

40. 金融基調の変革に銀行の受難は深刻 下期は業績一層悪化

1930.8.29(金) 全国版 朝刊 3頁

41. 世界的不景気更に深刻か この激震を最大震幅で受けんとする日本

1930.9.10(水) 全国版 朝刊 3頁





42. 耕地価格の低落に反し小作料は下落せぬ 農民の苦境益々深刻  
1930. 9. 19(金) 全国版 朝刊 3 頁
43. 英国の船株 一斉激落 海運界の悲況 いよいよ深刻  
1930. 11. 26(水) 全国版 朝刊 3 頁
44. 金解禁 1周年を顧みて 深刻な財界の矛盾 国民大衆の犠牲は甚大  
1931. 1. 11(日) 全国版 朝刊 3 頁
45. 隣邦また騒然 反蔣運動深刻  
1931. 5. 3(日) 全国版 朝刊 2 頁
46. 遅信局浣職事件 内容意外に深刻 檢事局が直接取調べ  
1931. 7. 18(土) 全国版 朝刊 7 頁
47. 本年の中国綿も平年作より半減 水害の影響ますます深刻  
1931. 9. 9(水) 全国版 朝刊 3 頁
48. 日本電力の金融難深刻 結局は興銀にもち込むか  
1931. 9. 20(日) 全国版 朝刊 3 頁
49. 總布ほとんど採算割れ 逆ザヤかその境界近くに切迫し 内外市場の不況深刻  
1931. 11. 1(日) 全国版 朝刊 3 頁
50. 印度の反英運動深刻 排貨検察で騒ぐ  
1932. 1. 13(水) 全国版 夕刊 4 頁
51. 特許の出願激減 ここにも不況深刻反映  
1932. 1. 16(土) 全国版 朝刊 3 頁
52. 排日貨運動の影響深刻 2月対中貿易入超 600 万円  
1932. 3. 15(火) 全国版 朝刊 3 頁
53. 需給実績 深刻な消費減 大正 3 年來の記録  
1932. 11. 12(土) 全国版 朝刊 3 頁
54. 三陸被害深刻 農家の復旧困難 帝国農会の調査報告  
1933. 3. 19(日) 全国版 朝刊 3 頁
55. 今回の日貨排斥は自守的且つ深刻 ゆうべ船津在華紡理事東上  
1933. 4. 5(水) 全国版 朝刊 3 頁
56. 貸付の減少著しく深刻な運用難を反映 5 大銀行昨年下半期勘定  
1934. 3. 6(火) 全国版 朝刊 3 頁
57. 高等学校は出たけれど 深刻な浪人時代を物語る 各大学の入学志願者数  
1934. 3. 9(金) 全国版 朝刊 7 頁
58. 有価証券の手持ち、貸出総計を超過 東京社員銀行 運用難ますます深刻  
1934. 6. 21(木) 全国版 朝刊 3 頁
59. 製糸資金は遂に半減 深刻な蚕糸恐慌 輸出商は続々業務縮小

1934. 7. 11(水) 全国版 朝刊 3 頁

60. 農作の被害ますます深刻 悲報相次ぐ

1934. 7. 27(金) 全国版 朝刊 3 頁

61. エチオピア問題 深刻なる形勢を憂慮 英仏共同伊国へ警告か

1935. 5. 16(木) 全国版 夕刊 1 頁

62. 深刻な不況こそ世界平和の脅威 汎米会議招請状発表を前に ハル長官宣言

1936. 2. 16(日) 全国版 夕刊 2 頁

63. 雪害意外に深刻！ 春蚕掃立激減か 桑園の荒廃近年稀有

1936. 3. 31(火) 全国版 朝刊 3 頁

63. “鋼材飢饉” の影響深刻 先物約定行詰り一転造船界苦境へ

1936. 12. 11(金) 全国版 朝刊 3 頁

64. 深刻すぎる社会 服毒青年の遺書

1937. 1. 5(火) 全国版 朝刊 7 頁

65. 公債消化難ようやく深刻 当局いよいよ生保団動員か

1937. 3. 12(金) 全国版 朝刊 2 頁

66. 中国人記者 6名銃殺 恐怖政策深刻

1937. 9. 5(日) 全国版 朝刊 1 頁

67. 土木建築業 材料入手難ますます深刻 資金調整も痛手

1937. 9. 27(月) 全国版 朝刊 3 頁

68. 原料難深刻 全産連対策協議

1938. 2. 10(木) 全国版 朝刊 3 頁

69. 大内騒動いよいよ深刻 著書爆撃の革新派 内務省が行司役

1938. 2. 27(日) 全国版 第2夕刊 2 頁

70. 労資の対立いよいよ深刻 パリ騒然罷業団示威 仏政局前途今や暗澹

1938. 4. 9(土) 全国版 第2夕刊 1 頁

71. 極東政府の幹部級 数十名逮捕銃殺さる リュ大将事件から赤色テロいよいよ深刻

1938. 7. 7(木) 全国版 第2夕刊 1 頁

72. 問題の総動員法第11条 閣内意見の対立深刻 首相、緩和策発見に苦心

1938. 11. 9(水) 全国版 朝刊 1 頁

73. 新規の御用一切お断り 帝都の木炭飢饉いよいよ深刻

1939. 2. 1(水) 全国版 第2夕刊 2 頁

74. 加工綿布大減産 輸出不振の影響深刻

1938. 2. 16(水) 全国版 朝刊 3 頁

75. 大内騒動いよいよ深刻 著書爆撃の革新派 内務省が行司役

1938. 2. 27(日) 全国版 第2夕刊 2 頁



76. 新規の御用一切お断り 帝都の木炭飢饉いよいよ深刻

1939. 2. 1(水) 全国版 第2夕刊 2頁

77. ゴム飢饉いよいよ深刻 ボール用の割当査定月 2トン半

1939. 2. 12(日) 全国版 朝刊 3頁

78. 英系公司の暴挙 家賃大幅値上 上海物価高深刻

1939. 8. 19(土) 全国版 朝刊 2頁

79. お手本を囲んで揃って辞表書き 霞が閣騒動ますます深刻

1939. 10. 6(金) 全国版 第2夕刊 2頁

80. 労力不足深刻 中小商工業者の様相 実連調査

1939. 10. 28(土) 全国版 朝刊 2頁

81. 蒋との直接交渉 毛沢東は拒絶 国共対立いよいよ深刻 1

1939. 11. 7(火) 全国版 朝刊 2頁

82. 冬期渴水いよいよ深刻 水力発電3割(前年比)低下 現供給量維持に疑問

1940. 1. 9(火) 全国版 朝刊 3頁

83. 日発の石炭難深刻 冬季渴水期に直面 国家管理さえ要望

1940. 1. 11(木) 全国版 朝刊 2頁

84. わがテン越線爆破で重慶輸送路途絶す ガソリン不足も深刻 支那側の報道

1940. 1. 19(金) 全国版 夕刊 1頁

84. 裁断の日迫り 産組・保険進出問題 農相の苦惱いよいよ深刻

1940. 2. 22(木) 全国版 朝刊 2頁

85. 国共争闘いよいよ深刻

1940. 3. 3(日) 全国版 朝刊 2頁

86. 蒋の援助要請、ソ大使拒絶 重慶の動搖ますます深刻

1940. 3. 16(土) 全国版 朝刊 1頁

87. 春季工事期に直面 日発電源計画齟齬 資材・資金難意外に深刻

1940. 4. 9(火) 全国版 朝刊 3頁

88. 渴水状態ようやく深刻 電力低下憂慮 日発の石炭消費も累増

1940. 6. 14(金) 全国版 朝刊 3頁

89. 各地に米騒動 重慶食糧難深刻

1940. 8. 28(水) 全国版 朝刊 2頁

90. 軒並み2分減配か 下期の人織界苦境深刻

1940. 10. 13(日) 全国版 朝刊 3頁

91. 挿入れ効かず落潮続く 実弾の圧迫いよいよ深刻

1940. 10. 25(金) 全国版 夕刊 4頁

92. 国共の軋轢深刻 蒋、対策に苦慮す “最悪場合”を慎重協議



1941. 1. 6(月) 全国版 朝刊 1 頁

93. 衣類 18 倍に昂騰 各所で米騒動 重慶民衆の生活苦深刻

1941. 6. 29(日) 全国版 朝刊 2 頁

94. 日米・政策の対立深刻 華府の雰囲気

1941. 11. 29(土) 全国版 朝刊 1 頁

94. 赤軍の武器欠乏深刻 冬期反攻の損害 600 万／第 2 次世界大戦

1942. 3. 25(水) 全国版 朝刊 1 頁

95. お話にならぬビルマ敵軍 昆明の物資難深刻 脱出のロシア人船員語る

1942. 4. 28(火) 全国版 朝刊 2 頁

96. 印度飢饉深刻

1942. 6. 16(火) 全国版 朝刊 1 頁

97. 蒋、食糧隠匿に怒る 軍糧の欠乏いよいよ深刻

1942. 9. 29(火) 全国版 朝刊 2 頁

98. 敵海運力の命脈検討 船舶不足は深刻 必死に建造計画促進

1942. 11. 8(日) 全国版 朝刊 2 頁

99. 米の悲劇は深刻 我ら戦い抜かん 伊当局談

1942. 12. 9(水) 全国版 夕刊 1 頁

100. 米の食糧難深刻 果物や野菜も割当制

1942. 12. 31(木) 全国版 朝刊 2 頁

101. 機関紙も政庁非難 印度新聞界の抗争深刻

1943. 1. 8(金) 全国版 夕刊 1 頁

102. 英遂にパン割当制 食糧不安いよいよ深刻

1943. 1. 14(木) 全国版 朝刊 1 頁

103. カルカッタの食糧飢饉深刻 市民から没収

1943. 1. 14(木) 全国版 朝刊 1 頁

104. 陸兵増強に非難囂々 国内の相剋暴露 米の労力不足いよいよ深刻

1943. 2. 16(火) 全国版 夕刊 1 頁

105. 既婚男子も召集 米の労働力不足深刻

1943. 3. 10(水) 全国版 夕刊 2 頁

106. 在支米空軍内訌深刻

1943. 4. 1(木) 全国版 夕刊 1 頁

107. 囚人解放まで提案 米の人的資源不足深刻

1943. 5. 2(日) 全国版 夕刊 2 頁

108. 重慶、悩みの西北開発 資材労力の不足深刻 中共、回教徒懷柔も困難

1943. 5. 18(火) 全国版 朝刊 2 頁



109. 深刻な敵のスパイ戦 ラジオで暗号連絡 女に化けるパルチザン  
1943. 6. 16(水) 全国版 朝刊 1 頁
110. ソ連の飢餓深刻  
1943. 7. 24(土) 全国版 夕刊 1 頁
111. 敗戦に喘ぐ重慶治下 民衆の飢餓深刻 怨嗟の的・募兵と徵發  
1943. 7. 25(日) 全国版 夕刊 1 頁
112. 印度の食糧不足深刻  
1943. 8. 11(水) 全国版 朝刊 2 頁
113. 米の焦燥いよいよ深刻 国民、戦争目的に疑惑 谷萩報道部長喝破  
1943. 9. 5(日) 全国版 朝刊 1 頁
114. バルカン攻勢立竦み 米英ソに深刻な相剋  
1943. 10. 12(火) 全国版 朝刊 2 頁
115. 英の石炭不足深刻 炭坑罷業にも強力干渉  
1943. 12. 7(火) 全国版 朝刊 2 頁
116. 八方ふさがりの英印政府 石炭、労力の不足も深刻  
1944. 3. 5(日) 全国版 朝刊 1 頁
117. 米労働力動員強化せん 能率低下深刻  
1944. 8. 6(日) 全国版 朝刊 2 頁
118. 見よ物量碎く魂の戦い 敵大損耗と共に補給難深刻 ペリリュー島  
1944. 10. 6(金) 全国版 朝刊 1 頁
119. 物量の敵にこの苦悩 米の肉不足深刻 さらに他物資にも拡大  
1945. 3. 21(水) 全国版 朝刊 1 頁
120. 虚々実々の桑港会議 米ソの暗闘深刻 成否懸る両国の“密約”  
1945. 4. 30(月) 全国版 朝刊 1 頁
121. 農民も土匪化す 重慶治下の食糧難深刻  
1945. 7. 25(水) 全国版 朝刊 1 頁
122. 深刻な欧州の窮乏 冬をどう越すか燃料と食糧不足  
1945. 7. 27(金) 全国版 朝刊 1 頁
123. 米の失業問題深刻  
1945. 8. 1(水) 全国版 朝刊 1 頁
124. 供米不振さらに深刻 僅か3割4分1厘  
1946. 2. 1(金) 全国版 朝刊 1 頁
125. 原料不足は依然深刻 民生産業は次第に緒につく  
1946. 2. 15(金) 全国版 朝刊 1 頁
126. 学童の弁当難深刻 麻布各校できょうから授業繰上げ



1946. 5. 10(金) 全国版 朝刊 2 頁  
127. 全通、国鉄も動く 労働攻勢いよいよ深刻
1946. 11. 11(月) 全国版 朝刊 2 頁  
128. 北海道の欠配 30 日 各地に深刻な話題
1947. 3. 10(月) 全国版 朝刊 2 頁  
129. 北海道の食糧難いよいよ深刻
1947. 7. 21(月) 全国版 朝刊 2 頁  
130. 政局の裏に躍る外務官僚 因縁の両派、深刻な対立
1948. 10. 12(火) 全国版 朝刊 1 頁  
131. 深刻な内部抗争 日農第3回大会迫る “排共” 問題で分裂必至
1949. 4. 19(火) 全国版 朝刊 1 頁  
132. 宝塚20の扉 深刻な時代色反映 2日で900通
1949. 12. 7(水) 全国版 夕刊 2 頁  
133. 不安定な地方自治 財政行詰り深刻
1949. 12. 11(日) 全国版 朝刊 1 頁  
134. 印、豪の対立深刻 中共承認繞り
1951. 1. 7(日) 全国版 夕刊 1 頁  
135. 火力発電あと20日分 電力事情いよいよ深刻
1951. 2. 20(火) 全国版 朝刊 3 頁  
136. 硫安に深刻な危機 價格調整協定も破綻か
1952. 10. 27(月) 全国版 朝刊 2 頁  
137. 普通鋼 深刻な不況に突入 カルテルの結成急ぐ
1953. 3. 3(火) 全国版 朝刊 3 頁  
138. 石炭、石油 内的苦悩は深刻 合理化強行が最大の課題
1953. 12. 3(木) 全国版 朝刊 3 頁  
139. このごろの宣伝と出版 予約金まで宣伝費に 中・小出版社に深刻な資金難
1954. 2. 7(日) 全国版 朝刊 8 頁  
140. デフレ深刻に進む 全国通産局長会議で報告 表面は予想外に平穏
1954. 8. 21(土) 全国版 朝刊 3 頁  
141. 右社の対立漸く深刻 統一めぐり積極・慎重両派
1955. 7. 26(火) 全国版 朝刊 1 頁  
142. 労働力不足が深刻 熱し過ぎた西独のブーム
1955. 11. 1(火) 全国版 朝刊 3 頁  
143. 明大の紛争ぶり返す 学内で教授殴る 評議員選考で対立深刻
1956. 1. 14(土) 全国版 夕刊 3 頁



144. [社説] 深刻な様相を持つ失業問題

1956.5.12(土) 全国版 朝刊 1頁

145. まだ続く深刻な結婚難 毎日平均100人が相談 都立結婚相談所

1956.8.5(日) 全国版 朝刊 6頁

146. 米と英仏・対立深刻 スエズ 基本的利害に衝突

1956.10.9(火) 全国版 朝刊 2頁

147. “岸首班”実現の舞台うら 深刻な主導権争い 今後に残る副総裁、幹事長問題

1957.2.25(月) 全国版 朝刊 1頁

148. 深刻な米の不況 世界的に弱い抵抗力

1958.2.17(月) 全国版 朝刊 3頁

149. 暗いアメリカ人の表情 深刻になった不況 ニコヨンも就職難

1958.2.22(土) 全国版 朝刊 4頁

150. 想像以上に深刻な米の不況 焼石に水の金融緩和

1958.3.8(土) 全国版 夕刊 2頁

151. デフレ、各地で深刻 回復見込み当分ない 全国通産局長会議

1958.3.10(月) 全国版 夕刊 1頁

152. 不況、深刻に響く 米上院の対外援助審議 域外調達制限認める

1958.6.8(日) 全国版 朝刊 2頁

153. 深刻な水ききん フロ屋の半数、休業へ 城南3区は学校給食も停止

1958.6.27(金) 全国版 朝刊 8頁

154. [社説] 深刻な水不足とその対策

1958.12.23(火) 全国版 朝刊 1頁

155. 国体スキー 練習で負傷続出 深刻な雪不足

1959.2.21(土) 全国版 朝刊 5頁

156. 深刻な地方海運界不況 運輸省地方長会議

1959.7.10(金) 全国版 朝刊 4頁

157. 石油に食われる石炭 英・西独でも不況深刻

1959.8.24(月) 全国版 朝刊 3頁

158. 深刻なポーランド食糧危機 農業の自由化がアダ 増えすぎた需要

1959.10.12(月) 全国版 朝刊 2頁

159. ヨーロッパに見る 深刻な石炭不況 大量整理を断行

1960.3.28(月) 全国版 朝刊 3頁

160. 造船白書 戦後はじめて発表 新船受注難が深刻 延べ払い条件ゆるめよ

1960.5.5(木) 全国版 朝刊 4頁

161. 全国通産局長会議ひらく 部分的に在庫ふえる 中小企業、深刻な求人難



1960.8.30(火) 全国版 夕刊 2頁

162. 全国財務局長会議ひらく 小売り物価落ち着く 若年層の求人難は深刻

1961.1.26(木) 全国版 夕刊 2頁

163. 率直、深刻な国際認識 大平長官談話

1961.1.31(火) 全国版 朝刊 2頁

164. [国際週間経済] 深刻な自動車産業不振 寒さが原因、生産目標下げる

1961.1.31(火) 全国版 夕刊 2頁

165. ケネディ・池田会談 米、意外にきびしい態度 共産化の脅威深刻

1961.6.17(土) 全国版 朝刊 1頁

166. 金詰まり深刻に 大蔵省財務局長会議で報告 高度成長変わらぬが

1961.11.7(火) 全国版 夕刊 2頁

167. 追いこまれる南ベトナム 深刻な経済危機 共産勢力浸透に拍車

1961.12.13(水) 全国版 夕刊 2頁

168. 新内閣、正式に発足 アルゼンチン 軍部との対立深刻に

1962.3.27(火) 全国版 夕刊 2頁

169. “台風”頼みの香港 34年目、深刻な水キキン

1962.5.26(土) 全国版 朝刊 10頁

170. 不況は次第に深刻 支店長会議で報告

1962.6.9(土) 全国版 朝刊 4頁

171. 深刻な技能工不足 労働省調査 全国で125万人

1962.6.18(月) 全国版 朝刊 2頁

172. 後継党首に悩む英労働党 深刻な左右の対立

1963.1.21(月) 全国版 朝刊 2頁

173. 深刻な麻薬禍 厚生省が白書 ふえる年少中毒者 大都市以外にも波及

1963.2.24(日) 全国版 朝刊 2頁

174. 道遠いアラブ統一 深刻な指導権争い ナセル氏とバース党、両極に

1963.3.4(月) 全国版 夕刊 2頁

175. [海外短波] 雪どけのモスクワ▽香港、深刻な水不足

1963.5.2(木) 全国版 朝刊 3頁

176. 目立つ大規模工場の増加 都の調査 深刻な敷き地難 “工業適地の造成急げ”

1963.5.8(水) 全国版 夕刊 5頁

177. 中年層の採用も考慮 繊維業界 深刻な女子工員不足

1963.7.14(日) 全国版 朝刊 4頁

178. 商店の主婦の悩み 「勉強会」できく 深刻な店員不足 安月給の“経営者の妻”

1963.7.25(木) 全国版 朝刊 9頁



179. 深刻な労働力不足 大農地接収は時間の問題  
1963. 8. 28(水) 全国版 夕刊 2 頁
180. 深刻な技術者の不足 構造調査会部会の報告 政府見通し上回る  
1963. 10. 2(水) 全国版 朝刊 5 頁
181. 農業最優先へ政策転換する中国 各地に深刻な食糧難  
1960. 9. 8(木) 全国版 朝刊 3 頁
182. 国連の財政難深刻 コンゴ撤兵の可能性も  
1960. 11. 28(月) 全国版 朝刊 2 頁
183. 全国財務局長会議ひらく 小売り物価落ち着く 若年層の求人難は深刻  
1961. 1. 26(木) 全国版 夕刊 2 頁
184. 中ソ論争 西方が秘密文書入手 対立、意外に深刻 毛主席ののしつたフ首相  
1961. 2. 13(月) 全国版 朝刊 2 頁
185. 不足するパート・タイマー 中元商戦で深刻に 飯田橋職安で登録呼びかけ  
1961. 6. 5(月) 全国版 朝刊 10 頁
186. [今週の問題] 経済 深刻な国際収支  
1961. 6. 25(日) 全国版 朝刊 3 頁
187. “年内審議” 折衝へ 社党、書記長争い深刻  
1961. 12. 10(日) 全国版 朝刊 3 頁
188. 追いこまれる南ベトナム 深刻な経済危機 共産勢力浸透に拍車  
1961. 12. 13(水) 全国版 夕刊 2 頁
189. 深刻な看護師の不足  
1964. 2. 10(月) 全国版 朝刊 1 頁
190. 自衛隊、深刻な募集難 欠員が3万人も 新防衛計画前に対策急ぐ  
1964. 5. 4(月) 全国版 朝刊 1 頁
191. 余震、火魔狂う新潟市内 燃える昭和石油タンク 深刻な水不足  
1964. 6. 17(水) 全国版 朝刊 1 頁
192. 深刻な水不足 放置された都政改革 1年前の答申無視 行政調査会、強い不満  
1964. 8. 2(日) 全国版 夕刊 1 頁
193. “新元首” 持ち越す 南ベトナム革命委員会議 深刻な内部対立  
1964. 8. 27(木) 全国版 朝刊 1 頁
194. 自動車業界 深刻な人手不足 増産計画もお手上げ  
1964. 10. 6(火) 全国版 朝刊 5 頁
195. 求人難、来春も深刻 中卒はムスメ1人にムコ3人  
1964. 11. 10(火) 全国版 朝刊 13 頁
196. 英、公定歩合引き上げ 深刻なポンド危機 世界的に高金利招くか



- 1964.11.24(火) 全国版 朝刊 1頁  
197. 建設業界 深刻な人不足・高賃金 政府に対策要望へ 15日に全国大会
- 1964.12.11(金) 全国版 朝刊 5頁
198. 都政この1年 深刻だった水キキン 道路は良くなつた  
1964.12.30(水) 全国版 朝刊 9頁
199. 閉め出される日本漁業 深刻な資源枯渇 各国の不漁の責任かぶる  
1965.5.22(土) 全国版 夕刊 2頁
200. 農家あとづぎ難いぜん深刻 農林省の調査  
1965.8.3(火) 全国版 朝刊 2頁
201. 背後に深刻な問題 こどもの非行目立つ 意識的な家庭放棄組も  
1965.11.10(水) 全国版 朝刊 14頁
202. 深刻な看護婦の不足 激務・薄給きらう 「聖職意識」過去のものに  
1965.11.28(日) 全国版 朝刊 7頁
203. 深刻なインドネシア経済 物価ウナギ登り 日本の援助に強い期待  
1965.11.30(火) 全国版 朝刊 5頁
204. 不況、意外に深刻 予算編成 中期計画によらぬ 衆議院予算委員会  
1965.12.23(木) 全国版 朝刊 2頁
205. インドネシア 深刻な政治抗争か 学生デモ、軍部が黙認  
1966.1.20(木) 全国版 朝刊 3頁
206. 不況、なお深刻 社党月例経済分析  
1966.3.20(日) 全国版 朝刊 2頁
207. 深刻な最近の内職 わずかな賃金も遅配  
1966.4.26(火) 全国版 朝刊 9頁
208. ベトナム戦・急増する米機損失 議会、軍部が心配 深刻な装備、乗員の不足  
1966.8.24(水) 全国版 朝刊 3頁
209. 上海の混乱広がる 実権派の妨害、深刻 北京各紙もトップ報道  
1967.1.9(月) 全国版 夕刊 1頁
210. 労働力不足深刻でも 外国から導入せぬ 首相が表明  
1967.2.25(土) 全国版 朝刊 2頁
211. 深刻な人手不足 求人の7割わる? スタートする雇用対策基本計画  
1967.3.15(水) 全国版 朝刊 7頁
212. 住宅難、ますます深刻 全国都市部の調査 政策も現状とズレ  
1967.5.22(月) 全国版 朝刊 14頁
213. 深刻な労働力不足 農村対策に本腰を  
1967.5.31(水) 全国版 朝刊 8頁

214. インド（西ベンガル州）でゼネスト 食糧危機、深刻に カルカッタ市機能停止  
1967. 8. 25(金) 全国版 夕刊 2頁
215. 今春の中卒者 あす第1次採用試験 求人難はますます深刻  
1968. 1. 9(火) 全国版 朝刊 13頁
216. 南ベトナムの戦火拡大 貿易業界に大きな痛手 配船止まり「機械」など深刻  
1968. 2. 8(木) 全国版 朝刊 5頁
217. 来月は交通渋滞深刻 警視庁 ことし初の予報出す  
1968. 2. 24(土) 全国版 朝刊 13頁
218. 金投機 米、深刻な衝撃 公定歩合上げ切迫  
1968. 3. 13(水) 全国版 夕刊 2頁
219. 技能工、労働者不足いぜん深刻 労働経済動向調査  
1968. 4. 8(月) 全国版 朝刊 2頁
220. 都の教育白書 高校でも私費軽減を 教員不足ますます深刻  
1968. 4. 27(土) 全国版 朝刊 13頁
221. 九州のひでりますます深刻  
1968. 6. 7(金) 全国版 夕刊 3頁
222. 食料不足が深刻に 小笠原 島民、都へ不信の声  
1968. 7. 5(金) 全国版 朝刊 14頁
223. チェコの自由化 ソ連、深刻なジレンマ 通じるか重大決意  
1968. 7. 12(金) 全国版 朝刊 3頁
224. 60年には水不足深刻 建設省中間報告 広域導水の必要強調  
1968. 9. 9(月) 全国版 朝刊 2頁
225. 私立高 暗い春 生徒不足ますます深刻 校庭売りマンション  
1969. 3. 29(土) 全国版 朝刊 15頁
226. 国際高金利のあおり深刻 鉄鋼業界 設備投資縮小へ  
1969. 4. 20(日) 全国版 朝刊 7頁
227. 電卓、安売り競争深刻 採算悪化 生産中止メーカーも  
1969. 5. 7(水) 全国版 朝刊 7頁
228. 深刻な造船技術者不足 激しい引き抜き 集まらぬ新卒、多い退職  
1969. 7. 22(火) 全国版 朝刊 8頁
229. 合織業界 原料糸の不足深刻 設備規制緩和も微妙  
1969. 8. 8(金) 全国版 朝刊 7頁
230. 交差点の排気ガス禍深刻 体内に鉛異常値 厚生省・都も重視 新宿・柳町  
1970. 5. 22(金) 全国版 朝刊 1頁
231. 資金不足、昨年より深刻

1970.5.27(水) 全国版 朝刊 7頁

232. この夏の空模様 深刻な全地球的汚染

1970.6.6(土) 全国版 夕刊 5頁

233. 豪雨の死者・不明 22人に 千葉の被害深刻 夷隅、小櫃川が決壊

1970.7.2(木) 全国版 朝刊 1頁

234. 初任給“6万円時代”に 5万円台もうザラ 来春 人手不足更に深刻か

1970.7.17(金) 全国版 朝刊 6頁

235. 海運白書 海上運賃値上げ必要 深刻な船舶不足の恐れ

1970.7.20(月) 全国版 夕刊 2頁

236. 深刻なインフレ 日本関税下げ輸入増を IMF報告

1970.9.8(火) 全国版 夕刊 1頁

237. 日の当たらぬ老人福祉 1人暮らしが61万人 孤独、貧困 長寿で更に深刻

1970.9.15(火) 全国版 朝刊 5頁

238. 3月に重大な危機 景気見通し、関西財界深刻

1971.1.29(金) 全国版 朝刊 7頁

239. “技能労働者ヤーイ” 深刻！184万人の不足 労働省調査

1971.2.27(土) 全国版 朝刊 6頁

240. 中小企業白書、労働力不足更に深刻

1971.3.30(火) 全国版 夕刊 2頁

241. 進学率割を突破 今春中卒、求人ますます深刻

1971.6.19(土) 全国版 朝刊 14頁 8

242. ベトナム文書事件の後遺症 米社会、深刻な亀裂 ニクソン前途真っ暗

1971.7.2(金) 全国版 朝刊 3頁

243. 水ききん沖縄 ますます深刻

1971.7.8(木) 全国版 朝刊 14頁

244. 通貨戦争と日本経済 藏相に聞く 平価、課徴金は一括で 深刻な不況はあるまい

1971.8.29(日) 全国版 朝刊 1頁

245. 冷害異変も深刻 コメどころ東北まで

1971.9.12(日) 全国版 朝刊 15頁

246. 日本孤立化、更に深刻 英中関係の急速な前進 解説

1972.2.24(木) 全国版 朝刊 2頁

247. 輸出不振さらに深刻 三和銀行が来年度予測 繊維、機械など5-15%減

1972.3.16(木) 全国版 朝刊 6頁

248. 求人難さらに深刻 今年度後半の見通し

1972.4.18(火) 全国版 朝刊 6頁



249. 深刻な佐藤派内の対立 結婚式の祝辞まで問題に

1972. 4. 23(日) 全国版 朝刊 2 頁

250. 深刻、ゴミの島 予定地 10 年後にパンク

1972. 5. 20(土) 全国版 朝刊 15 頁

251 深刻、サービス業の人手不足

労働省調査 1972. 5. 25(木) 全国版 朝刊 6 頁

252. 労働戦線統一にブレーキをかけるもの 「民間先行」で深刻な対立

1972. 10. 23(月) 全国版 夕刊 2 頁

253. 空も海も泣いている “列島総汚染” さらに深刻 野放し窒素酸化物 環境庁調査

1972. 12. 27(水) 全国版 朝刊 2 頁

254. 米の燃料不足深刻に バス、トラック、飛行機も

1973. 1. 21(日) 全国版 朝刊 9 頁

255. 重症身障児たちに光を 深刻な看護師不足 全国 700 ベッド宙に浮く

1973. 2. 8(木) 全国版 夕刊 8 頁

256. 外為市場閉鎖 深刻な産業界 1 週間が限度

1973. 3. 4(日) 全国版 朝刊 9 頁

257. インフレで春闊深刻 中小企業（輸出）で緊迫 労相、閣議報告

1973. 3. 6(火) 全国版 夕刊 2 頁

258. 米のガソリン不足深刻 値上がり必至、配給制も

1973. 3. 19(月) 全国版 朝刊 5 頁

259. PCB、ついに漁獲規制 魚貝汚染 深刻 水産庁の精密調査 高濃度の 8 水域

1973. 6. 5(火) 全国版 朝刊 1 頁

260. アメリカ 牛肉不足深刻 業者、出荷ストップ 閉店続々、食卓から消える

1973. 8. 2(木) 全国版 朝刊 22 頁

261. 毒物残留、海鳥にひどい 農薬が川、海へ 野鳥汚染も深刻 愛媛大調査

1973. 10. 1(月) 全国版 朝刊 2 頁

262. 石油危機、英も深刻 エッソが割り当て計画

1973. 11. 17(土) 全国版 夕刊 2 頁

263. 物不足、地方も深刻 化学、紙、セメントは減産

1974. 1. 30(水) 全国版 夕刊 2 頁

264. “車不況”深刻 マイカー購入激減 値上げ、増税が追い打ち

1974. 2. 1(金) 全国版 朝刊 4 頁

265. 公明も地方とのズレ深刻 名古屋の予算否決 反自民色に影

1974. 3. 23(土) 全国版 朝刊 3 頁

266. 仏大統領選あす投票 中間層、分裂する 深刻、富の不均衡



1974.5.4(土) 全国版 朝刊 5 頁

267. キスタン宗教紛争深刻 41 人死ぬ

1974.6.15(土) 全国版 朝刊 5 頁

268. インフレしわ寄せ免だ 不況も深刻に、仏のスト拡大

1974.11.7(木) 全国版 朝刊 4 頁

269. ソ連漁船の乱獲深刻 太平洋岸 来月、自肅を要求 “禁止” の根こそぎ漁法

1975.2.26(水) 全国版 夕刊 1 頁

270. トロイカ体制で社共対立 ポルトガル危機、更に深刻

1975.7.28(月) 全国版 夕刊 2 頁

271. インド バングラ “水争い” 深刻に ガンジス川の配分めぐり

1976.2.27(金) 全国版 朝刊 6 頁

#### 意味⑤（2例）

1. 審査員を嘲笑せる深刻なる諷刺の染物

1914.07.14(火) 朝刊 7 頁

2. 深刻に過ぎた事件の批判 対内務省の感情問題も手伝い 庁内の非難高まる

1928.9.14(金) 全国版 朝刊 7 頁

#### 意味⑥（5例）

1. 複雑 深刻な面持ちで 「ウマイナ」と厚相ら黄変米試食

1954.8.17(火) 全国版 夕刊 3 頁

2. 政府、深刻な表情 東京で交渉 ソ連、重大な新提案

1955.4.5(火) 全国版 夕刊 1 頁

3. 社党、妥協失敗で深刻な表情

1962.12.20(木) 全国版 朝刊 2 頁

4. 韓国側、深刻な表情 朴議長、一両日に声明か

1963.3.22(金) 全国版 朝刊 1 頁

5. 公衆浴場、ストに突入 深刻な顔の利用者たち 知事室前すわり込み 業者代表

1965.4.26(月) 全国版 夕刊 9 頁

#### E 朝日新聞クロスサーチ（300例）

##### 意味③（21例）

1. 政友会の方略 深刻に質問せん

1908年（明治41年）12月24日 東京 朝刊 5 頁

2. 文豪の最期 深刻なりし臨終の模様

1916年（大正5年）12月10日 東京 朝刊 5 頁

3. 謎と寝言問答 江木老の質問更に深刻 瓢箪鯰の首相と文相

1921年（大正10年）02月25日 東京 夕刊 1 頁



4. 寄席気分で社会講談の試演 井田氏がフロック姿で深刻な所を聞かせる  
1921年（大正10年）07月04日 東京 朝刊 3頁
5. 王道尹の義氣 反省すべき日本の吏僚 深刻なる支那側の同情  
1923年（大正12年）09月20日 大阪 夕刊 1頁
6. 政党政治の行詰りで全欧にみなぎる悩み 欧州の実相を深刻に語る  
1926年（大正15昭和1年）07月26日 東京 朝刊 2頁
7. 床次氏問題で岡崎、久原再会見 けさ新首相官邸で深刻に意見を交換  
1928年（昭和3年）12月01日 東京 夕刊 1頁
8. 政府と委員長に深刻な質問続出せん  
1929年（昭和4年）06月23日 東京 朝刊 2頁
9. 対貴族院策 政府、深刻に協議  
1931年（昭和6年）02月01日 東京 朝刊 2頁
10. 制服を脱ぐ乙女に早くも就職地獄 いたいけな胸に深刻な悩み、職業紹介所大盛！ 学窓より実社会へ  
1934年（昭和9年）03月08日 東京 朝刊 5頁
11. 奥国にまたも暴動勃発 ナチスの陰謀深刻  
1934年（昭和9年）06月12日 東京 朝刊 2頁
12. 英記者の見たソ連の内情 米英へ深刻な疑念 国力の消耗を極力警戒  
1943年（昭和18年）04月27日 東京 朝刊 2頁
13. 社説／米英国内の深刻な弱点  
1943年（昭和18年）06月22日 東京 朝刊 2頁
14. 臨時議会きょう召集 真摯深刻な論議集中  
1943年（昭和18年）10月25日 東京 朝刊 1頁
15. 中国の政治革新へ 戦う日本に深刻な印象  
1943年（昭和18年）11月20日 東京 朝刊 2頁
16. 深刻に対策研究 ソ連の西独首相招請  
1955年（昭和30年）06月11日 東京 朝刊 2頁
17. 留守家族代表、外相と会見 重光さん“深刻”な回答  
1955年（昭和30年）10月05日 東京 夕刊 3頁
18. 「対話」調も打算ずく 臨時国会 深刻な論議幕あけ  
1968年（昭和43年）12月08日 東京 朝刊 2頁
19. 米両紙の秘密文書報道 ベトナム戦の本質暴露 国民に深刻な反省迫る  
1971年（昭和46年）06月20日 東京 朝刊 7頁
20. 放言・辞任・決着 政治劇の体質を切る 深刻な責任意識なし  
1972年（昭和47年）01月26日 東京 朝刊 2頁



21. 米価引上げの農相発言 再び過剰招く恐れも 價格決定へ深刻な論議必至

1973年（昭和48年）3月14日 東京 朝刊 9頁

#### 意味④（272例）

1. 羅総長逮捕の真相 深刻な政界の暗闘

1922年（大正11年）11月22日 東京 朝刊 2頁

2. 暴徒邦船に発砲 湖南の排日益々深刻

1923年（大正12年）6月19日 東京 夕刊 1頁

3. 悲觀絶望の工業界に近頃不思議の現象 不景気だの淘汰だのと叫ぶ口の下から殖える一方の工場と職工 深刻に成りゆく労働争議

1923年（大正12年）7月4日 東京 朝刊 5頁

4. 指令が来ず 呆然たる支店長 局面は深刻を加ふ

1923年（大正12年）11月9日 東京 朝刊 2頁

5. 冬枯の海運競争 過剰船腹の消化難依然深刻

1924年（大正13年）12月19日 東京 朝刊 4頁

6. 運賃同盟は解散か 深刻な海運界の夏枯れ

1924年（大正13年）8月5日 東京 朝刊 4頁

7. コール残高最高記録 財界不況の反映 益々深刻に表はる

1925年（大正14年）4月22日 東京 朝刊 4頁

8. 上海罷業よりも 深刻な香港罷業 政府の厳重取締りで 無職支那人続々捕へらる

1925年（大正14年）7月9日 東京 朝刊 2頁

9. 深刻な長沙の排日 同胞の不安刻々加はる

1925年（大正14年）7月13日 東京 朝刊 2頁

10. 造船業の悲況深刻となる 事業救済の陳情続出

1925年（大正14年）7月22日 東京 朝刊 4頁

11. 支那新関税実施の貿易影響は深刻 商工省対策に腐心

1925年（大正14年）8月22日 東京 朝刊 4頁

12. 想像にも余る惨めさ『死』と隣合せの人々 歳末が迫りいよいよ深刻に不景気は遂に生命さへ脅す

1925年（大正14年）12月8日 東京 朝刊 7頁

13. 在貨減少に現はれた 深刻なる不景気 不良な倉庫証券を 銀行家警戒

1925年（大正14年）12月25日 東京 朝刊 4頁

14. 全英持久戦にいりて深刻の度日に加はる 一時見えた妥協気配も薄れ政府側の陣容整備と共に 不安の影漸く濃し

1926年（大正15昭和1年）5月8日 東京 夕刊 1頁

15. 米綿の大暴落から 綿業の苦悩ますます深刻



1926年（大正15昭和1年）9月26日 東京 朝刊 4頁

16. 小作法の審議 更に深刻を加ふ 小委員案に質問

1926年（大正15昭和1年）10月16日 東京 朝刊 3頁

17. 食いかけのパンに争奪戦をやる子供 不景気の深刻な歳暮が迫った 深川本所の細民街

1927年（昭和2年）11月23日 東京 朝刊 7頁

18. 東京高校生10名、アルプスで遭難か 毎日山麓へ十数件の捜査願い 山の恐怖日に深刻

1928年（昭和3年）7月23日 東京 朝刊 7頁

19. 日貨排斥深刻 被害甚大

1928年（昭和3年）8月5日 東京 朝刊 9頁

20. 広東、広西の反目、次第に深刻 各種流言行わるるも、現状はまだ戦闘で行かぬ

1928年（昭和3年）8月26日 東京 朝刊 2頁

21. 輸出商に圧迫 漢口の排日、益々深刻

1929年（昭和4年）1月8日 東京 朝刊 2頁

22. 見逃しならぬ野宿者調べ 失業問題が生み出す深刻極まる現実の証左

1929年（昭和4年）1月10日 東京 朝刊 7頁

23. 生命保険が信託会社計画 益々深刻な投資難に 新設気運漸く濃厚

1929年（昭和4年）3月24日 東京 朝刊 4頁

24. 日電と大同、東京進出具体化 東電鬼怒電には相当深刻な脅威

1929年（昭和4年）3月24日 東京 朝刊 4頁

25. 世界に暴露した支那の不信 山東地盤争奪から深刻となった蔣、馮の暗闘

1929年（昭和4年）4月22日 東京 朝刊 2頁

26. 中小商工業の金融難、益々深刻 破綻者続出の懸念に、銀行は更に貸出を厳戒

1929年（昭和4年）6月20日 東京 朝刊 4頁

27. 悲しみの群像は緩和するに決定 深刻な各方面からの投書に、市教育局も驚いて

1929年（昭和4年）6月29日 東京 夕刊 2頁

28. 近海悪化 例年より深刻

1929年（昭和4年）7月12日 東京 朝刊 4頁

29. 製鋼界の不況深刻

1929年（昭和4年）8月24日 東京 朝刊 4頁

30. 深刻な不景気に自殺者激増 10月は東京だけで160人 生活難が第一原因

1929年（昭和4年）11月5日 東京 朝刊 7頁

31. 加速度的な不況におろし売物価、又低落 編糸は為替の急回復に影響深刻 11月の日銀物  
価調べ

1929年（昭和4年）12月5日 東京 夕刊 4頁

32. 児童200名が同盟休校 深刻な埼玉の小作争議 消防も総辞職す



1929年（昭和4年）12月07日 東京 朝刊 7頁

33. お得意の貨物、何れも出回り薄 鉄道に映る深刻な不況

1930年（昭和5年）02月13日 東京 朝刊 4頁

34. 悩みは深刻 少年就職難 入学難などは「僕達から見ればぜい沢」

1930年（昭和5年）02月27日 東京 朝刊 7頁

35. カナダの東洋人排斥傾向 次第に深刻を加う

1930年（昭和5年）03月12日 東京 朝刊 2頁

36. 深刻な就職風景 きのう米原駅で仙石満鉄総裁へ学生の持かけ直談

1930年（昭和5年）03月22日 東京 夕刊 2頁

37. 租税収入激減 不景気深刻の証左

1930年（昭和5年）03月23日 東京 朝刊 2頁

38. 深刻な不景気から入学志願者の激減 中学、女学校よりも実業学校へ 教育万能の風潮衰う

1930年（昭和5年）04月14日 東京 朝刊 2頁

39. 深刻な不景気から恐しい伝染病激増 繁縦と収入減少が影響して心配なのはこの夏

1930年（昭和5年）05月09日 東京 朝刊 11頁

40. 求職は激増し求人は激減 失業地獄益々深刻

1930年（昭和5年）05月15日 東京 朝刊 2頁

41. 深刻な紡績受難 全機業地におよぶ操短又は休業決議

1930年（昭和5年）06月21日 東京 朝刊 4頁

43. 鉄道減収ますます深刻 1日平均10万円減

1930年（昭和5年）07月01日 東京 朝刊 4頁

44. 炭界不況深刻 5月中送炭高

1930年（昭和5年）07月06日 東京 朝刊 4頁

45. 久留米がすり、不安いよいよ深刻に陥る

1930年（昭和5年）07月18日 東京 朝刊 4頁

46. インドの綿業不況深刻 ボンベイ紡績続々休業

1930年（昭和5年）08月03日 東京 夕刊 4頁

47. 主因は租税収入減 深刻な不景気の実相

1930年（昭和5年）08月30日 東京 朝刊 2頁

48. 洋酒の輸入激減 深刻な不景気にめげて今年はザット半額

1930年（昭和5年）11月26日 東京 夕刊 4頁

49. 患者が激減して四苦八苦の大病院 深刻な不景気を如実に語る 施療院の全盛時代

1930年（昭和5年）12月26日 東京 夕刊 1頁

50. 東北新旧両派の争い深刻 湯玉麟邸包囲さる

1931年（昭和6年）04月14日 東京 朝刊 2頁



51. 景气回復の微光も見えず 準銀利下をよそに米国財界の悲境益々深刻

1931年（昭和6年）05月22日 東京 朝刊 4頁

52. 深刻な経営難で地方大銀行合同 最近の顕著な傾向

1931年（昭和6年）06月12日 東京 朝刊 4頁

53. 日本租界の一部は水面下実に5尺 漢口、水の脅威深刻

1931年（昭和6年）08月14日 東京 朝刊 7頁

54. 事件は相当深刻 外務当局の観測

1934年（昭和9年）07月01日 東京 朝刊 2頁

55. 深刻な凶作の影響 小学教育を縮小 山形県下の町村長会議で高等科閉鎖を決議

1934年（昭和9年）11月13日 東京 朝刊 11頁

56. 窮乏の支那農民 村から村を掠奪 深刻なる不況の原因

1935年（昭和10年）05月14日 東京 朝刊 3頁

57. 課税負担は結局、供給者に多く転嫁 人絹への打撃 一段と深刻

1935年（昭和10年）07月19日 東京 朝刊 4頁

58. 英伊深刻に対立 4国海軍会議、愈々暗澹

1936年（昭和11年）02月28日 東京 朝刊 3頁

59. 軍艦の通過権で、英露の対立深刻 海峡会議重大化す

1936年（昭和11年）06月24日 東京 夕刊 1頁

60. 戦況日増しに深刻 遂に冬迄持越しか 永びけば政府有利 複雑・スペイン動乱

1936年（昭和11年）09月16日 東京 朝刊 3頁

61. 事態は深刻 金融界の見解

1937年（昭和12年）04月24日 東京 朝刊 2頁

62. 結婚難は益々深刻 働く婦人が望む男性

1937年（昭和12年）05月08日 東京 夕刊 4頁

63. 曽ての期待今は仇 物価高の脅威深刻 各国急遽対策に大童

1937年（昭和12年）05月18日 東京 朝刊 4頁

63. 貿易尻悪化深刻 上期入超6億か 出超転換予想つかず

1937年（昭和12年）05月21日 東京 朝刊 4頁

64 内部の軋轢深刻 十字路に立つ蒋介石

1937年（昭和12年）11月24日 東京 朝刊 2頁

65. 蒋の死守令も空し 徐州の敵軍浮足 内訌深刻・逃亡兵続出

1938年（昭和13年）01月20日 東京 朝刊 2頁

66. 支那軍のデマ、馬脚を現す 広西、中央の抗争深刻

1938年（昭和13年）04月23日 東京 夕刊 1頁

67. 春雨冷し・公使館 1000年の深刻な民族争闘……と声呑む在京チェコ人



1939年（昭和14年）03月16日 東京 朝刊 11頁

68. 天津なお刻々増水 目下の最高水深1丈3尺／英租界の食糧難深刻 制限令公布か

1939年（昭和14年）08月24日 東京 夕刊 2頁

69. 羅への脅威深刻 独の強圧に対抗難し

1939年（昭和14年）09月23日 東京 朝刊 2頁

70. 大戦と海外／英のゴム不足深刻

1942年（昭和17年）01月05日 東京 朝刊 2頁

71. 濟（オーストラリア）、全く孤立無援 海鷺のポート・ダーウィン猛襲に、米、英、蘭、濟の離反深刻

1942年（昭和17年）02月22日 東京 夕刊 1頁

72. 印度の食糧難深刻

1942年（昭和17年）03月16日 東京 朝刊 2頁

73. 米の悪性インフレ 伊紙、深刻な脅威を暴露

1942年（昭和17年）05月24日 東京 朝刊 2頁

74. 敵米、深刻な肉飢饉に直面

1945年（昭和20年）03月21日 東京 朝刊 1頁

75. 英の食糧事情、愈々深刻

1945年（昭和20年）06月25日 東京 朝刊 1頁

76. 深刻な東京の住生活—衣・食・住

1949年（昭和24年）02月20日 東京 朝刊 2頁

77. “実験患者”にも応募 深刻な学生アルバイト—学校・学生

1951年（昭和26年）03月29日 東京 朝刊 3頁

78. 電力不足なお深刻—電力危機

1951年（昭和26年）10月05日 東京 夕刊 2頁

79. 日本復帰熱盛ん 沖縄の土地問題深刻

1953年（昭和28年）05月01日 東京 朝刊 2頁

80. 「としよりの日」深刻になる老人問題

1953年（昭和28年）09月15日 東京 朝刊 3頁

81. 師走の東海道 犯罪は巧妙に 悲劇は深刻に

1953年（昭和28年）12月10日 東京 夕刊 5頁

82. 炭鉱不況さらに深刻 労働省の現地報告

1954年（昭和29年）06月15日 東京 朝刊 4頁

83. 深刻な被害、続々判明—台風十二号

1954年（昭和29年）09月16日 東京 朝刊 7頁

84. 失業問題さらに深刻に 日雇いの吸収減る



1956年（昭和31年）01月19日 東京 夕刊 1頁

84. 国会の対立は深刻に 小選挙区めぐって鳩山・鈴木会談も決裂？

1956年（昭和31年）03月19日 東京 朝刊 1頁

85. 大学生の就職難 来年はもっと深刻？

1956年（昭和31年）07月26日 東京 朝刊 7頁

86. 深刻な北海道の凶作 早くも欠食児童

1956年（昭和31年）10月08日 東京 朝刊 7頁

87. 怒る通勤者、農民、深刻な新潟の国鉄闘争

1957年（昭和32年）07月18日 東京 朝刊 9頁

88. 来年度の労働事情 労働省の見通し 深刻な失業増加

1957年（昭和32年）12月28日 東京 朝刊 1頁

89. “中共の日貨排斥深刻” 技術協力視察団東南アから帰る

1958年（昭和33年）07月11日 東京 朝刊 1頁

90. 依然、深刻な失業 最近の雇用と失業の状況

1958年（昭和33年）11月30日 東京 朝刊 2頁

91. 批判や切りくずし 対立はいよいよ深刻

1960年（昭和35年）03月18日 東京 朝刊 11頁

92. 米、軍事援助を停止 ラオス 深刻な経済危機に

1960年（昭和35年）10月08日 東京 夕刊 1頁

93. 中卒は奪いあい 求人戦線ますます深刻

1961年（昭和36年）09月13日 東京 朝刊 10頁

94. 「入試の延期」も検討 ワクチン不足深刻

1962年（昭和37年）02月16日 東京 朝刊 11頁

94. 水キキン、さらに深刻 貯水量 七千万トンを割る

1963年（昭和38年）01月25日 東京 夕刊 7頁

95. 深刻な黒人差別紛争 全米への拡大を心配

1963年（昭和38年）05月14日 東京 朝刊 3頁

96. 学校プール あすで給水打切り 都の水不足再び深刻

1963年（昭和38年）08月19日 東京 夕刊 7頁

97. 深刻な“消防渴水” 対策協が要請 急げ貯水そう増設

1963年（昭和38年）12月07日 東京 朝刊 16頁

98. 深刻な建設資材の値上り 強いられる出血工事 鋼材入手さえできぬ業者

1967年（昭和42年）01月20日 東京 朝刊 7頁

99. 人手不足さらに深刻 中小企業 ひどい製造加工関係

1967年（昭和42年）04月07日 東京 朝刊 7頁



100. ニューヨークも深刻 プエルトリコ人暴動  
1967年（昭和42年）07月25日 東京 夕刊 2頁
101. 中・高卒 求人難いよいよ深刻  
1967年（昭和42年）12月20日 東京 朝刊 16頁
102. ズブの素人も大歓迎 深刻なパイロット不足  
1968年（昭和43年）01月23日 東京 夕刊 8頁
103. 景気調整下なのに 求人は活発 深刻な人不足反映  
1968年（昭和43年）02月11日 東京 朝刊 7頁
104. 金歯も入れられない 国内の金不足、深刻に  
1968年（昭和43年）03月15日 東京 夕刊 11頁
105. 先生不足が深刻に 都教育白書 児童は激増傾向  
1968年（昭和43年）04月27日 東京 朝刊 14頁
106. 政府、食糧確保へ 仏のスト 生活への影響は深刻  
1968年（昭和43年）05月24日 東京 朝刊 3頁
107. 高校スキー 雪不足深刻 会場を変更  
1969年（昭和44年）01月31日 東京 朝刊 13頁
108. あの世も深刻な住宅難 競争率は十倍  
1969年（昭和44年）02月16日 東京 朝刊 16頁
109. “畑”か“公道”か 東京湾波高し 対立深刻  
1969年（昭和44年）03月14日 東京 夕刊 11頁
110. 防衛庁の用地難深刻 四次防へ対策急ぐ  
1969年（昭和44年）05月26日 東京 朝刊 2頁
111. 再建へ苦悩の道 ナイジェリア 油田など被害深刻  
1970年（昭和45年）01月16日 東京 夕刊 2頁
112. 都と医師会の対立深刻 老人医療費 医療ストに都議会反発  
1970年（昭和45年）03月03日 東京 朝刊 16頁
113. 日米経済関係に深刻な危機  
1970年（昭和45年）06月25日 東京 夕刊 2頁
114. 労働白書を閣議報告 人手不足さらに深刻  
1970年（昭和45年）07月03日 東京 夕刊 1頁
115. ふくらむエネルギー需要 15年後には5倍 43年度は 大気汚染は深刻  
1970年（昭和45年）07月25日 東京 朝刊 9頁
116. アラブ・ゲリラ、内部抗争は深刻  
1970年（昭和45年）08月08日 東京 朝刊 7頁
117. 小名浜港 シアン被害深刻に 生きエサ バタバタ死ぬ



1970年（昭和45年）08月24日 東京 朝刊 3頁

118. やっぱり深刻 復帰後の沖縄 政府が経済調査 米、牛肉6.2%値上り

1970年（昭和45年）08月26日 東京 朝刊 2頁

119. 深刻な“家電不況” 重電四社の決算 東芝は30%減益

1970年（昭和45年）10月30日 東京 朝刊 8頁

120. 米、深刻な医師不足 医大ほとんどが赤字 医療水準、先進国とはいえぬ

1970年（昭和45年）11月12日 東京 朝刊 6頁

121. 初の“ホテル白書” 運輸省発表 中級の拡充が急務 客室不足ますます深刻

1970年（昭和45年）12月03日 東京 朝刊 8頁

123. 深刻なハシゴ車不足\_水戸のビル火災

1970年（昭和45年）12月27日 東京 朝刊 3頁

124. 深刻になった学生の部屋さがし 物価高で食事付急減 アパートに人気集る

1971年（昭和46年）03月02日 東京 朝刊 13頁

125. 米国に解雇旋風 新聞・雑誌 深刻な経営難

1971年（昭和46年）03月13日 東京 夕刊 2頁

126. 「公定歩合」踏切り望む 経団連、深刻な不況確認

1971年（昭和46年）04月06日 東京 朝刊 9頁

127. 企業代表も立候補 埼・高石市議選 公告深刻、住民は警戒

1971年（昭和46年）04月19日 東京 朝刊 7頁

128. 学問・思想の自由守る 学術会議が表明 現状、深刻な危機

1971年（昭和46年）04月24日 東京 朝刊 1頁

129. 深刻な母乳汚染 BHC、基準の五倍も

1971年（昭和46年）05月15日 東京 夕刊 11頁

130 南関東の沈下深刻 一都三県の調査会報告

1971年（昭和46年）06月09日 東京 朝刊 1頁

131. 不況感は深刻 中小企業動向調査

1971年（昭和46年）07月27日 東京 朝刊 9頁

132. 尾瀬の車道 深刻な対立

1971年（昭和46年）08月07日 東京 朝刊 23頁

133. 小笠原カラカラ諸島 深刻な水不足 給水制限二週間

1971年（昭和46年）08月29日 東京 朝刊 18頁

134. ノロノロ小笠原復興事業 島民ふえ水不足深刻

1971年（昭和46年）09月05日 東京 朝刊 24頁

135. 米材不足、深刻に 関係業者お手上げ寸前

1971年（昭和46年）09月18日 東京 朝刊 8頁



136. 印パ危機は深刻 ガンジー首相 米国で強調

1971年（昭和46年）11月08日 東京 夕刊 2頁

137.（対談）ゴミ戦争 西も東も悩みは深刻

1971年（昭和46年）11月08日 東京 夕刊 8頁

138. 不況に救われた危機 電力白書 電源立地難は深刻

1971年（昭和46年）12月20日 東京 夕刊 2頁

139. 情勢きわめて深刻 米国務省認む

1972年（昭和47年）01月12日 東京 朝刊 7頁

140. 中部が深刻な情勢に 米司令官報告か 1972年

1972年（昭和47年）05月05日 東京 朝刊 7頁

141. 有限の地球 不足の食糧と資源 人口急増で深刻な事態に

1972年（昭和47年）05月23日 東京 朝刊 4頁

142. 景気回復に水さす衝撃 深刻に局面を注視

1972年（昭和47年）06月24日 東京 朝刊 9頁

143. 利根川深刻 雨は降ったが

1972年（昭和47年）06月28日 東京 夕刊 8頁

145. 土砂くずれ 危険、全国に待伏せ 無秩序な開発で深刻に

1972年（昭和47年）07月06日 東京 朝刊 22頁

146. 断水・減水が倍増 東京の水ききん深刻に

1972年（昭和47年）07月08日 東京 朝刊 22頁

147. 塩ビも設備廃棄へ 20%目標 化学不況なお深刻

1972年（昭和47年）07月21日 東京 朝刊 8頁

148. 医者不足…深刻なタイ “頭脳流出” が原因

1972年（昭和47年）07月28日 東京 朝刊 6頁

149. 食糧暴動防ぐため軍隊派遣 水害の比国、飢え深刻

1972年（昭和47年）08月05日 東京 朝刊 3頁

150. 日照権争いに一石 用途地域制に警告 専門家グループ 高層化進み深刻

1972年（昭和47年）08月12日 東京 夕刊 8頁

151. 与党、選挙に自信 ラーマン首相の帰国 深刻な米不足どう解決

1972年（昭和47年）09月26日 東京 朝刊 6頁

152. これじや勉強できない 深刻な在日ベトナム留学生

1972年（昭和47年）09月28日 東京 夕刊 11頁

153. 各国、深刻な汚染報告 國際海洋開発会議開く

1972年（昭和47年）10月06日 東京 朝刊 3頁

154. 近づくベトナム和平 韓国、深刻なジレンマ



1972年（昭和47年）11月06日 東京 朝刊 7頁

156. 高金利政策へ踏出したが 欧州、インフレ深刻

1972年（昭和47年）12月09日 東京 朝刊 9頁

157. 10年後もお先真暗 厚生省調査 深刻な医師の不足

1972年（昭和47年）12月21日 東京 朝刊 3頁

158. 中小企業今年はまず好景気だが…人不足また深刻に

1973年（昭和48年）01月09日 東京 朝刊 8頁

159. 暖冬異変で野菜が暴落、喜ぶ消費者 農家は深刻

1973年（昭和48年）01月27日 東京 朝刊 3頁

160. 深刻な石油危機

1973年（昭和48年）02月07日 東京 夕刊 1頁

161. 東映の内部抗争深刻に 俊藤氏独立の事態も

1973年（昭和48年）02月23日 東京 夕刊 9頁

162. 沖縄の海洋博インフレ深刻 計画縮小を検討

1973年（昭和48年）03月04日 東京 朝刊 2頁

163. 政治危機さらに深刻 投票を二日延期

1973年（昭和48年）03月15日 東京 朝刊 7頁

164. パリ－繁栄と不安 深刻な外国人労働者問題

1973年（昭和48年）03月19日 東京 夕刊 7頁

165. 依然、深刻な対立 「南」の二者

1973年（昭和48年）03月31日 東京 朝刊 7頁

166. 韓国情報部幹部も関係 首都警備司令官の解任 側近内部の争い深刻

1973年（昭和48年）04月22日 東京 朝刊 7頁

167. たよりない養護施設 幼児の入所急増で深刻

1973年（昭和48年）05月05日 東京 朝刊 21頁

168. 深刻です 豚の胃病 65%異常 ストレスたまる超過密の飼育

1973年（昭和48年）05月07日 東京 朝刊 3頁

169. 米国内の埋蔵資源危機は深刻

1973年（昭和48年）05月09日 東京 夕刊 2頁

170. 西アフリカ 餓死迫る千万人 干ばつ、ますます深刻

1973年（昭和48年）05月19日 東京 朝刊 3頁

171. 塩ビ不足、深刻 操短迫られる中小加工業者

1973年（昭和48年）05月27日 東京 朝刊 9頁

172. 小児ぜんそく急増 深刻な排気ガスの影響

1973年（昭和48年）05月29日 東京 朝刊 21頁



173. 深刻です廃車公害 道バタに置去り

1973年（昭和48年）06月10日 東京 朝刊 21頁

174. 深刻な立地難改めて浮彫り

1973年（昭和48年）06月15日 東京 朝刊 8頁

175. 穀物不足が深刻に フィリピン 大統領への訴え続

1973年（昭和48年）07月06日 東京 夕刊 2頁

176.（下）農民の予感 深刻な将来の米不足

1973年（昭和48年）07月07日 東京 朝刊 9頁

177. 軍隊も出動 深刻な米不足

1973年（昭和48年）07月13日 東京 朝刊 7頁

178. 来月も日照り多く 水不足は深刻に

1973年（昭和48年）07月21日 東京 朝刊 22頁

179. ビニール騒動 電線・水道管 深刻な品不足

1973年（昭和48年）08月08日 東京 朝刊 23頁

180. 水不足は深刻 けんかで死者

1973年（昭和48年）08月09日 東京 朝刊 23頁

181. 牛泥棒ひんぴん 深刻な米の牛肉不足

1973年（昭和48年）08月15日 東京 朝刊 7頁

182. 東京、ついに給水制限 利根川系の渴水深刻

1973年（昭和48年）08月18日 東京 朝刊 1頁

183. 首相ら追い出し図る 評議会 首脳部の対立深刻

1973年（昭和48年）08月22日 東京 朝刊 7頁

184. 漢方薬 異常なブーム 原料不足深刻に

1973年（昭和48年）08月26日 東京 朝刊 9頁

185. 紙不足深刻 やがて新聞・書籍にも支障？

1973年（昭和48年）08月30日 東京 朝刊 22頁

186. 経済に痛烈パンチ パキスタンの大洪水 インフレに拍車 食糧不足も深刻に

1973年（昭和48年）09月02日 東京 朝刊 7頁

187. 世界中で深刻 新聞用紙不足 減ページ・休刊も

1973年（昭和48年）09月28日 東京 朝刊 7頁

188. 日本との関係 深刻な原料不足

1973年（昭和48年）10月11日 東京 朝刊 8頁

189. 18000台はみ出す 自動車の部品不足深刻

1973年（昭和48年）10月27日 東京 夕刊 3頁

190. 石油戦略 西欧、脅威は深刻に



1973年（昭和48年）11月08日 東京 夕刊 2頁

191. 40年不況より深刻 成長率大幅に鈍化

1973年（昭和48年）11月13日 東京 朝刊 1頁

192. 安値続ける欧米の株式市場 深刻な石油危機

1973年（昭和48年）11月28日 東京 朝刊 8頁

193. 郵便滞貨さらに深刻

1973年（昭和48年）12月02日 東京 朝刊 1頁

194. 石油危機 農業も打撃深刻

1973年（昭和48年）12月14日 東京 朝刊 7頁

195. 女性アル中深刻

1974年（昭和49年）01月09日 東京 朝刊 9頁

196. 飼料高の製品安 深刻な蓄産業 農家、次々と見切る

1974年（昭和49年）01月31日 東京 朝刊 6頁

197. 世界の肥料不足深刻に

1974年（昭和49年）04月11日 東京 朝刊 8頁

198. 古い体質から脱皮図る 家具業界、「システム産業」へ動き 深刻な不況が拍車

1974年（昭和49年）06月18日 東京 朝刊 6頁

199. 光化学禍 野菜被害も深刻 一都三県のほぼ全域

1974年（昭和49年）06月25日 東京 朝刊 19頁

200. 深刻です 長雨後遺症 野菜腐り 果物も病害

1974年（昭和49年）07月21日 東京 朝刊 22頁

201. エジプト 深刻なモノ不足 試練迎えるサダト路線

1974年（昭和49年）10月07日 東京 朝刊 6頁

202. 広がる不況の影 業界に見る 深刻な紡績・建設

1974年（昭和49年）10月11日 東京 朝刊 11頁

203. “残業ゼロ” 悩みは深刻 京浜工業地帯の労働者

1974年（昭和49年）11月01日 東京 朝刊 22頁

204. 10年後に深刻な事態も 緊急に政策修正を

1974年（昭和49年）11月06日 東京 朝刊 9頁

205. 深刻なアメリカの不況

1974年（昭和49年）11月12日 東京 夕刊 5頁

206. 深刻な老人・医療問題 最近のブラジル日系社会

1974年（昭和49年）11月25日 東京 朝刊 17頁

207. 深刻な米国の経済情勢 失業率高騰に衝撃

1974年（昭和49年）12月08日 東京 朝刊 9頁



208. 強権政治への本格挑戦 学生との対立深刻

1974年（昭和49年）12月10日 東京朝刊 7頁

209. ゼロックスが工場閉鎖 米の不況ますます深刻

1974年（昭和49年）12月12日 東京朝刊 9頁

210. 人員整理、電機業界で深刻 アルプス電気三社も

1974年（昭和49年）12月21日 東京朝刊 8頁

211. 解放側の砲撃続く プノンペンの空港周辺 深刻な軍事情勢

1975年（昭和50年）01月09日 東京朝刊 7頁

212. 大気汚染なお深刻 四地点だけ合格 窒素酸化物

1975年（昭和50年）01月14日 東京朝刊 3頁

213. 中東情勢深刻 ワルトハイム国連事務総長が警告

1975年（昭和50年）01月16日 東京朝刊 7頁

214. 海底への影響深刻\_水島重油流出事故

1975年（昭和50年）01月19日 東京朝刊 6頁

215. 不動産不況さらに深刻 土地・住宅 在庫三万件超す

1975年（昭和50年）01月28日 東京朝刊 21頁

216. 財政硬直、一段と深刻 都道府県の予算

1975年（昭和50年）02月24日 東京朝刊 2頁

217. 歯科の荒廃 国会で追及 社党調査団が方針「厚生省調査以上に深刻」

1975年（昭和50年）02月27日 東京朝刊 23頁

218. カニ船団、深刻な出航 新漁場は“イバラの道”

1975年（昭和50年）04月23日 東京朝刊 22頁

219.瀬戸内海の漁場深刻 重油汚染で調査団報告

1975年（昭和50年）05月17日 東京朝刊 22頁

220. 英のインフレ深刻に 物価上昇 今年は30%超しそう

1975年（昭和50年）05月18日 東京朝刊 9頁

221. 深刻な造船・重機業界 三菱重工の一時帰休策

1975年（昭和50年）06月05日 東京朝刊 8頁

222. 不況感は予想より深刻

1975年（昭和50年）06月07日 東京朝刊 9頁

223. モチ米の過剰深刻 不況で需要追いつかず

1975年（昭和50年）07月21日 東京夕刊 6頁

224. 牛・豚・鶏みな高価 品薄深刻な東京の胃袋

1975年（昭和50年）07月30日 東京夕刊 7頁

225. 猛暑に水不足深刻 “元凶”はノロノロ行政



1975年（昭和50年）08月16日 東京 朝刊 3頁

226. 騒音減って医師帰らず 無医地区の昭島市堀向 深刻な基地公害後遺症

1975年（昭和50年）09月04日 東京 朝刊 21頁

227. 深刻な不況どう乗り切る 臨時国会の財政策策を聞く

1975年（昭和50年）09月09日 東京 朝刊 1頁

228. 中国河北省で深刻な干ばつ

1975年（昭和50年）09月15日 東京 朝刊 4頁

229. 肥満の悩み深刻 都会のペット犬 1975年

1975年（昭和50年）09月15日 東京 朝刊 7頁

230. 「日本車進出深刻な問題」 英貿易相が記者会見

1975年（昭和50年）09月19日 東京 朝刊 8頁

231. 木枯し吹くボーナス戦線 雇用不安の影、深刻

1975年（昭和50年）10月15日 東京 朝刊 3頁

232. かき入れ時も売れ行き不振 深刻な砂糖不況

1975年（昭和50年）12月05日 東京 朝刊 8頁

233. 深刻な雇用情勢配慮を 労相が要望

1975年（昭和50年）12月16日 東京 朝刊 7頁

234. ご飯給食 広がる戸惑い おカマはどうする パン・製粉業者は深刻

1975年（昭和50年）12月20日 東京 朝刊 13頁

235. 深刻な穀物不足の対策に ソ連で大量畜殺

1976年（昭和51年）01月15日 東京 朝刊 9頁

236. この現実 ソ連漁船ゴミ公害 漁業に深刻な被害

1976年（昭和51年）01月29日 東京 朝刊 3頁

237. どうする深刻な水不足 一都三県に聞く

1976年（昭和51年）02月12日 東京 朝刊 21頁

238. 食糧情勢、再び深刻に？ 米の冬小麦不作で懸念

1976年（昭和51年）02月22日 東京 朝刊 9頁

239. ソ連、深刻な外貨危機 西側との貿易、大幅赤字

1976年（昭和51年）05月09日 東京 朝刊 9頁

240. 穀物需給に「黄信号」 異常気象と需要拡大で 国内物価にも影響？ とくに大豆が深刻

1976年（昭和51年）07月13日 東京 朝刊 9頁

241. 干ばつに悩むタイ 深刻な米不足

1976年（昭和51年）07月19日 東京 朝刊 6頁

242. 天津の滞船深刻 地震警戒 日中商談、憂慮強まる

1976年（昭和51年）08月05日 東京 朝刊 9頁



243. 質量ともに深刻になる水資源

1976年（昭和51年）08月13日 東京 朝刊 4頁

244. 深刻な欧州の干ばつ ムダ水使用は罰金

1976年（昭和51年）08月23日 東京 朝刊 6頁

245. 深刻な東北地方の冷害 機械田植えも反省期

1976年（昭和51年）09月09日 東京 朝刊 4頁

246. 深刻、水稻タネ不足 冷害の東北、確保に懸命

1976年（昭和51年）09月20日 東京 夕刊 10頁

247. 四十年ぶりの北日本冷害 日増しに深刻 自家米すら不足

1976年（昭和51年）10月03日 東京 朝刊 23頁

248. 冷害はもっと深刻 51年産米 農林省予想に農民反発

1976年（昭和51年）11月02日 東京 夕刊 9頁

249. 男は軍隊にとられ深刻な労働者不足

1976年（昭和51年）11月09日 東京 朝刊 14頁

250. 深刻な業界 “ダンピング” 過熱

1976年（昭和51年）12月10日 東京 朝刊 16頁

251. ガス事故 通産省統計の4倍も 深刻な実態

1976年（昭和51年）03月10日 東京 朝刊 21頁

252. 歌舞伎の裏方 義太夫など深刻な後継者難

1976年（昭和51年）04月05日 東京 朝刊 4頁

253. 深刻な北朝鮮の支払い遅延

1976年（昭和51年）04月26日 東京 朝刊 5頁

254. 野鳥のPCB汚染は深刻 新潟県技師学会で発表

1976年（昭和51年）05月24日 東京 朝刊 3頁

255. 奇形児生まれる恐れ ミラノ 深刻な有毒ガス禍

1976年（昭和51年）08月11日 東京 夕刊 6頁

256. 砂糖配給制を実施 干ばつで食糧事情悪化 ポーランド情勢深刻に

1976年（昭和51年）08月16日 東京 夕刊 2頁

257. 低温傾向さらに深刻 北日本 八月梅雨に追い打ち

1976年（昭和51年）09月01日 東京 朝刊 23頁

258. 電気料値上げ、自治体深刻 交通・水道・病院に打撃

1976年（昭和51年）09月03日 東京 朝刊 21頁

259. こじれる体協の会長人事 背景に深刻な財政難

1975年（昭和50年）03月09日 東京 朝刊 4頁

260. 雇用、極めて深刻 土光氏強調



1976年（昭和51年）02月12日 東京 夕刊 1頁

261. ローデシア政権 苦境 モザンビークとの戦闘状態 黒人将校初めて登用 ガソリンの不足は深刻

1976年（昭和51年）03月07日 東京 朝刊 7頁

262. 50年度決算見込み 財政難は深刻 全国市長会が調査

1976年（昭和51年）04月12日 東京 朝刊 3頁

263. 旅客船客足に影響深刻 本四架橋で公団が予測

1976年（昭和51年）05月25日 東京 夕刊 2頁

264. 二年連続の赤字 公営バス経営深刻

1976年（昭和51年）07月24日 東京 朝刊 22頁

265. 造船大手 人減らし大作戦 三菱重工は一万人 受注減で深刻 配転などで穩やかに

1976年（昭和51年）09月29日 東京 朝刊 8頁

266. 欧州共産党会議の準備 中国孤立化図るソ連 深刻な自主派との対立

1976年（昭和51年）06月20日 東京 朝刊 4頁

267. 国鉄財政 深刻な九月危機 値上げ遅れ 事実上の倒産に 人件費減額も検討

1976年（昭和51年）08月19日 東京 夕刊 2頁

268. 今月から深刻に 国鉄・電電値上げ遅れ 関連業者への影響 通産省調査

1976年（昭和51年）10月01日 東京 朝刊 8頁

269. 楽観許さぬ深刻な対立

1976年（昭和51年）10月29日 東京 朝刊 7頁

270. 問われる経済外交 深刻な先進国の状況

1976年（昭和51年）11月26日 東京 朝刊 4頁

271. 結論持ち越した南北対話 景気からみ対立深刻

1976年（昭和51年）12月15日 東京 朝刊 4頁

272. 「栽培漁業に力点を」漁民救済が深刻な問題

1976年（昭和51年）12月28日 東京 朝刊 8頁

#### 意味⑤（1例）

1. 実態はもっと深刻 被爆者調査に関係者から批判

1967年（昭和42年）11月02日 東京 朝刊 14頁

#### 意味⑥（6例）

1. 文芸時評（4）／深刻なる表情 大衆は明快率直を喜ぶ

1936年（昭和11年）12月28日 東京 朝刊 7頁

2. 英大使・身勝手の弁明 日米は“友情”杜絶 霞ヶ関・深刻の表情

1940年（昭和15年）01月26日 東京 朝刊 9頁

3. 背水の陣・深刻の顔



1940年（昭和15年）3月12日 東京 夕刊 2頁

4. 交渉の成行見守る深刻な根室の表情 安全操業の実現を

1958年（昭和33年）4月4日 東京 朝刊 5頁

5. 朴政権の倒壊懸念 米政府深刻な表情

1964年（昭和39年）6月4日 東京 朝刊 3頁

6. 首脳陣、深刻な表情 手入れの山一証券

1975年（昭和50年）1月11日 東京 朝刊 8頁